



文用知報本日

079399-000-3

特19-600

日本報知用文

篠田 正作/著

M4 1. 3

DAC-3388



兪孫館文修京東

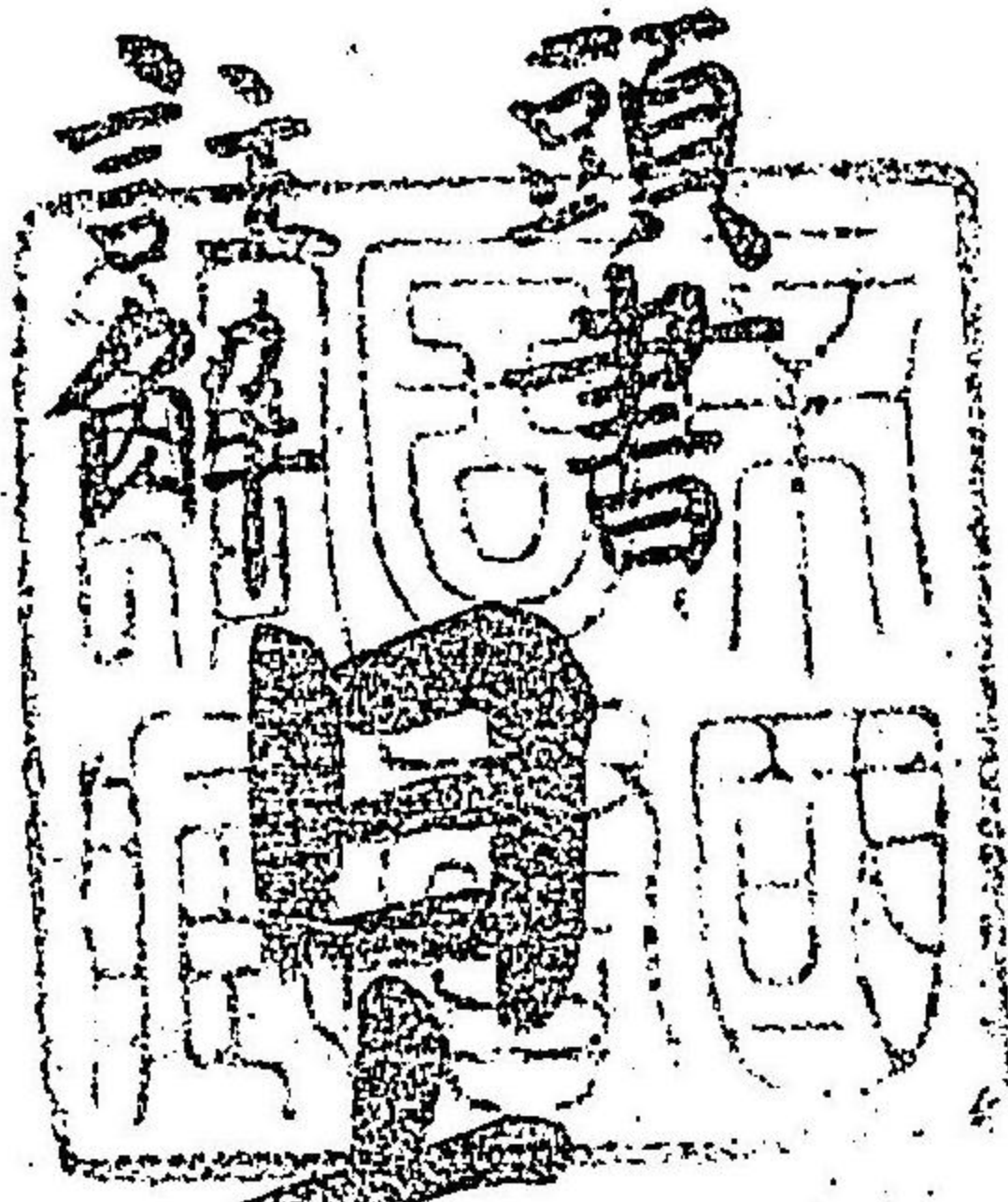
257

320

特19

600

篠田適堂著



本報知用文

東京 博文館發行



凡 例

- 一 本書は初學者獨習の爲に著すものなれば力めて平易の世話文字を用ゐ故らに高尚なる漢語を雜ふるを避けたり是れ文の文字のみ高尚にして其の作意の拙く實際に遠きは初學の入り難きものなればなり
- 一 本書は難かしき聞き慣れ見慣れざる漢語を雜へ専ら通例に異なる形容を文るは做はず是れ偏に實用に適ふを主としたればなり
- 一 本書は故らに部門を別たす専ら類に由りて其の縁あるものを序で出せり例へば病氣の件より全快祝、或は死去、忌中、忌明、年回法事と序でたり是れ亦文を作るに習熟し易きに取れり
- 一 本書部門の名稱より書簡の文題又は文章の註解を要する字句は一々註解したり是れ主として獨習に資するなり

一 本書上欄に漢語解をいろは別として掲げたるは書簡作文を一通り修熟したる後便宜に漢語を驅使するの用に供す斯くいろは別には別にせし上にも塾字の頭字同一のものを一處に輯め字音は一聲のものより二聲以上のものへと序次し濁音は清音終れる次に位置し且つ二聲以上の文字は第二聲も亦いろは順とす(シ部)にて例せば

四肢、	耳語、	庶民、	叙事、	勝算、	商較、	情態、
職責、	奉食、	叱責、	實効、	周旋、	充實、	修繕、
習慣、	謝罪、	邪媚、	斫殺、	雀躍、	識見、	殊遇、
受讀、	出發、	術數、	祝髮、	熟思、	竣功、	順逆、
親疎、	仁怒、					

の如し、傍音に小圈を附したる順次を見るべし、シ、ヨ、ウ、ヤ、ウ、ヨク、ツ、ウ、ユウ、フ、ヤ、ヤク、キ、ユ、ユツ、ユク、ユン、

ンを、以上の内、ヨウとヤウとを分たて、ヤウをヨウの處に籠め、フをウの處に籠めたるは搜索の煩索を避けたるなり覽者請ふ此順次を諒せよ

一 本書二百七十頁以下に證書の部として證書文例を掲載せしは何れも民法實施以後に於ける今日通用のものを擇み、上欄の届書例も亦戸籍法に由りたる届書例中より撰擇せり覽者請ふ亦諒せよ

著者又識



目録

書簡之部

(普通門)

○年始の文	一
○思はぬ先より年始状を 受けたる返書	二
○新年宴會に友を招く文	三
○同 返事	四
○初詣誘引の文	五
○同 返事	六
○寒氣見舞の文	七
○同 返事	八
○早梅を贈る文	九
○同 返事	一〇
○梅見に誘ふ文	一一
○同 返事	一二
○春日野遊を促す文	一三
○同 返事	一四
○花見に誘ふ文	一五
○同 返事	一六
○参宮に誘ふ文	一七
○同 返事	一八
○梅雨中友を招く文	一九
○同 返事	二〇
○螢見に誘ふ文	二一
○同 返事	二二
○暑氣見舞の文	二三

○目録

○同 返事	三
○避暑を約する文	三
○同 返事	三
○納涼誘引の文	四
○同 返事	四
○煙火見に人を招く文	五
○同 返事	五
○萩見に誘ふ文	六
○同 返事	六
○月見に人を招く文	七
○同 返事	七
○菊花を贈る文	八
○同 返事	八
○楓見に誘ふ文	九
○同 返事	九
○同 返事	一〇
○雪見に誘ふ文	一〇
○同 返事	一〇
○歳末物を贈る文	一一
○同 返事	一一
○縁談に付依頼の文	一二
○同 返事	一二
○縁談問合せの文	一三
○同 返事	一三
○婚姻を賀する文	一四
○婚姻後客を招く文	一四
○娘を嫁したる方へ賀する文	一五
○舅の方へ出産を報ずる文	一五
○出産を賀する文	一六

○出産後見舞の文	一七
○同 返事	一七
○小學校へ入学を賀する文	一八
○高等小學校卒業を賀する文	一九
○同 返事	一九
○中學校入学を賀する文	二〇
○學生の上京を賀する文	二一
○滞京の學友へ忠告する文	二二
○留學生の洋行を賀する文	二三
○村長に撰ばれたるを賀する文	二四
○議員當選者を賀する文	二五
○仕官を賀する文	二六
○官吏の昇級を賀する文	二七
○勳章を受たるを賀する文	二八
○轉勤を報ずる文	二九
○轉勤者に贈る文	三〇
○人の在否を問ふ文	三一
○同 返事	三一
○人の着否を問ふ文	三二
○同 返事	三二
○不在中來りし人に謝する文	三三
○人物の良否を問ふ文	三四
○同 返事	三四
○珍客入來を報ずる文	三五
○依頼を受たる件に付人を呼に遣す文	三六
○商人を呼に遣す文	三七
○他所にて滞在中世話になりたる	三八

○ 禮文	七一
○ 同 返事	七二
○ 人の爲に助力を乞ふ文	七三
○ 同 返事	七四
○ 救助を受たるを謝する文	七五
○ 小児の危急を救はれたるを謝する文	七六
○ 未だ逢はざる人に贈る文	七七
○ 久しく逢はざる人に贈る文	七八
○ 同 返事	七九
○ 故郷の両親を訪ふ文	八〇
○ 逃亡者を探ぬる文	八一
○ 同 返事	八二
○ 逃亡者の所在を報ずる文	八三
○ 誕生日に友を招く文	八五
○ 紹介を乞ふ文	八六
○ 同 返事	八六
○ 紹介を受たる禮文	八七
○ 不時の招を斷る文	八八
○ 馳走になりたる後の禮文	八九
○ 旅行を約する文	九〇
○ 同 返事	九一
○ 旅行の約束を斷る文	九二
○ 旅行出發期日問合せの文	九二
○ 同 返事	九三
○ 旅行出發を報ずる文	九四
○ 旅行先より自宅へ着報の文	九五
○ 旅行先より他處に轉じたるを報	九五

○ ずる文	九六
○ 旅行先より自宅へ着類送致を申送る文	九七
○ 歸郷の人歸宅延引の事情を申送る文	九八
○ 旅行先より發足歸宅の事を自宅へ申遣す文	九九
○ 旅より歸着を報ずる文	一〇〇
○ 人の旅より無事歸着せしを祝する文	一〇一
○ 留主中心添依頼の文	一〇二
○ 同 返事	一〇三
○ 留主見舞の文	一〇四
○ 錢別品を贈る文	一〇五
○ 旅より歸りて人を招く文	一〇六
○ 同 返事	一〇七
○ 郷友の來訪を報ずる文	一〇七
○ 同 返事	一〇八
○ 芝居誘引の文	一〇九
○ 同 返事	一一〇
○ 社參誘引の文	一一一
○ 同 返事	一一二
○ 説教聽聞誘引の文	一一三
○ 同 返事	一一三
○ 談話會傍聽誘引の文	一一四
○ 同 返事	一一五
○ 寄席へ誘引の文	一一六
○ 同 返事	一一六

○懇親會へ誘引の文……………	二二七	○近火見舞の文……………	二二九
○同 返事……………	二二八	○近火見舞を受たる先への禮文……………	二三一
○賣家の周旋を請ふ文……………	二一九	○類焼見舞の文……………	二三三
○同 返事……………	二二〇	○落雷見舞の文……………	二三三
○賣家の有無問合せの文……………	二二二	○同返 事……………	二三四
○同 返事……………	二三三	○暴風見舞の文……………	二三五
○借家の搜索を依頼する文……………	二三三	○同 返事……………	二三六
○同 返事……………	二三三	○暴風之際持船の無難を自宅へ報ずる文……………	二三七
○轉居を報ずる文……………	二三四	○洪水見舞の文……………	二三八
○建築落成を賀する文……………	二二五	○同 返事……………	二三九
○新宅へ移轉を賀する文……………	二二六	○津波見舞の文……………	二四〇
○建築落成式に人を招く文……………	二二七	○同 返事……………	二四一
○人の手傳を乞ふ文……………	二二八	○負傷見舞の文……………	二四二
○手傳を受たる禮文……………	二二九		

○同 返事……………	二四三	○出養生先より容體を報ずる文……………	二五五
○盜難見舞の文……………	二四四	○出養生先より全快歸宅を報ずる文……………	二五六
○立退所に借りたる方への禮文……………	二四五	○死去を報ずる文……………	二五七
○醫師へ診察を頼む文……………	二四六	○悔の文……………	二五八
○病氣報知の文……………	二四七	○忌中見舞の文……………	二五九
○急病報知の文……………	二四八	○忌明の禮文……………	二五九
○病變報知の文……………	二四八	○僧侶を請する文……………	二六〇
○重病報知の文……………	二四九	○佛事に人を招く文……………	二六一
○病氣見舞の文……………	二五〇	○退隱を賀する文……………	二六二
○病氣平癒を報ずる文……………	二五一	○家督相續を賀する文……………	二六三
○病氣全快を祝する文……………	二五二	○壽且に客を招く文……………	二六四
○病氣全快祝に人を招く文……………	二五三	○壽且を賀する文……………	二六四
○出養生を勸むる文……………	二五三	○祭禮に人を招く文……………	二六五
○出養生先へ病氣見舞の文……………	二五四		

○同 返事……………	一六六
○書籍の借覽を乞ふ文……………	一六七
○同 返事……………	一六八
○借りたる書籍を返却する文……………	一六九
○器具の借用を乞ふ文……………	一七〇
○同 返事……………	一七〇
○借りたる器具を返却する文……………	一七一
○貸したる書籍を催促する文……………	一七二
○金圓借用の文……………	一七三
○同 返事……………	一七四
○貸品を斷る文……………	一七五
○不快に付約束を斷る文……………	一七六
○誘引を斷る文……………	一七六
○贈品を辭する文……………	一七七
○加盟を勧むる文……………	一七八
○同 返事……………	一七九
○入會勸告を斷る文……………	一八〇
○違約を謝する文……………	一八一
○忘物を取に遣す文……………	一八二
○日用品注文の文……………	一八四
○返金催促の文……………	一八四
○同 返事……………	一八五
○返金之節添て遣す文……………	一八六
○人の情に報ゆる文……………	一八七
○得意先へ贈る年始の文……………	一八九
○開店を賀する文……………	一八九
○開店に付客を招く文……………	一九〇

○得意引合せを依頼する文……………	一九一
○得意先の引合せを受たる禮文……………	一九二
○支店設置吹聴の文……………	一九三
○支店の設置を賀する文……………	一九四
○遠國の得意先へ新形見本を送る文……………	一九五
○新形品賣捌口宜敷に付報告并に掛合の文……………	一九六
○同 返事……………	一九七
○着荷を急ぐ文……………	一九八
○出荷案内の文……………	一九八
○荷物の出否問合せの文……………	一九九
○同 返事……………	二〇〇
○着荷を報する文……………	二〇一
○荷揚處へ荷物の着否を問合せ文……………	二〇二
○同 返事……………	二〇三
○送荷の着否問合せの文……………	二〇四
○同 返事……………	二〇五
○注文品の有無問合せの文……………	二〇六
○同 返事……………	二〇七
○送金案内の文……………	二〇八
○送金着報の文……………	二〇八
○賣込先信用問合せの文……………	二〇九
○同 返事……………	二一〇
○取引先の不信用を忠告する文……………	二一一
○同 返事……………	二一二
○送荷中詰合品間違を申遣す文……………	二二四
○同 返事……………	二二五

○送荷の不足を申遣す文……………	二二六	○同 返事……………	二二七	○同 返事……………	二二九
○追注文の文……………	二二七	○同 返事……………	二二八	○清國商況視察員に贈る文……………	二三〇
○同 返事……………	二二八	○注文品を斷る文……………	二二九	○大連航海回漕業の開業を賀する文……………	二三一
○仕入客の宿所問合せの文……………	二三〇	○同 返事……………	二三一	○滿韓行商の人に贈る文……………	二三三
○同 返事……………	二三一	○仕入先商店問合せの文……………	二三三	○滿洲の様子問合せの文……………	二三三
○同 返事……………	二三三	○同 返事……………	二三三	○同 返事……………	二三四
○仕入客の同行家族を饗する文……………	二三三	○大連開店賣品の様子問合せの文……………	二三五	○同 返事……………	二三六
○同 返事……………	二三四	○同 返事……………	二三五	○大連行廻航船へ便船依頼の文……………	二三七
○實業銀行取引を勧むる文……………	二三五	○同 返事……………	二三六	○同 返事……………	二三八
○同 返事……………	二三六	○實業演說會傍聴誘引の文……………	二三七	○博覽會へ出品を勧告する文……………	二三九

○同 返事……………	二四〇	○廣告文案依頼の文……………	二五三
○賞牌受領祝に人を招く文……………	二四一	○新聞社へ廣告文掲載を頼む文……………	二五四
○難破船見舞の文……………	二四二	○工場開に人を招く文……………	二五五
○同 返事……………	二四三	○同 返事……………	二五六
○積入船出帆問合せの文……………	二四四	○注文同時に付製品延日を乞ふ文……………	二五七
○同 返事……………	二四五	○訛品に付問合せの文……………	二五八
○積入船着否問合せの文……………	二四六	○同 返事……………	二五九
○同 返事……………	二四七	○徒弟雇入依頼の文……………	二六〇
○發明品製造販賣金依頼の文……………	二四七	○同 返事……………	二六〇
○同 返事……………	二四九	○職長推舉の人へ謝する文……………	二六一
○金方不承諾を報ずる文……………	二五〇	○解雇を報ずる文……………	二六二
○同 返事……………	二五〇	○豊作祝の文……………	二六三
○金方承諾を報ずる文……………	二五一	○同 返事……………	二六四
○同 返事……………	二五二	○川替を聞て賀する文……………	二六五
○會社株主加盟を勧むる文……………	二五二		
○同 返事……………	二五二		

○田圃普請落成を賀する文……………二六六

○良種子を贈られたるを謝する文……………二六七

○養蠶所落成を賀する文……………二六八

○作男雇入周旋を依頼する文……………二六九

證書之部

○金員借用證書……………二七一

○金員借用證書(保証人負擔證)……………二七二

○金員借用證書(有價證券抵當)……………二七四

○金員連帶借用證書……………二七六

○金員月賦借用證書……………二七八

○講金借用證書……………二七九

○地所書入金員借用證書……………二八一

○建物書入金員借用證書……………二八三

○地所二番抵當書入證書……………二八四

○借家證書……………二八七

○借地證書……………二八九

○建物賣渡契約書……………二九三

○建物買受契約書……………二九五

○家附物賣渡書……………二九八

届書之部

○出生届(其一)……………二七一

○同(其二)……………二七二

○同(其三)……………二七三

○私生子認知届(其一)……………二七四

○同(二)……………二七五

○同(其三)……………二七六

○養子縁組届……………二七七

○養子離縁届……………二七九

○婚姻届……………二八一

○入夫婚姻届……………二八三

○離婚届……………二八五

○死亡届……………二八七

○家督相續届……………二八七

○家督相續人指定届……………二八八

○家督相續人取消届……………二八九

○入籍届(其一)……………二九〇

○同(其二)……………二九一

○同(其三)……………二九二

○離籍届(其一)……………二九三

○同(其二)……………二九四

○廢家届……………二九五

○廢家(絶家)再興届……………二九七

○氏復舊届……………二九八

○名改稱届……………二九九

○族稱變更届……………三〇〇

目録終



漢語解

〔イ部〕
 依違 イヂ ツツチモ
 依頼 イライ タノム
 依約 イヤク モトノマ
 依然 イゼン ソノマ
 怡悅 イエツ ヨロコブ
 倚頼 イライ ヨリニ
 移轉 イデン ヲハル
 一新 イツシン アラタム
 一握 イチク ヒトニギ
 一併 イチペイ ニスルヨ
 一開 イチカイ ヒラクニ
 一斑 イチパン ヒトモヤ

文章註解

〔普通門〕
 ○年始の文
 年始 ねんし こしの 新年 しんねん あたらし 御慶 ごけい
 千里同風 せんりどうふう なほく 御全家 ごぜんか
 御健康 ごけんかう 御超歲 ごてうさい
 奉恭賀候 ほうこうがこう 御超歲 ごてうさい
 家 か 無異 むい 加年 かねん
 仕候間 しこうま 昨 ま 御 ご
 休神 きうしん 誠 まこと 昨年中 まねんちゆう
 難 なん 申 まをす 盡 まこと 御 ご
 命 いのち 蒙 かか り 奉 ほう 謝 しゃ 候 こう
 親之程 おんのほど 願 ねが 致 いた 候 こう へ

頭書 增補日本報知用文

書簡之部

〔普通門〕

○年始の文
 新年之御慶千里同風日出度申納候
 先以御全家無御變愈御健康御超歲
 被成奉恭賀候次に弊家無異加年仕
 候間昨憚御休神可被下候誠に昨年
 中は難申盡御休命を蒙り艱有奉鳴
 謝候尚本年も不相變御懇親之程偏

篠田適堂著

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

一毫ノケホ
 一概ナシナベ
 優厚モノナサ
 優待ラヒシ
 逸遊ナマケル
 逸道シカカ
 逸群ナメス
 逸才同上
 温美ホメヌキ
 遊治ワヘキ
 遊蕩ノラケラ
 遊偵シノヒモ
 遊惰ナマケル
 雄傑ツヨクシテ

ばつてみれば一昨年越えて
 夫の戦争續いて泰
 平よりたる形象か 歳首はじめ
 の長閑たる年甫は御祝詞
 如 此 恐 惶 頓 首
 思はぬ先より年始
 状を受けたる返書
 御年賀の奉深謝候
 如仰先以御慶目出度奉存候貴家御

に奉願上度候回顧致候へば一昨年
 より昨年に越えて夫の戦争續いて何
 となく心落着不申候處平和克復に
 相歸し候て本年は大に泰平の形象
 顯はれ歳首の心持も格別長閑に存
 候先は右年甫之御祝詞申上度如此
 に御座候恐惶頓首
 ◎思はぬ先より年始状を
 受けたる返書
 御早々御年賀に預り難有奉深謝候
 如仰先以御慶目出度奉存候貴家御

雄辯ヨクモノ
 雄悍シクダケ
 雄鷲同上
 友愛ナカヨシ
 悠然ツキシナ
 有志シアルヤ
 宥恕アルス
 憂心シシナイ
 猶豫タラフ
 覆賣ル
 隠秘ナイシヨ
 隠蔽ヲクス
 胤裔シレン
 允可オユルシ

乍慮外に御放念候由
 舊年聊か特に
 御禮辭申却て痛入候尚本年は
 入候倍舊候は是
 よりわたり奉希望候
 乍遅延に貴酬に旁ら
 御祝辭申述候
 再拜
 ◎新年宴會に友を
 招く文
 宴會の招くに拜啓
 佳例に親友に貴公
 御迷惑に午後御
 來車で爲差すは只々

一同様御堅固にて御越年被成候由
 奉敬賀候降て弊居幸に馬齡を加へ
 候間乍慮外御放念可被下候舊年聊
 御心添申上候事特に御悦に相成厚
 き御禮辭相受却て痛入候尚本年は
 倍舊御懇親之程是より奉希望候乍
 遅延貴酬旁年始之御祝辭申述候再
 拜
 ◎新年宴會に友を招く文
 拜啓明日は毎年佳例にて親友に寄
 り聊か新年宴會相開度貴公も親友

○漢語解

○文章註解

○赤簡之部 普通門

敗北マケテニ 一興もいふの貴兄は 御同輩出デアルイテ 情ほしめし陪遊も所希のぞ不神史ウラシト 宣はるの

○同返事
御参詣なり御懇切に 御誘引も奉謝候おれし 如仰おつしや冬籠りおひださる野邊の一覽も 眺めては歩一入ひつのお 歸路から 歩行から 一酔ひ候事おもしろ 至味ひ候事おもしろ 極へる目下は 尙武寒風おせ 曝しあてて 身體

候瀛車も宜敷候へ共片道丈は歩行致しあれ是れ道草致候も一興と存候貴兄若し御同情に御座候はゞ陪遊所希に御座候不宣

○全返事
初卯御参詣之由にて御懇切に御誘引被下難有奉謝候如仰長々之冬籠りにて野邊之景色も忘るゝ許りに候へば一覽致度と存居候枯野之眺めも又一入に付歸路は歩行にて一酔之興味味ひ候事至極宜敷候はん且

拔擢グルア 強壯にして 護國を以寸簡にて伺上候ますは 昨今はきの非非常の 寒氣實に近年に稀なる事と存候尊宅御一同御障りも無御座候哉弊方幸に無異に御座候間乍憚御降慮可被下候弊地は市街にて暖地と申地なるに斯く嚴寒なれば御地は一層嚴敷

○寒氣見舞の文
以寸簡にて伺上候ますは 昨今はきの非非常の 寒氣實に近年に稀なる事と存候尊宅御一同御障りも無御座候哉弊方幸に無異に御座候間乍憚御降慮可被下候弊地は市街にて暖地と申地なるに斯く嚴寒なれば御地は一層嚴敷

目下尚武之折柄に候へば面を寒風に曝し身體を強壯にして護國の責に任ずる覺悟も可然必々陪行可期候不具敬復

○寒氣見舞の文
以寸簡にて伺上候ますは 昨今はきの非非常の 寒氣實に近年に稀なる事と存候尊宅御一同御障りも無御座候哉弊方幸に無異に御座候間乍憚御降慮可被下候弊地は市街にて暖地と申地なるに斯く嚴寒なれば御地は一層嚴敷

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

邦國ノコト 御地ニ於て時下ノ御事
邦憲ヲ守ル 御自愛ニ如斯クヤ 乍末
報告シラス 毫末ノ御致聲ヲ乞
報恩シガハ 敬白ス
報警ヲダラシム
褒賞ノ事 御懇書ニ忝拜見仕候如命本年殊ニ昨
芭苴ノ事 見仕候如命 命無事之由
亡魂シキマ 殊ニ御一家御無事之由
亡命ノ事 候是より御存問可申上之處御
旨味ズシラ 存問ニ御厚意奉深謝候弊郷は山
盲却ノ事 謝候御地ニ御厚意奉深謝候弊郷は山
妄言ヲシ 謝候御地ニ御厚意奉深謝候弊郷は山
茫洋ナルコト 謝候御地ニ御厚意奉深謝候弊郷は山
乏絶クナル 謝候御地ニ御厚意奉深謝候弊郷は山

候半時下折角御自愛可被成候先は
寒氣御見舞申上度如斯ク御座候乍
末毫御一同へ宜敷御致聲を乞敬白
○全返事
御懇書忝拜見仕候如命本年殊ニ昨
今は嚴寒に候處御一家御無事之由
奉賀候是より御存問可申上之處御
尋に預り御厚意奉深謝候弊郷は山
村鄙地にて御地とは餘程温度も低
く格別嚴敷相覺候乍併寒當りの者
も無之候間乍憚御放慮可被下候先

傍聴ノ事 御答禮の候に御自重
傍觀ノ事 御自重
防禦ノ事 御自重
防衛ノ事 御自重
貿易ノ事 御自重
髦俊ノ事 御自重
髦期ノ事 御自重
法則ノ事 御自重
薄材ノ事 御自重
薄俸ノ事 御自重
博學ノ事 御自重
博愛ノ事 御自重
博徒ノ事 御自重
博識ノ事 御自重

は右御答禮迄時下折角御自重可被
成候百拜
○早梅を贈る文
餘寒不退候處御一家愈御清穆に被
為在候哉同上候隨て此梅二三枝昨
今開初候に付御書齋之御愛玩に
と存呈上仕候新年以來雪續にて陽
に花も目に懸り不申候處雪消之後
多く蓄相顯はれ春陽に遇ひ斯も開
初候事實以心地宜敷自分聊賞美致
候故不取敢御目に懸け申候御挿用

○漢語解
○文章註解
○番簡之部 普通門
九

白双ハツジツ、白京ハクキョウ、拍手ハツシュ、取雑トウザツ、博學ハクガク、莫大マクタイ、燕然エンゼン、漠然マクゼン、遐遠ケダケン、犯罪ハンザイ、犯則ハンソク、繁榮ハンエイ、繁衍ハンエン、蟠結ハンケツ、
ハツジツ 白双、ハクキョウ 白京、ハツシュ 拍手、トウザツ 取雑、ハクガク 博學、マクタイ 莫大、エンゼン 燕然、マクゼン 漠然、ケダケン 遐遠、ハンザイ 犯罪、ハンソク 犯則、ハンエイ 繁榮、ハンエン 繁衍、ハンケツ 蟠結、
 ○同返事
 早咲ハヤサキ、御梅枝ウメエ、被レ懸貴意ケキイ、御惠ウヂ、被下レ難ガタク、
ハヤサキ 早咲、ウメエ 御梅枝、レ 被、ケキイ 懸貴意、ウヂ 御惠、レ 被、ガタク 下難、
 ○全返事
 有拜受仕候ウツセウシケウ、當年タウネン、誠マコト、に餘寒ヨリカサム、嚴敷シクツク、就ツキ、
ウツセウシケウ 有拜受仕候、タウネン 當年、マコト 誠、ヨリカサム 餘寒、シクツク 嚴敷、ツキ 就、
 御贈被下ウケオケレ、非常ヒジョウ、嬉敷存ウレシクオソ、候雪ケウセツ、の下萌ノシタモ、
ウケオケレ 御贈被下、ヒジョウ 非常、ウレシクオソ 嬉敷存、ケウセツ 候雪、ノシタモ の下萌、
 重オモク、力チカラ、に相堪オモコ、へ遂ツキ、に生育セイイク、笑顔エガヨ、を顯アハ、し、
オモク 重、チカラ 力、オモコ に相堪、ツキ へ遂、セイイク に生育、エガヨ 笑顔、アハ を顯、シ し、
 何ナニ、れ拜顔ハハノ、御禮ウヂレ、可コト、申上マウシカゲ、候頓首ケウテンシウ、
ナニ 何、ハハノ れ拜顔、ウヂレ 御禮、コト 可、マウシカゲ 申上、ケウテンシウ 候頓首、

般逸ハンイツ、藩離ハンリ、凡百ハンバク、範圍ハンガン、範模ハンモ、煩悶ハンモン、判斷ハンダツ、判然ハンゼン、斑斕ハンペン、斑雜ハンザツ、晚暮ハンボク、晚學ハンガク、挽回ハンクワニ、
ハンイツ 般逸、ハンリ 藩離、ハンバク 凡百、ハンガン 範圍、ハンモ 範模、ハンモン 煩悶、ハンダツ 判斷、ハンゼン 判然、ハンペン 斑斕、ハンザツ 斑雜、ハンボク 晚暮、ハンガク 晚學、ハンクワニ 挽回、
 ○梅見ウメミに誘ふ文ユフモノ
 月ツキ、瀬セ、の梅目ウメメ、今イマ、満開マンカイ、之ノ、由ユ、南都ナンツ、の知人チジン、
ツキ 月、セ 瀬、ウメメ の梅目、イマ 今、マンカイ 満開、ノ の、ユ 之、ナンツ 南都、チジン の知人、
 方カタ、より報越ハヤシ、候例年ケウレイネン、梅屋敷ウメヤシキ、の花ハナ、は遊ユウ、
カタ 方、ハヤシ より報越、ケウレイネン 候例年、ウメヤシキ 梅屋敷、ハナ の花、ユウ は遊、
 覽ラン、致候チケウ、へ共花樹トモハナキ、も少ウチ、く且カハ、亦見飽オモヒ、候ケウ、
ラン 覽、チケウ 致候、トモハナキ へ共花樹、ウチ も少、カハ 且、オモヒ 亦見飽、ケウ 候、
 故本年コトネン、は山間サンカン、自然シゼン、の梅花ウメバナ、は物言モノイ、ふ、
コトネン 故本年、サンカン は山間、シゼン 自然、ウメバナ の梅花、モノイ は物言、フ ふ、
 者シヤ、に非ヒ、ず好コトウ、友無トモナシ、之候ノケウ、ては梅ウメ、花ハナ、に、
シヤ 者、ヒ に非、コトウ ず好、トモナシ 友無、ノケウ 之候、ウメ ては梅、ハナ 花、ニ に、
 て價少テバシ、く思オモ、はれ候依ケウヨ、て甚シク、御迷ウヂメ、惑ウツ、に、
テバシ て價少、オモ く思、ケウヨ はれ候依、シク て甚、ウヂメ 御迷、ウツ 惑、ニ に、
 候へ共ケウニトモ、且カハ、は語カガ、り且カハ、は見充ミチク、分の快樂ブンノクワク、
ケウニトモ 候へ共、カハ 且、カガ は語、カハ り且、ミチク は見充、ブンノクワク 分の快樂、
 致候チケウ、ては如何ニカニ、御賢ウヂサトウ、慮リョ、伺上ウケウケ、候間ケウマ、否哉ヒナカ、
チケウ 致候、ニカニ ては如何、ウヂサトウ 御賢、リョ 慮、ウケウケ 伺上、ケウマ 候間、ヒナカ 否哉、
 御一報ウヂヒツ、を乞ふ草々不盡ウヂヒツヲコヒクソコナクシヤ、
ウヂヒツ 御一報、ウヂヒツヲコヒクソコナクシヤ を乞ふ草々不盡、

○漢語解
 ○文章註解
 ○清簡之部 普通門
 十一

萬姓マンセイ 萬方マンホウ 雪耻セツシ 裂席レツセキ 循法ジュンポフ 入費ニラヒ 入港ニラコ 入寇ニラコク 柔弱ニウジヤク 〔本部〕 輔翼ホヨク 輔關ホクワン 捕虜ホリョ

萬姓マンセイ 萬方マンホウ 雪耻セツシ 裂席レツセキ 循法ジュンポフ 入費ニラヒ 入港ニラコ 入寇ニラコク 柔弱ニウジヤク 〔本部〕 輔翼ホヨク 輔關ホクワン 捕虜ホリョ

○同返事
非常之御奮發にて遠行月瀬の梅御
觀覽之由梅屋敷見飽云々は小生も
同情に御座候依ては月瀬行の一條
僕亦同意致さるを得ず幸の折柄
故陪觀可致歸路は奈良にて一兩日
遊び尚又河内路に歸り候へば四條
叡神社を拜し關西鐵道汽車にて歸
着致度心得に御座候御請迄草々
○春日野遊を促す文
逐日春暖相催し野邊之景色も一入

捕縛ホバク 捕逃ホトウ 匍伏ボフツク 談訓タンクン 沒收ボツシュ 勃然ボツゼン 豊凶トウキョウ 豊穰トウジヤク 烽煙ホウエン 蜂起ホウキ 奉職ホウシヨク 奉復ホウフク 奉養ホウヤウ 表延ヒョウエン

麗に相成家に在るも鬱々致候承候
へば其處の桃林觀客餘程打集候由
一籃一瓢を携へ觀覽致候も徒事に
は無之と存候貴君若し御同情に御
座候はゞ聯歩同行一覽の後夫是野
邊之漫歩致度村家に茶を喫し芝生
に休らひ候なご至極爽快相覺候半
御都合伺上候也不悉
○全返事
懇翰拜誦如命春めき候に就ては何
となく浮立申候此際終日處定めず

○文章註解 普通門 十三

鳳閣ホウカク 鳳雛ホウシュ 寶璽ホウシ 寶祥ホウショウ 寶益ホウイク 萌兆モウシヨウ 萌葉モウエフ 保護ホゴ 僕者ボクシャ 精問セイモン 朋友トモ 暴威ボウイ 暴發ボウハツ 暴舉ボウキョ

此際ココノトキの終日シユウジツは漫歩マンポあり 衛生術エイセイジュツやうじに桃モモ林リン満開マンカイあり 主ヌシとして 談笑タンシャウはなし 同歩ドウポに 愉快ウエキはなし 實ジツ以ヨリ御同意ミドウイ 支度シタクに可罷出候マカシタマハス草々ソソコソ 以復イフク

漫歩マンポ致候チカウは大に衛生術エイセイジュツにも相叫アイカウ可コト 申殊ウケテに桃林モモリン満開マンカイと承候ウケテへば之コレを主ヌシ として談笑タンシャウ同歩ドウポ致候チカウ事愉快ウエキ此上ココノカミ不ズ 可有アハル實ジツ以ヨリ御同意ミドウイに御座候ミマサマニイデ貴處キヂは道ミチ 順ジュンに付今ツキイマより支度シタク致し可罷出候マカシタマハス草々ソソコソ 以復イフク

○花見ハナミに誘ふ文サソブモノ 嵐山アザヤマの櫻花オウゴン昨今キノイマ満開マンカイ之由ノユ該地ケイヂは花ハナ 而已ニシテならず渡月橋ワツゲハシの邊ノヘリ風景フウケイ比類ヒレイ 無之ナシとも存候ゾクニイデ就ては洛西ラクサイ名所ナショ古蹟コセキ 多く頗オホシる考カウ古コの雅興ガキウをも相添アイソヘ候へ

鋒刃ホウジン 鋒芒ホウマウ 矛盾マウジュ 謀略ボウリョク 謀士ボウシ 北陲ホクシ 木強キキヤウ 木訥キダツ 撲滅ボクメツ 撲滿ボクマン 牧伯ボクハク 朴素ボクソ 本末ホンマツ 本領ホンリョウ

古蹟コセキのありは頗オホシる考カウ古コの雅興ガキウをも相添アイソヘ候へ 所圖ショトウ會カイなご相携アイソヘ緩々ケンケン御同遊ミドウユ 御同遊ミドウユは明朝ミョウチャウ一番イチバン氣車キクルマにて 發程ハツチョウ致度チタク候不備ムベヒ

○同返事ドウヘンシ 花見ハナミに御誘引ミサソビに所謂シヨウゴト 愉快ウエキ之ノに如くも 御説ミセツの通山水ツウサンスイ絶景ツツケイに候へば花ハナ の 價ツカも一層イチソウ相増アイソヘと酒サケも昔ムカシく肴サカナも味アジよ 候事チカウ京キョウ都ト野ノ外ノの特トク有アリに御座候ミマサマニイデ野生ノセ

○全返事ゼンヘンシ 花見ハナミ御誘引ミサソビに預アツカり難ガタク有アリ存候ゾクニイデ所謂シヨウゴト 春ハルは花ハナにて愉快ウエキ之ノに如くも 無ナシ之ノ殊コト 御説ミセツの通山水ツウサンスイ絶景ツツケイに候へば花ハナ の 價ツカも一層イチソウ相増アイソヘと酒サケも昔ムカシく肴サカナも味アジよ 候事チカウ京キョウ都ト野ノ外ノの特トク有アリに御座候ミマサマニイデ野生ノセ

翻然ル ホンゼン
 翻刻 ホンコク
 翻譯 ホンヤク
 奔走 ホンソウ
 凡庸 ボンヨウ
 肉骨 ニクツツ
 銜骨 ヘンツツ
 價連 ヘンレン
 挫鋒 ソウホウ
 噬臍 シジ
 〔へ部〕
 平安 ヘイアン
 平穩同上
 平均 ヘイコウ

以手紙にて何上候は、稍程好は、京阪見物兼伊勢參宮に就ては、何地も鐵路相開、遊參歩行に、名所舊跡、以前より、舊驛路も、淋敷に、通行、御同意、御同返事

豫てより望に付必御同行相願度候貴答迄草々
 ◎參宮に誘ふ文
 以手紙御様子伺上候時候も稍程好相成候に就ては京坂見物を兼ね伊勢參宮致度當今は何地も鐵路相開け便利は至極宜敷相成候へ共畢竟は遊參に付緩々歩行にて名所舊跡を巡歴致し以前よりは舊驛路は淋敷候共之を通行し參り度御同意被下候は、御同行致度候不既

平靜 ヘイセイ
 平生 ヘイセイ
 平凡 ヘイバン
 平定 ヘイテイ
 平話 ヘイワ
 平日 ヘイニチ
 并吞 ヘイツン
 兵革 ヘイカク
 兵備 ヘイビ
 兵卒 ヘイソツ
 兵威 ヘイイ
 兵員 ヘイイン
 兵燹 ヘイケン
 閉塞 ヘイソク

拜復 ハイフク
 太神宮 タイカミヤ
 奉謝候 ホウシャウ
 室 ムロ
 不本意 フホンイ
 誘引 ユウイン
 鐵路 テツロ
 舊驛路 キウエキロ
 佛閣 ブツカク
 志願 シガン
 能出 ネデ
 相伺可申候 サイカシコウモウ
 梅雨中友を招く文

◎全返事
 拜復京坂御見物を兼ね皇太神宮御參拜之由御誘に預り難有奉謝候此國に居て皇室御宗廟存不申は不本意に付好き御連も御座候は、共に參拜致度と存居候幸の御誘引故御供願度將亦迂生も急行相望不申鐵路を行くは適宜に致し緩々舊驛路を経て神社佛閣等名所舊跡巡歴致度志願に御座候何れ今夕罷出發日時等相伺可申候草々

○漢語解
 ○文章註解
 ○書簡之部 普通門
 十七

陸下アガメル 連日梅雨あめ甚 徒
 陛戟イコムル 然がな鬱散は 一酌催さ
 弊宅ヒガイル んと存候は 遠東の
 弊色ワコロ 借地まのかりをり 此程の
 弊習ワケキ 大連ルニ出張種々
 呪睥ヒトダス 珍語めつら聴聞き 一盡
 蔽障カラス 獻じ度は 即刻御來
 病癒ルキボケ 臨み來人き 澹泊之人
 聘禮レコヘル 隨生くた 舊知に聊
 聘召マテチケ 心被置間敷候 不盡
 弊帛マキトス
 米粟コノモミ
 別離ワカレ 雲箋拜讀如命 梅雨降續き鬱陶敷困
 蔑視ナイガシ 徒然つく 不

○同 返事
 梅雨あめ 徒然つく 不

○全 返事
 雲箋拜讀如命 梅雨降續き鬱陶敷困

連日之梅雨にて鬱陶敷存候甚徒然
 に付鬱散の爲一酌相催さんと存候
 折柄豫て遠東の借地にも有之此程
 迄大連に出張致居候者参り種々珍
 話有之候右聴聞旁一盡獻じ度候間
 即刻御來臨可被下候來人は至て澹
 泊の人にて隨生舊知に候へば聊御
 心被置間敷候不盡

表的アチチ 堪る書籍は 緋き御書
 表旌ヲモシ 面被奉謝候 即刻
 剽劫オヒガ 可罷出之處 生憎
 漂泊ワケナガ 家族の不在 留主
 少少チイサシ 守候者無之 乍遺憾
 苗裔シロン 参兼候は 直に参趨
 廟堂コウギシ 被下間敷候 不惡
 廟算ヘカセウ 御承知可被下候 被下度
 剽輕カハルソ 草々拜復
 僻邑イナカ ○螢狩に誘ふ文
 僻論ギロナ 此中から出初古來
 僻好スクセ 世人の言傳候
 辟召カマシ 夫の螢合戦 一覽
 返戦カヘシテ 同地山水 風

入候徒然に不堪候故書籍を緋き候
 折柄御書面に預り難有奉謝候即刻
 可罷出之處生憎家族之者不在にて
 留主守候者無之乍遺憾参兼候今に
 も歸來候は直に参趨可仕候間御
 待被下間敷候右不惡御承知被下度
 候草々拜復

○螢見に誘ふ文
 此中の雨にて螢も餘程出初候由古
 來世人の言傳候夫の宇治の螢合戦
 と申もの一覽致度存且同地は山水

○漢語解
 ○文章註解
 ○漢語之部 普通門
 十九

氷結ヒョウケツ 一兩日いちりょうにち 遊覽ゆうらん 如何いかに候哉をうか 御意ごい
 氷解ヒョウゲ 同上 御承ごしょう
 氷姿ヒョウサ 同上 御承ごしょう
 氷海ヒョウカイ 同上 御承ごしょう
 氷人ヒョウジン 同上 御承ごしょう
 氷炭ヒョウタン 同上 御承ごしょう
 氷柱ヒョウチ 同上 御承ごしょう
 氷蘭ヒョウラン 同上 御承ごしょう
 水肌ミヅハ 同上 御承ごしょう
 標目ヒョウメ 同上 御承ごしょう
 標的ヒョウテキ 同上 御承ごしょう
 標榜ヒョウポウ 同上 御承ごしょう
 標柱ヒョウチ 同上 御承ごしょう
 漂流ヒョウリウ 同上 御承ごしょう

一兩日いちりょうにち 遊覽ゆうらん 如何いかに候哉をうか 御意ごい
 見み 同上 候哉をうか 御承ごしょう
 汽車きこ 同上 御承ごしょう
 歩行ほこう 同上 御承ごしょう
 敬具けいぐ
 ○同 返事
 宇治行うぢぎやう 思立おもひだ たれ 御承ごしょう
 御誘引ごゆういん 固かた より 御承ごしょう
 所ところ にて 頗おほ る 見物けんぶつ
 有あ 之の 菊屋きくや は 有名ゆうめい
 第一だいいち 同地どうち の 茶商ちやかう 店てん
 二間にま の 水みづ の 甘あま さを 試こころ み 扇あふぎ 芝しば 平ひら
 の 風景ふうけい も 宜敷よろしく 候へば 一兩日いちりょうにち 遊覽ゆうらん 如
 何いかに 候哉をうか 御意ごい 見み 同上 候若をうか し 御承ごしょう 諾だく
 候は 瀛車えいしや にて 程好ほどよ 地ち ま で 参り
 夫それ より 歩行ほこう にて 道筋みちすぢ の 名所めいしよ 舊跡きよせき を
 も 一覽いちらん の 積りつみり に 御座候ござう 敬具けいぐ
 ○全 返事
 宇治行うぢぎやう 思立おもひだ たれ 御誘引ごゆういん に 預りあづか 難有
 存候ぞんかう 螢へい は 固かた より 名所めいしよ にて 頗おほ る 見物けんぶつ
 に 可有かゆう 之の 菊屋きくや は 有名ゆうめい の 候へ
 ば 之の を も 承知しょうち 致度ちど 第一だいいち 同地どうち の 茶商ちやかう 店てん
 三間さんま の 水みづ の 甘あま さを も 試こころ み 扇あふぎ 芝しば 平ひら

漂著ヒョウシヤク 同上 御承ごしょう
 漂的ヒョウテキ 同上 御承ごしょう
 漂瀾ヒョウラン 同上 御承ごしょう
 邊防ヘンポウ 同上 御承ごしょう
 邊邑ヘンイ 同上 御承ごしょう
 邊睡ヘンスイ 同上 御承ごしょう
 邊關ヘンカン 同上 御承ごしょう
 僻陬ヘクソウ 同上 御承ごしょう
 僻安ヘクアン 同上 御承ごしょう
 偏重ヘンチュウ 同上 御承ごしょう
 偏歴ヘンレキ 同上 御承ごしょう
 偏秩ヘンシツ 同上 御承ごしょう
 編緝ヘンシツ 同上 御承ごしょう
 駢脅ヘンキョウ 同上 御承ごしょう

宇治橋うぢはし 巡覽じゆらん 致候ちかう は 大に
 懷舊わいきゆう の 念ねん も 可生かせい 必御供かならば 可致かち 御答ごたふ ま
 で 草々くさくさ 頓首とんすう
 ○暑氣見舞の文
 拜啓はいけい 甚暑じんじゆ 之節せつ に 御座候處ござう 御全家ごぜんか 御
 揃そろ 御健康ごけんかう に 御消光ごしょうかう 被成候哉まか 奉伺上ほうかひじやう
 候土用かうどよう とは 午申うま 昨今さくけ 之暑熱じよねつ 非常ひじやう に
 て 虎列これつ 刺患さくわん 者も 隨分ずいぶん 有之趣あ 其他か 平
 病者びやうしや も 不少すくなく 由よし に 候へば 御同ごどう 様衛生やうせい
 上之注意じやうのちゆうい 專一せんいつ と 存候降ぞんかう て 弊方へいほう 皆々
 無事むじ に 御座候間ござう 午憚うま 御放念ごはうねん 可被下か

○漢語解
 ○文章註解
 ○書簡之部 普通門
 二十一

駢死ヘンシ 駢比ヘンヒ 變革ヘンカク 變更ヘンギョウ 辨事ベンジ 辨才ベンサイ 辯士ベンシ 勉勵ベンリ 勉勵ベンリ 觀兵カンヘイ 按兵アンヘイ 將兵シャウヘイ 師兵シヘイ 足兵ソクヘイ

○同 返事
 尊書ソンショ 忝カタク 拜見ハイケン 仕候シカウ 如仰ニホウ 大暑ダイショ 御座候ミマシタカウ 草々ソソ 敬具ケイキ

○全 返事
 尊書ソンショ 忝カタク 拜見ハイケン 仕候シカウ 如仰ニホウ 大暑ダイショ 之ノ 初ハジメ 御座候ミマシタカウ 草々ソソ 敬具ケイキ

先は暑中御見舞迄如此に御座候草々敬具

配兵ヘイヘイ 支兵シヘイ 勸兵クワンヘイ 撥快ハツクワイ 革弊カクヘイ 解兵ゲイヘイ

【卜部】
 都巖トイ 都市トシ 都鄙トヒ 都閑トカン 斗筭トサン 斗絶トツツ 徒法トハフ

○避暑を約する文
 一書イツショ 拜呈ハイテイ 呈仕候テイシカウ 土用ツヨウ とは午申ウマシ 兩三日リウサンニチ 以來イライ 非常ヒョウジョウ 酷熱コウネツ 御座候ミマシタカウ 敬復ケイフク

○避暑を約する文
 一書イツショ 拜呈ハイテイ 呈仕候テイシカウ 土用ツヨウ とは午申ウマシ 兩三日リウサンニチ 以來イライ 非常ヒョウジョウ 酷熱コウネツ 御座候ミマシタカウ 敬復ケイフク

之事故衛生上の注意第一と存候時
 下折角御自愛可被成候敬復

○漢語解

○文章註解

○漢語之部 普通門

徒然(ゼン) 御同行(ごどうかう)にゆく 同處(どうちよ) 侍(さむらい)の御座候(ござこう)は、御同行(ごどうかう)致度候(いたささう)尤(もつとも)同處(どうちよ)に
 徒然(ゼン) 御座候(ござこう)は、御同行(ごどうかう)致度候(いたささう)尤(もつとも)同處(どうちよ)に
 徒然(ゼン) 御座候(ござこう)は、御同行(ごどうかう)致度候(いたささう)尤(もつとも)同處(どうちよ)に
 徒然(ゼン) 御座候(ござこう)は、御同行(ごどうかう)致度候(いたささう)尤(もつとも)同處(どうちよ)に
 徒然(ゼン) 御座候(ござこう)は、御同行(ごどうかう)致度候(いたささう)尤(もつとも)同處(どうちよ)に
 徒然(ゼン) 御座候(ござこう)は、御同行(ごどうかう)致度候(いたささう)尤(もつとも)同處(どうちよ)に
 徒然(ゼン) 御座候(ござこう)は、御同行(ごどうかう)致度候(いたささう)尤(もつとも)同處(どうちよ)に
 徒然(ゼン) 御座候(ござこう)は、御同行(ごどうかう)致度候(いたささう)尤(もつとも)同處(どうちよ)に
 徒然(ゼン) 御座候(ござこう)は、御同行(ごどうかう)致度候(いたささう)尤(もつとも)同處(どうちよ)に
 徒然(ゼン) 御座候(ござこう)は、御同行(ごどうかう)致度候(いたささう)尤(もつとも)同處(どうちよ)に
 徒然(ゼン) 御座候(ござこう)は、御同行(ごどうかう)致度候(いたささう)尤(もつとも)同處(どうちよ)に

○同 返事
 御紙面(ごしめん)が捧讀(ほうどく)山村(やまむら) 御紙面(ごしめん)が捧讀(ほうどく)山村(やまむら)
 御紙面(ごしめん)が捧讀(ほうどく)山村(やまむら) 御紙面(ごしめん)が捧讀(ほうどく)山村(やまむら)
 御紙面(ごしめん)が捧讀(ほうどく)山村(やまむら) 御紙面(ごしめん)が捧讀(ほうどく)山村(やまむら)
 御紙面(ごしめん)が捧讀(ほうどく)山村(やまむら) 御紙面(ごしめん)が捧讀(ほうどく)山村(やまむら)

○全 返事
 御紙面(ごしめん)が捧讀(ほうどく)山村(やまむら) 御紙面(ごしめん)が捧讀(ほうどく)山村(やまむら)
 御紙面(ごしめん)が捧讀(ほうどく)山村(やまむら) 御紙面(ごしめん)が捧讀(ほうどく)山村(やまむら)
 御紙面(ごしめん)が捧讀(ほうどく)山村(やまむら) 御紙面(ごしめん)が捧讀(ほうどく)山村(やまむら)
 御紙面(ごしめん)が捧讀(ほうどく)山村(やまむら) 御紙面(ごしめん)が捧讀(ほうどく)山村(やまむら)

統(トウ) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き)
 統(トウ) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き)
 統(トウ) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き)
 統(トウ) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き)
 統(トウ) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き)
 統(トウ) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き)
 統(トウ) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き)
 統(トウ) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き)
 統(トウ) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き)
 統(トウ) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き) 萬事(ばんじ)にて 相伺(あひま)はる貴(き)

○納涼誘引の文
 昨今(きのう) 暑熱(しよねつ)は 格別(かくべつ) 身體(しんたい)に 相應(あひま)へ 候(こう)
 昨今(きのう) 暑熱(しよねつ)は 格別(かくべつ) 身體(しんたい)に 相應(あひま)へ 候(こう)
 昨今(きのう) 暑熱(しよねつ)は 格別(かくべつ) 身體(しんたい)に 相應(あひま)へ 候(こう)
 昨今(きのう) 暑熱(しよねつ)は 格別(かくべつ) 身體(しんたい)に 相應(あひま)へ 候(こう)
 昨今(きのう) 暑熱(しよねつ)は 格別(かくべつ) 身體(しんたい)に 相應(あひま)へ 候(こう)

黨與トウウヨ 御様子ミヤウツ 相伺候サウキウ 候不コト
 謙直ケンチキ 宣ノボシ
 謙言ケンゴン 謙言ケンゴン
 當面トウメン 當面トウメン
 當時トウジ 當時トウジ
 常直トウジキ 常直トウジキ
 常雨トウウ 常雨トウウ
 偷安トウアン 偷安トウアン
 棟梁トウリヤウ 棟梁トウリヤウ
 頭領トウリヤウ 頭領トウリヤウ
 洞察トウサツ 洞察トウサツ
 動搖トウヤウ 動搖トウヤウ
 動心トウシン 動心トウシン
 動靜トウセイ 動靜トウセイ

御様子ミヤウツ 相伺候サウキウ 候不コト
 宣ノボシ
 ○同 返事
 如仰カウ 昨今クノイマ 暑シ
 熱アツク 堪兼タカヘ 申候マウコト
 大オホ 川邊カハヘ 出掛デカケ 候コト
 生ナマ 遊アソビ 致度チヂドウ 渡ワタリ
 今イマ 舟フネ 必カナラシ 御配慮ミバイロ
 用意ヨウイ 相願候サウガンコト 共トモ
 料理ライリ 當方トウハツ 用ヨウ
 意致候間イヂコト 左様サマ
 御承知ミヤウチ 可被下コト 右御答ミヤウコタヘ 迄マデ
 不コト 乙コト

へば互たがひに座上ゼウジョウの戦争センサウも可致得コト右御
 様子ミヤウツ相伺候サウキウ候不コト宣ノボシ
 ◎全返事
 如仰カウ 昨今クノイマ 暑シ 堪兼タカヘ 申候マウコト
 大オホ 川邊カハヘ 出掛デカケ 候コト 由ヨ 小生コナマシ も一ヒト
 遊アソビ 致度チヂドウ と存居候ゾンイコト 折柄セカゲ 付渡ツクワタリ りに舟フネ
 の心持ココロモチ に御座候ミヤウザコト 依ヨ て今夕イマセキ は必カナラシ 御供ミヤウク
 可仕御配慮コシミヤウバイロ に從ツ ひ舟フネ は御用意ミヤウヨウイ 相願サウガン
 候へ共酒トモサケ と料理ライリ は當方トウハツ にて用意ヨウイ 可コト
 致候間チコト 左様サマ 御承知ミヤウチ 可被下コト 右御答ミヤウコタヘ 迄マデ
 草々不クサクサコト 乙コト

同盟トウメイ 同盟トウメイ
 同僚トウリヤウ 同僚トウリヤウ
 同志トウシ 同志トウシ
 特出トクシュツ 特出トクシュツ
 特命トクメイ 特命トクメイ
 特將トクシヤウ 特將トクシヤウ
 特使トクシ 特使トクシ
 德澤トクサツ 德澤トクサツ
 德化トクカ 德化トクカ
 督府トクフ 督府トクフ
 督責トクサツ 督責トクサツ
 篤實トクジツ 篤實トクジツ
 篤厚トクコウ 篤厚トクコウ
 篤學トクガク 篤學トクガク

○煙火見エンビミに人ヒトを招マカ
 文フミ
 拜啓ハイキ 陳チン 弊屋ヘイヤ
 近隣キンリン 某會社ケイシャ
 昨年クノイマ 以來イマ 御用達ミヤウヨウダツ
 首尾シュビ 好相勤コウコウ
 且カ つつ利得リトク 祝宴シユクエン
 餘興ヨウキョウ 數十本ジュウシツポン
 煙火エンピ 納涼ナツゾウ 時トキ 諸人シヨヒト
 人へば御覧ミヤウラン 度合タクアヒ 夕景ユフケイ
 御入來ミヤウイライ 可被下コト 御案内ミヤウ案内 迄マデ
 ○同 返事
 貴書キヤクシヤ 忝カタク 拜讀ハイドク 候コト
 貴書キヤクシヤ 忝カタク 拜讀ハイドク 候コト

◎煙火見エンビミに人ヒトを招マカ
 文フミ
 拜啓ハイキ 陳チン 弊屋ヘイヤ 近隣キンリン 某會社ケイシャ 昨年クノイマ 以來イマ
 之御用達ミヤウヨウダツ 首尾シュビ 好相勤コウコウ 且カ つつ利得リトク 有アル 之
 候祝コト に迎祝ムカヒシユク 宴エン 之餘興ノヨウキョウ 數十本ジュウシツポン 之煙火ノエンピ
 打揚ウチアゲ 此納涼ココナツゾウ 時トキ 幸サイハイ に諸人シヨヒト へ縦覽ジュウラン 爲シ
 致候チコト 私方シカタ 二階ニカイ は是亦幸ココモトモ に打揚ウチアゲ 場バ に
 向ムカヒ ひ觀覽クワンラン 之度合タクアヒ も誠マコト に程好ホドコト 地チ に候コト
 へば御子達ミヤウコタチ 様サマ を御連ミヤウツレ にて夕景ユフケイ よ
 り御入來ミヤウイライ 可被下コト 候右御案内ミヤウ案内 迄マデ 草々クサクサ
 ◎全返事
 貴書キヤクシヤ 忝カタク 拜讀ハイドク 仕候シコト 陳チン 弊屋ヘイヤ 近隣キンリン 煙火エンピ 之

得失ソントラ 陳はて 御近隣に御招
 獨斷ヒトリギ 小生は相好み候故
 屯集ルモロス 申聞候
 屯駐デホルシ 殊の外打悦日没候
 屯守カメメル 納涼風透つら御高
 遁逃ニゲル 樓に爽快相覺候半
 遁走ニゲル 時刻は必々陪觀
 遁辭ニゲル 願首
 遁亡ニゲル 秋見に誘ふ文
 豚犬コライフ 拜白を漸く秋冷の跡
 豚兒同上 相催て 殘暑の跡
 敦厚チアツイ 心を漸く心地宜敷ほど
 頓悟ハヤガチ 秋の天の 淋しに
 吞滅アトル 心も落着いたし 一入り爽

催有之由にて御招に預り難有存候
 小生は至て煙火相好み候故何より
 難有小兒共へ申聞候處殊の外
 打悦今より日没相待程に御座候昨
 今の暑熱にて只さへ納涼致度折柄
 に候へば風透御宜敷御高樓無爽快
 相覺候半時刻には必陪觀可罷出候
 草々頓首
 ◎秋見に誘ふ文
 拜白漸く秋冷相催し殘暑も跡を收
 め心地宜敷相成候秋天淋しと申者

濯徳カラス 快くも 晴天よ 乗じ
 負徳カラス 三番邊へは御賢慮奉伺
 連時デアツニ 候は 御同情に直に
 【チ部】 否哉とて被仰度候
 知告ス 知己トダチ 不悉
 知事チハカフ 同 返事
 知命サヤ 秋天漫歩 漫歩あるき 好時
 智識チエノ 節々 本日 快晴
 智勇チエウ 卜し 思召立候 御
 智略ハカリゴ 愛誘ひ 仰に從ひ
 置郵シヤツ 早速 折悪敷
 置辭ヨウツラ 前刻 來人 用談
 耻辱ハチ 少々 片附不申

◎全返事
 秋天漫歩萩見を以て好時節と存候
 本日快晴を卜し三番村萩見思召
 立之由御愛誘ひに預り難有存候仰に
 從ひ早速可罷出之處折悪敷前刻よ

有之候へ共春よりは心も落着一
 入爽快に存候就ては此晴天に乗
 じ三番邊に萩見致度御賢慮奉伺候
 若御同情に候は直に出掛申度候
 間否哉御都合被仰度候先は御誘引
 まで勿々不悉

○漢語解

○文章註解

○俳簡之部 普通門

遅緩トクリン 今二三十分間いまにさんじゅうぶんかん
 遅速ソク 相過候はあひす 参堂さんどう
 遅暮トクモ 御答おんこたへ 不一ふいつ
 遅慢トクマン 御見おんみ 人ひと を招く文まねくぶん
 致死チシ 拜啓はいけい 今夕こんせき 弊宅へいたく 樓上ろうじやう
 致意チイ 樓上ろうじやう 一盞いつさん 月つき を賞しあやしみ 夜よ
 緻密チミツ 月つき を賞しあやしみ 夜よ
 痴騷チソウ 格別かくべつ 馳走ちそう 御入ごいり 來き
 蹟チン 待入まちいり 候まち 御相客ごあひやく
 地爐チロ 豫よ 候まち 御承知ごじやうち 之の
 雉チキ 方々かたかた 御人ごひと 入いり 候まち
 持人チヒト 歌うた よみ 伴ばん 人ひと も 有あ 之の 歌うた よみ
 治亂チラン 先生せんせい 関かん する 奇談きだん
 治蹟チキ 奇談きだん 被述れいじゆ 御一興ごいつきやう

来き 人ひと 有あ 之の 用談ようだん 少々しやくしやく 片附かたづき 不申ふしん 今二
 三十分間さんじゅうぶんかん 相過あひす 候まち は 相濟あひさ 候間まち 來き
 人ひと 歸かへ 次第だいい 参堂さんどう 可致かち 候まち 右御答みぎごたへ 迄まで 草くさ
 々し
 ◎月見つきみ 人ひと を招く文まねくぶん
 拜啓はいけい 今夕こんせき 月見つきみ 付つき 弊宅へいたく 樓上ろうじやう 於こゝ
 一盞いつさん 差上さしあ 夜よ と 共月ともつき を賞しあやしみ 申度まを 格かく
 別馳走べつちそう と 無御座なござ 候まち へ 共御入ごいり 來き
 待入まちいり 候まち 御相客ごあひやく は 皆豫みなよ 候まち 御承知ごじやうち 之の 方かた
 々し 入いり 候まち 御相客ごあひやく は 皆豫みなよ 候まち 御承知ごじやうち 之の 方かた
 々し 有あ 之の 其先生そのせんせい は 亦月またつき に 関かん する 奇談きだん
 々し

治要チヤウ 是非しぜい と 御來ごき
 治安チヤウ 臨りん 草々くさくさ
 治世チヤウ 同どう 返事へんじ
 著名チヤウ 今夕こんせき 月見つきみ
 著明チヤウ 御樓上ごろうじやう 御酒宴ごしゆゑん
 著述チヤウ 惠招けいせう 奉謝ほうせ 候まち
 著作チヤウ 殊こと に 宗匠そうじやう
 著書チヤウ 先生せんせい 等ら 御入ごいり 來き
 著者チヤウ 御高話ごかうわ 御名ごな 吟ぎん
 貯粟チヨ 吟ぎん 御高話ごかうわ 御名ごな 吟ぎん
 貯蓄チヨ 吟ぎん 御高話ごかうわ 御名ごな 吟ぎん
 精鈔チヨ 吟ぎん 御高話ごかうわ 御名ごな 吟ぎん
 猪武チヨ 吟ぎん 御高話ごかうわ 御名ごな 吟ぎん
 樽櫛チヨ 吟ぎん 御高話ごかうわ 御名ごな 吟ぎん

非ひ と 御末臨ごまゝりん 相待あひまち 候まち 草々くさくさ
 ◎全返事ぜんへんじ
 今夕こんせき は 月見つきみ に 御樓上ごろうじやう 御酒宴ごしゆゑん の 由よし
 惠招けいせう に 預あづか り 難がた 有あ 奉謝ほうせ 候まち 殊こと に 其宗匠そのそうじやう
 其先生そのせんせい 等ら 御入ごいり 來き に 御高話ごかうわ 御名ごな 吟ぎん
 等拜聽どうはいでん 致候ちか 事故じこ 無な 候まち 愉快ゆかい と 存候ぞんかう
 依よ 候まち 百事ひやくじ を 抛な ち 無御辭退なごじたい 参趨さんすう 可仕かじ
 候拜復かうはいふく
 副啓ふくけい 此項このこゝ 圖ず 入いり 候まち 付つき 月形げい 一覽いちらん の
 望遠鏡手ぼうえんきやうて に入いり 候まち 付つき 月形げい 一覽いちらん の

○漢語解

○文章註解

○書籍之部 普通門

微辟チヨウヘキ 精巧セイコウ 望遠鏡ボウエンキョウ
 月形ツキガタ 持參チサン
 龍眷リウケン 菊花キクハ を送る文オク
 龍遇リウウ 同上
 滅切メツキ 冷氣レイキ 御清適ミヤウシヨク
 御起居ミヤウキヨ 被成候レナレタリ 哉ナ
 不叶フタヒ 貴意候キイニ 共トモ
 進呈シンテイ 仕候シタリ 御叱ミヤウチ
 留ル 本懐ホンカウ に存候ゾシヨリ
 本年コトシ 一層イツソウ 作らん
 力を盡ツク し候ニ 共トモ 佳カチ
 林ハヤシ 尚ナホ 數多アツク 栽種サイシュ
 當方トウホウ 御通行ミヤウツウ 御
 一覽イツラン 被下度レタリ 候ニ 草々クサクサ 不備フビ

為持參可致候タメチサンベクイタラサウ
 ◎菊花を贈る文キクハヲオクルモノ
 拜啓ハイキ 此頃ココノトキ 是減切ココレメツキ 冷氣レイキ を覺オホ え候ニ 處トコロ 御
 清適セイシヨク 御起居ミヤウキヨ 被成候レナレタリ 哉ナ 不叶フタヒ 貴意候キイニ 共トモ
 此菊ココノキク 幾株イツカサ 進呈シンテイ 仕候シタリ 御叱ミヤウチ 留ル 被下候レタリ
 本懐ホンカウ に存候ゾシヨリ 也ナ 本年コトシ は一層イツソウ 勝マツ る
 のをノヲ 作ツク らんと存シ じ種々シツツ 心力シンリキ を
 盡ツク し候ニ 共トモ 佳カチ 株カサ 無ナク 之ノ 御目ミヤウメ に懸カケ 候ニ 恥ハジ
 敷シ 數品アツク に御座候ミヤウザタリ 尚ナホ 數多アツク 栽種サイシュ 致有イタラ
 之候ノトキ 間當方マカトウホウ 御通行ミヤウツウ の節ノトキ は御立寄ミヤウタヨリ 御
 一覽イツラン 被下度レタリ 候ニ 草々クサクサ 不備フビ

重詭ジュウキ 同返事ドウヘンシ
 勅裁チヨウサイ 貴翰キカン 著シラ 著シラ 冷氣相レイキサウ
 勅詔チヨウシヨ 増マシ 貴家キカ 御安ミヤウヤス
 勅書チヨウショ 靜セイ 被過レナレタリ 數スウ
 勅褒チヨウホウ 株カサ 御惠贈ミヤウヱゾウ 被下レタリ
 直言チヨウゲン 弊方ヘイホウ 殊コト 花好ハナヨク
 直諫チヨウケン 御園ミヤウエン 種々シツツ
 直臣チヨウシン 直夜チヨウヤ 許ヨル 不日フジツ 御方ミヤウカタ
 直夜チヨウヤ 角カク 罷出候レタリ 仰オホ せ
 贅ヱ 隨ツグ 御起居ミヤウキヨ 拜觀ハイケン 草々クサクサ
 秋祿アキロク 御答禮ミヤウタレ 迄マデ 草クサ
 衷情ウヂジョウ 頓首トンシュ
 衷甲ウヂカウ ◎楓見モミ に誘サセ ふ文モノ

◎全返事ゼンヘンシ
 貴翰キカン 拜讀ハイドク 如仰ニオホ 著シラ 冷氣相レイキサウ 増マシ 候ニ 貴家キカ
 御掬ミヤウク 御安ミヤウヤス 靜セイ 被為レナレタリ 過ス 奉賀ホウカ 候ニ 陳チン ば御ミヤウ
 手作テウサク 之ノ 御菊ミヤウキク と有アリ 之ノ 見事ミタカシ の數スウ 株カサ 御惠ミヤウヱ
 贈被下ゾウレタリ 難ガタク 有アリ 奉謝ホウシャ 候ニ 弊方ヘイホウ は殊コト に花好ハナヨク
 付ツキ 皆ミナ 々々 大オホ に打悅ウチエツ 申候マシタリ 尚ナホ 御園ミヤウエン 内ウチ に
 種々シツツ 御裁種ミヤウサイシュ の由ユ 一覽イツラン 御差許ミヤウサシヨ 被下レタリ
 存候ゾシヨリ 不日フジツ 御方ミヤウカタ 角カク へ罷出候レタリ 迄マデ 草クサ
 從ツグ 御起居ミヤウキヨ 拜觀ハイケン 可仕候カシタリ 先マツ は御答禮ミヤウタレ 迄マデ 草クサ
 頓首トンシュ ◎楓見モミ に誘サセ ふ文モノ

○漢語解
 ○文章註解
 ○書簡之部 普通門
 三十三

忠實 チウジツ 拜白 はいはく 楓葉 ふうえふ 色付 いろづき
 忠恕 チウジュ 遷生 うせん 浪華 なみはな
 忠告 チウコウ 北邊 ほくへん 不委 ふゐ 明 めい
 中古 チウコ 可成 かじやう 步行 はくかう 草 くさ
 中興 チウキウ 候節 こうせつ 著名 しやうめい 箇處 かんと
 中宮 チウクウ 候節 こうせつ 著名 しやうめい 箇處 かんと
 中心 チウシン 山 さん 池田 いけだ 伊丹 いたん
 中軍 チウコン 山 さん 池田 いけだ 伊丹 いたん
 中堅 チウケン 山 さん 池田 いけだ 伊丹 いたん
 同上 ドウジョウ
 中微 チウワイ 山 さん 池田 いけだ 伊丹 いたん
 注目 チウブツ 山 さん 池田 いけだ 伊丹 いたん
 注視 チウシ 山 さん 池田 いけだ 伊丹 いたん
 注意 チウイ 山 さん 池田 いけだ 伊丹 いたん
 駐蹕 チウイ 山 さん 池田 いけだ 伊丹 いたん

拜白承候へば箕面の楓葉餘程色付
 候由迂生未浪華の北邊に不委明日
 快晴に御座候はゞ可成歩行にて草
 臥候節は人力車に乗ると致し著名
 の箇處巡覽旁登山致度服部天神を
 始め池田伊丹の造酒地吳織の古跡
 など一覽致す心算に御座候貴兄若
 思召も御座候はゞ御同遊如何に候
 哉尊慮御漏し被下度候不盡
 ◎全返事
 朵雲拜誦北邊名地御巡遊にて箕面

○同返事

胃子 イシ 御遊覽 ごゆうらん
 胃齋 イシ 御遊覽 ごゆうらん
 網糲 アミ 御遊覽 ごゆうらん
 躑躅 チヂク 御遊覽 ごゆうらん
 誅戮 シユ 御遊覽 ごゆうらん
 著眼 シヤク 御遊覽 ごゆうらん
 著意 シヤク 御遊覽 ごゆうらん
 著落 シヤク 御遊覽 ごゆうらん
 躑躅 チヂク 御遊覽 ごゆうらん
 陳述 チン 御遊覽 ごゆうらん
 陳腐 チン 御遊覽 ごゆうらん
 陳情 チン 御遊覽 ごゆうらん
 酷殺 ク 御遊覽 ごゆうらん

の楓葉御遊覽の由就ては御寵誘に
 預り難有存候途中伊丹池田は有名
 の市邑に御座候へば野生も一覽相
 逐度殊に池田近傍には種々舊跡有
 之候由是等をも巡歴致候事固より
 相望居候將亦箕面觀覽の後は有名
 の勝尾寺へも參詣致度候間隨貴意
 陪從可仕候勿復
 ◎雪見に誘ふ文
 一兩日は非常の寒氣にて昨夜は特
 に冷込み候處今朝起出候へば殊の

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

陣伍 今朝大雪つたゆき夫の俳人は轉倒を
陣列 同上 観雪の勝地を探ね候に習ひ
陣没 観雪の勝地を探ね候に習ひ
陣亡 同上 諸處に巡覽は如何
陣營 歩行ある乗車に
沈浮 藍の一瓢を携へ罷出度
沈溺 御同意候哉尊慮相
沈黙 伺候也
沈吟 伺候也
沈思 伺候也
鎮靜 芳墨拜誦昨夜來は降雪にて今曉は
鎮懾 銀世界と相成愉快に存候一處に龜
鎮伏 同上 愉快し一處に龜縮致
略地 同上 一景相眺め候も不面白候

外大雪に御座候夫の俳人は轉倒を
も不厭觀雪の勝地を探ね候に習ひ
今より終日諸處巡覽致候ては如何
歩行も宜敷乗車も宜敷又舟も宜敷
と存候へば一籃一瓢を携へ罷出度
候貴兄御同意被下間敷候哉尊慮相
伺候也草々
○全返事
芳墨拜誦昨夜來は降雪にて今曉は
銀世界と相成愉快に存候一處に龜
縮致僅に一景相眺め候も不面白候

御地 諸處に巡覽は如何
掃地 掃地に御
割地 割地に御
飾智 飾智に御
陷陣 陷陣に御
吏務 吏務に御
吏態 吏態に御
吏員 吏員に御
離合 離合に御
離散 離散に御
離別 離別に御
離群 離群に御
離間 離間に御

故諸處の景色巡覽致度存居候折柄
御芳慮に接し欣喜仕候依て即刻支
度致し御宅まで可罷出候巡覽の途
次某處知友の宅眺望殊に宜敷候へ
ば是へも立寄心算に御座候拜復
○歳末物を贈る文
光陰は箭の如しとか申月日の経過
するは速にて本年も最早餘日無之
僅に數へ日と相成何角御年仕舞御
繁忙奉察候一寸推參仕御祝儀可申
上の處平日の怠惰一時に負債を果

○漢語解 ○文章註解 ○俳諧之部 滑稽門 三十七

俚耳ノナラモ 負債を果すの時
 俚言ノコトナシ 他出難致 乍失敬書中を以
 利害ヲマツタ 書中を以
 利益ヲマツタ 少些一尾 歳暮
 利鈍ニシドイ 賀儀ヲ呈仕候
 梨史ハシギ 御笑納を期 餘は春陽の時を期
 履歴ヲノコト 春陽之時を期し候
 理解ケル 〇同 返事
 力作クセキ 尊翰ヲ例年同
 力戦ホチナリ 歳尾を御同様
 虜囚イドリ 忙し誠ニ速ニ
 旅情ヲマツタ 未々御行ニ
 旅寓ヲマツタ 劇懸貴意何
 閭閻ムヲサト 御贈與被下 御厚情

すの時來り他出難致 乍失敬書中を
 以て如斯に御座候 乍些少鹽鯉一尾
 歳暮賀儀の驗迄に 晋呈仕候間宜敷
 御笑納可被下候 餘は春陽の時を期
 し候也敬具
 〇全返事
 尊翰拜讀例年同 一ながら歳尾御同
 様多忙に御座候 誠に月日相立候は
 速にて未々と存 候中暮行申候御繁
 劇の御中より被 懸貴意何より
 結構の御品御贈 與被下御厚情萬々

律令ヲマツレ 萬々御奉深謝候
 流離ヲマツレ 是よりも
 流言ヲマツレ 暇を得ず偏に
 流竄ヲマツレ 御宥恕來陽の
 流弊ヲマツレ いくたびも
 留滞ヲマツレ 〇縁談に付依頼の文
 留連ヲマツレ 日々寒相増候
 龍顔ヲマツレ 愈々御清榮
 隆替ヲマツレ 候おます
 陸績ヲマツレ 少く自宅
 陸没ヲマツレ 幾歳つ
 陸沈同上 度よ
 六軍同上 被為
 六師同上 若可然先

難有奉深謝候 是よりも一寸伺度存
 居候處御同様にて寸暇を得ず偏に
 御宥恕被下度候 先は御答禮迄餘は
 來陽に讓る再拜
 〇縁談に付依頼の文
 日々寒冷相増候 處愈々御清榮奉賀候
 陳ば豫て一寸御話申置候 愚女何分
 人少に付今日迄 自宅為手傳置候へ
 共最早幾歳に 相成候に付彌他へ縁
 付為致度貴君は 御交際廣く被為在
 候事故若可然 先も御座候は 何卒

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

六親モウチノ
御報おし近日うちには 拜面
六合セカイ
かみり 豫め書中を以て
戮辱ハチカ
九拜くじする
戮力アハス
○同 返事
華墨拜誦如命俄に寒冷相募候處御
堅寧御消光被成奉壽候陳ば豫て御
話有之候御令女御事愈御縁付に被
決候由小生交際廣しとは難申候へ
共日々彼是馳廻候職業に付種々聞
込候事多く候可然方も御座候は
聞及次第一通り聞合せ候上御報可
申上候草々拜復

良人クツト
良謀ヨキテ
良規ヨキリ
良士ヨキサ
良臣ヨキテ
良相ヨキイ
良時ヨキジ
諒直キヤウ
諒察ハフキ
兩端フマタ
兩可ヨシ
兩全サリハ
兩半クハラ
畧定マハサ
○同 返事
○縁談問合せの文
拜啓てが御安靜にきり 御
消光らし弊家はた 野嬢の
年頃りども 縁付爲致度より
た貴地おの申入來候して
ました 先方よめに 御近邊
じきん 子息の 性行の なるて
等々ごい御然知やうし 御多
忙中おにが 恐縮に候へ
どもおそれい 愚翰を以て
乍御手数ごりまが 御承知
の 廉々しつてな 御漏し
願首あたまをさ
○同 返事
○縁談問合せの文
拜啓愈御安靜御消光被成奉賀候陳
ば弊家野嬢最早年頃に相成候に付
縁附爲致度存居候處此節或方より
貴地何某方へは如何と申入來候先
方は御近邊にも御座候へば子息性
行等御熟知と存候に付御多忙中恐
縮に候へ共愚翰を以て御問合申候
間乍御手数御承知の 廉々御漏し被
下度奉願上候草々願首

○漢語解

○文意註解

○書簡之部 普通門

掠答ムチウツ 暫くあひだの不得拜顔候處
 掠囚 同上 暫くあひだの益御多祥之由
 粒食 コメチク おしあはせの欣賀に息女御縁談に付
 臨御 オデマシマ 御縁談おあり 當處に
 臨幸 ミニキ 子息性行等御問合せ相
 繪言 コトノ 子息性行等御問合せ相
 客裔 シロイ 口行等御問合せ相
 凛然 ソツトス 通なみ 少壯者に生意
 略利 ハハス 氣に上つたがほするの煩るどは實
 悖理 ヒ 着いたる心にも無き世に
 齋糧 ヲラワ 世辭杯申事無之候へ共行々家聲
 「ル部」 聲のな相隨し申候るは尚
 穢々 コトト 此の詳御し再報し候は是而
 穢説 コトト 已に御報せし敬復す

暫く不得拜顔候處益御多祥の由欣
 賀此事に候陳ば御息女御縁談に付
 當處何其方子息性行等御問合せ相
 成承知致候廣々左に申上候血統は
 宜敷上子息は先づ才子と申よりも
 徳者と申質にて品行は至て宜敷當
 今普通の少壯者の如く生意氣には
 無之頗實着に御座候依て心にも無
 き世辭杯申事無之候へ共行々家聲
 相墜し申様の人には無之と存候尚
 詳細承り再報可致候へ共先は是而

累選 ヲシガ 〇婚姻を賀する文
 累功 ノチガラ 昨夜の御婚儀首尾能御整被成目出
 累年 マイチン 尾能なく御整被成目出
 累世 ノイ 奉賀候御人事之の御大倫にて御
 累坐 ヒ、リア 御大倫おほき 御相續に
 腐敗 ツラレハ 御大儀
 羸瘦 ロハル 御双親様やがた御満足
 縷維 ノナハ 大悦おほき魚一盤な
 「ヲ部」 進早御笑受を参
 温良 ウチナン 堂まあり以書中み如斯に
 温和 オトナシ 御座候きりまご心なまつて謹
 温暖 アタカ 言ついで
 温度 マノホド 〇婚姻後客を招く文

己御報申上候敬復
 〇婚姻を賀する文
 昨夜は御婚儀首尾能御整被成目出
 度奉賀候誠に人事の御大倫にて御
 相續の基御家御繁昌の御大儀に候
 へば御双親様方御満足に被思召候
 半御大悦の程奉察上候隨て酒壹樽
 魚一盤御歡の驗迄に進呈仕候間御
 笑受可被下候何れ近日參堂御悦可
 申上候へ共以書中如斯に御座候恐
 々謹言

〇漢語解
 〇文章註解
 〇普簡之部 普簡門
 四十二

温雅シトヤカ
温言コトナシ
温厚オトナシ
温飽ノシラク
溫柔ニウツリ
温袍ノルヲタ
恩典アリガタ
恩遇アツキ
沐恩コトナシ
蒙恩キル
和親ナカホ
和睦ナカホ
賄賂マナヒ

以廻章得貴意候
温言今般山妻
相迎候殊に佳
品御祝贈に預
奉鳴謝候愚
妻粗酒一盞
午後早々御尊
被下度右奉待
御繁用にも可
へ共御繰合せ
下度候敬白

○娘を嫁したる方
へ賀する文
謹啓御息女様
今日般御良縁

○婚姻後客を招く文
以廻章得貴意候陳ば今般山妻相迎
候に付御悦被下殊に佳品御祝贈に
預り難有奉鳴謝候就ては愚妻御近
附の爲め粗酒一盞差上度候間明何
日午後早々御尊來被下度右奉待上
候尚又添て申上候御繁用にも可被
爲在候へ共御繰合せにて御入來被
下度候敬白

○娘を嫁したる方へ賀する文
謹啓承候へば御息女様今般御良縁

王機ゴキナイ
王臣ゴキナイ
王事ゴキナイ
王命ゴキナイ
王師ゴキナイ
王室ゴキナイ
往古ゴキナイ
或説ゴキナイ
胎禍ゴキナイ
訴枉ゴキナイ

御良縁談被爲
御與入の程奉
御大倫被爲濟
御先方婿君は
御一層の御悦
御一層の御悦
御一層の御悦
御一層の御悦
御一層の御悦
御一層の御悦

有之御縁談被爲整昨夜御與入の由
御大倫被爲濟候事故御満悦の程奉
察候殊に御先方婿君は豫て御利發
の御聞え有之候へば御一層の御悦
乍慮外御同慶申上候隨て粗酒一樽
交肴一籃爲御祝呈上仕候間御納受
被下度尚近日昇堂萬々御悦可申上
候也敬具

○舅の方へ出産を報する文
書翰を以て申上候妻誰儀今朝分
男兒出生致候間御知らせ申上候産

漢語解
文章註解
書翰之部 普通門
四十五

苛法カハフ 婉ベンにたり男だん兒じをミ 出生しゅつじやうする
 苛刻カコク 産さんのこでき平産へいさん 逆上ぎやくじやう氣け
 苛酷カク 母はは子こはミ 健全けんぜんにし乳汁にゅうじゆ
 苛察カサツ 御安堵おんあんど 母上ははじやう様さまに
 嘉飲カイン 當人たうじんのこにミ 御
 嘉賓カヒン 宅たくのいへ何卒なにぞ 御來車おんらいしや願ねが
 遐邑カイツ 上候じやうこうをせて
 遐陬カソウ 出產しゅつさんを賀する文ぶん
 遐裔カソイ 今朝けんけ 御令室おんれいしつにミ 御安おんあん
 遐邇カソエ 殊ことにミ 御男子おんなんし
 遐邇カソエ 御出生おんしゅつじやう 御家門おんかもんにミ
 下風カフウ 御繁榮おんはんえい 基もとにミ 御一同おんいつどう
 下流カリウ 御喜悅おんきえつ 斜なにミ
 下國カコク 一ひと 御輕微おんけいゐ 紅べに

は至いたて平産へいさんにて逆上ぎやくじやう氣けも無な御座おんざ母
 子共こども健全けんぜんに有あ之の第一だいいち乳汁にゅうじゆ充分じゆぶんに御
 座候ざこう間御安堵おんあんど可被下候かひげ就つては母上
 様御越願おんごくわん度様たさま當人たうじん申候まうこう故御宅おんたく御不
 都合ごごうには候へ共何卒なにぞ此使このつかひの者御連ものおんれん
 被下御來車かひげ願上候ねがひあがり草々くさくさ
 ◎出產しゅつさんを賀する文ぶん
 拜啓承候はいけいじやうこうへば今朝けんけ御令室おんれいしつ御安産おんあんさんに
 て殊ことに御男子おんなんし御出生おんしゅつじやうの由目出度奉よしめだてほう
 存候御家門ぞんこうおんかもん御繁榮おんはんえいの基もとに候へば御
 一同御喜悅おんいつどうおんきえつ斜なならずと存候ぞんこう乍輕微あはれい

下民カミン 木綿もめんのこ進上しんじやう 聊いささ
 下問カモン 進上しんじやう 御笑受おんせうじゆ
 阿責カセキ 幸甚かうじんはミ 不盡ふじん
 可否カヒ ◎出產後見舞しゅつさんごみまひの文ぶん
 可憐カレン 肅啓しゅくけい 御平産おんへいさん 後
 加害カガイ のこにミ 不奉伺ふほうご 候處御兩人こうじよおんにん様
 加重カヂヤウ 様さまのおたりさま 御健全おんけんぜんにミ
 暇日カシツ 同上候どうじやうこう 愚妻ぐさい 參
 親御カシヨ 堂だう萬一まんいつ 御障おんさうにミ 故と
 雅望カシヤウ 御肥立おんひだちにミ 故と
 雅常カシヤウ 乍あ 御令室おんれいしつにミ
 雅言カシヤウ 御鳳聲おんほうせい 細工さいこう 花はな
 雅素カシヤウ 御退屈おんたいくつ 之の節ふし 御
 雅俗カシヤウ 慰なぐさむこと 一ひと 節ふし 御慰おんゐ

紅木綿べにもめん 一反たん 聊いささ 御祝おんじゆ のこ 驗迄しるしまて に進上しんじやう 仕
 候御笑受こうおんせうじゆ 被下候かひげ は 幸甚かうじん に存候ぞんこう 也
 草々不盡くさくさふじん
 ◎出產後見舞しゅつさんごみまひの文ぶん
 肅啓御平産後不奉伺しゅくけいおんへいさんごふほうご 候處御兩人こうじよおんにん様
 御健全おんけんぜんにミ 被為かひ 在候あ 哉伺上候やごみあがり 愚妻事ぐさいこと
 參堂御見舞申上度心得さんだうおんみまひまうじやうたごころえ に候へ共萬
 一御障いつおんさうにミ 相成候あひな へば不ふ宜よろと存候ぞんこう 故
 御肥立おんひだち 相成候あひな 迄故いたと差扣申居候さしかへまうゐ 乍
 憚御令室はなれおんれいしつ へ宜敷御鳳聲よろしくおんほうせい 可被下候かひげ 此
 細工花不珍候さいこうはなふじんこう へ共御退屈おんごんたいくつ 之の節ふし 御慰おんゐ

○漢語解

○文章註解

○飛簡之部 普通門

雅正セイダウシキ 草々ササササ

○同返事

過日クワジツ豚兒トウニ出產シュツサン之節ノセツ御懇切ミコウケンセツに御悅ミヨロコビ
 節セツ被贈ヘクヅク下シタ只今ただいま
 御品ミモノ被贈ヘクヅク下シタ見事ミコトコトに御造花ミツクリハナ
 御厚意ミコウコウイ以痛入イタミイリ候マカ産サン
 者モノ健康ケンカウに殊コトに肥立ヒタチも宜敷ヨシ敷
 御令政ミコウレイセイに御入來ミコウイライ候マカ當マカ
 宜敷ヨシ敷と申出候ウケマカ間マカ乍憚ハツカ御致聲ミコウシヨウ可被下候マカ草々ササササ
 拜復ハイフク候マカして

○同返事

にもと存じ一籠差上申候草々
 過日豚兒出產の節は御懇切に御悅
 被下何より重寶の御品被贈下只今
 は又御見舞に預り見事の御造花難
 有存候重々の御厚意實以痛入候産
 者は至て健康にて殊に肥立も宜敷
 日々退屈に有之候故些々御令政に
 は御入來可被下候當人よりも宜敷
 と申出候間乍憚御致聲可被下候草
 々拜復

楷法カイホウ 同上

楷則カイソク 同上

階位カイイ 同上

階級カイキョウ 同上

階等カイトウ 同上

階等カイトウ 同上

階等カイトウ 同上

階等カイトウ 同上

階等カイトウ 同上

階等カイトウ 同上

階等カイトウ 同上

階等カイトウ 同上

階等カイトウ 同上

階等カイトウ 同上

○小學校へ入學を賀する文

肅白ソクハク承候へば御賢息様昨日吉辰を
 十せられ御就學被成候由恭賀此事
 に候熟ら見受候に御賢息には御性
 質御賢明にて且つ御實直に候へば
 深く御學得にて駸々御進級被成候
 事奉保證候頓て御卒業にて追々高
 級學校に入學せられ異日社會に御
 立被成基礎に候故御双親の御末樂
 深く奉恐察候先は御慶賀申上度迄
 草々不宣

○小學校へ入學を賀する文

肅白承候へば御賢息様昨日吉辰を
 十せられ御就學被成候由恭賀此事
 に候熟ら見受候に御賢息には御性
 質御賢明にて且つ御實直に候へば
 深く御學得にて駸々御進級被成候
 事奉保證候頓て御卒業にて追々高
 級學校に入學せられ異日社會に御
 立被成基礎に候故御双親の御末樂
 深く奉恐察候先は御慶賀申上度迄
 草々不宣

該覽 同上
 駭然 ヒツクリ
 効奏 マシタ
 凱陣 イクサ
 凱歌 カチドキ
 凱旋 チカヘル
 交際 ツキアヒ
 交誼 ツキアヒ
 交情 ガラヒ
 交感 ツキアヒ
 交換 ツキアヒ
 交級 アイサキ
 郊野 ノハラ
 郊原 ノハラ

未樂のしみの御慶賀
 ○高等小學卒業を
 賀する文
 謹啓つ、今この大試験
 のしり、御君君ごま、御及第
 満点、御優
 等、平素の御勉強、御
 性質、御賢明、且
 つ、御年齢、他の卒業
 者、非、凡、高級學校、御入
 實、以、奉、期、候、賀、辭
 相、述、候、敬、具、す。

○高等小學卒業を賀する文
 謹啓承候へば、今回の大試験にて、御
 郎君御事、御及第、被成、殊に、満點、御優
 等の由、充分の御卒業、奉欣、賀候、是れ
 全く平素の御勉強、に由るとは、乍申
 御性質、御賢明、に被為、在候、故と存候
 且つ、御年齢、も、他の卒業、者より、は、御
 若く候へば、進で、高級學校、御入、學、非
 凡の御壯者、と御成、なされ、候、事、實、以
 奉、期、候、也、先は、賀、辭、相、述、候、迄、草、々、敬
 具

考檢 キンシス
 考鞠 キンシスル
 考課 イヒツケ
 考校 トシツ
 考問 タシガヘ
 耕作 タガヤス
 耕獲 タガリシ
 耕織 タガヤル
 耗損 ヘル
 耗盡 ヘル
 耗虚 ヘル
 耗盡 ヘル
 講究 コム

○同返事
 御懇書、捧讀、豚息、今般、圖らず、も、大
 試験、及第、卒業、致候、事、御聞、に、相成、至
 極、御稱揚、に、預り、何、共、痛入、候、何、分、生
 得我、儘者、にて、末、無覺、束、却、て、怠惰、に
 相成、祖先、よりの、家業、打、忘、候、様、の、儀
 あら、む、か、と、被、案、候、尚、又、尊、宅、へ、罷、出
 候、節、は、品行、上、の、事、一、入、御、教、訓、願、度
 候、也、先は、御、答、禮、迄、草、々、拜、復、

○中學校入學を
 賀する文
 謹啓承候へば、御今、子、御事、此、度、其、中

○同返事
 御懇書、捧讀、豚息、今般、圖らず、も、大
 試験、及第、卒業、致候、事、御聞、に、相成、至
 極、御稱揚、に、預り、何、共、痛入、候、何、分、生
 得我、儘者、にて、末、無覺、束、却、て、怠惰、に
 相成、祖先、よりの、家業、打、忘、候、様、の、儀
 あら、む、か、と、被、案、候、尚、又、尊、宅、へ、罷、出
 候、節、は、品行、上、の、事、一、入、御、教、訓、願、度
 候、也、先は、御、答、禮、迄、草、々、拜、復、

○中學校入學を賀する文
 謹啓承候へば、御今、子、御事、此、度、其、中

○漢語解
 ○文章註解
 ○世簡之部 普通門
 五十一

講學カクノ 謹啓てまを御令子こませ 某
 講武ケイノ こと 御入學いり奉敬賀候
 講兵ノレン 高級だん 普通科
 講和ワボク 今日本日 社會が科學
 購求カヒトル 不修候てはは
 狡猾コイカシ 家國つはんに御研精せんま
 狡黠同上 暫時は寄宿舎のしやない
 狡吏ヤクニラ ヤ 御不自由に候半とごり
 更新ナルキニ 此器の粗製とらへかた
 更張ルキカヘ 平常に御左右の御使用
 更始スルキニ 不修候てはは
 衡石ハカリ 〇學生の上京を賀
 衡平ハヒラ する文
 耿介ヒトリ 肅白てまを御君の御勉學

學校へ御入學被成候由奉敬賀候中
 學は高級の普通科に付今日社會に
 相立候者是非此科學不修候ては不
 相成由國家の爲御研精所祈に御座
 候此後暫時は寄宿舎御住居故何角
 御不自由に候半此器粗製に候へ共
 平常御座右に御使用被下度候不
 〇學生の上京を賀する文
 肅白承候へば貴君御勉學の爲來る
 何日御出京の由御奮發感入候大都
 は諸學校の淵叢に付何科なりとも

耿々マジク 御出京へおいで 御奮
 耿然同上 發なること大都さうかいと諸
 綱領ハホモト 學校の淵叢に付何
 綱目モトモト 科の隨貴意を以て
 剛直キヤウ 古人の目く
 剛復ガワヤ 業成りし御歸郷へ
 幸福シアハセ 際、數層に、今後
 幸臣ケイライ 一意に、御勵精
 梗概アラマン 御出發の、可得拜芝
 梗命オホヒニ 尺一が奉賀上候
 航海ルカイス 〇滯京の學友へ忠
 航行クフチヤ 告する文
 降誕ワシヤ 一翰が呈上し秋冷
 降伏コウナン 一入きは修學の好時節

隨貴意御修業可相叶實以羨望に不
 堪候古人も三日不見は刮目して可
 待と申候へば業成り御歸郷の際に
 數層御見上申事と存候先は今後一
 意御勵精願數候何れ御出發迄には
 可得拜芝候へ共不取敢尺一を以て
 奉賀上候也不盡
 〇滯京の學友へ忠告する文
 一翰呈上仕候稍秋冷相催一入修學
 の好時節と相成候貴兄は定めて日
 々御研精御進歩の御事と奉察候何

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

降兵ノコト
 降旗ノコト
 校開
 校正
 苟且スル
 苟生ナラハ
 苟安オチツク
 苟完アラキ
 苟倫ヲシ
 行陣
 行商
 行歩
 行李
 高尙

貴兄御研精
 御進歩
 之地に御閑暇
 の樂に相叶候者
 多數歸省
 氏花柳の里に浮かれ
 情弱に相傾き
 退校沙汰
 あれば一弊不相免
 可然候
 一言御忠告
 恐惶多罪
 留學生の洋行を

様其御地は繁華の地にて御閑暇に
 は随分耳目の樂に相叶候者多數有
 之候半此節歸省の某氏より承候に
 多くの中には花柳の里に浮かれ日
 々情弱に相傾き退校沙汰も有之候
 由一利あれば一弊不相免貴君の謹
 直左様の儀は萬々被成間敷候へ共
 嚴敷御慎可然候貴意に背き候かは
 存不申候へ共一言御忠告申置候也
 恐惶多罪
 ◎留學生の洋行を賀する文

高節
 慷慨
 狎愛
 肯允
 糠枇
 香華
 煩瑣
 效驗
 絞綰
 顛直
 毫末
 號泣
 號泣

賀する文
 海外に御遊學に御
 羨敷り當今この男子
 事情而已にて
 門の御留學
 寒暖異なるの折
 御自愛に御乗
 船之節に慶賀迄
 如斯に御座候
 敬具
 ◎名譽員に撰ばれ
 たるを賀する文

謹啓承候へば貴君今般御奮發にて
 海外御遊學の由御羨敷事に御座候
 當今の男子實に該地の事情而已に
 て承知不致候ては不相成然るに
 専門の思召を以て御留學の事故此
 上不可有と存候何分波濤萬里の風
 土寒暖異なる土地に候へば折角御
 自愛可被成候何れ御乗船の節は御
 見送可申候へ共先は慶賀迄如斯に
 御座候敬具
 ◎村長に撰ばれたるを

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

貴君が今この村長に
 被辭候にさうり御跡役のあら
 豪雄 同上
 被辭候にさうり御跡役のあら
 豪邁 同上
 欣賀いほこびて 偏に
 豪俠 同上
 平素な御名望を 公平
 豪貴はホキナ
 御心術にて 事務
 老練の御器量をおこなされた
 豪威 同上
 右に出で候者無之にな
 豪奢 同上
 右に出で候者無之にな
 豪富 同上
 固より斯なる
 傲遊 同上
 野生の一に 友情
 傲然 同上
 傾むき候而已ならず
 傲居 同上
 村民の資格
 傲散 同上
 實に良吏を得たり
 傲慢 同上
 存候つたものと賀上
 結好 同上
 候ます 敬白

賀する文
 拜啓承候へば貴君今回前村長被辭
 候に付御跡役となられ候由欣賀此
 事に候是れ偏に平素御名望有之候
 に由るとは存候へ共公平の御心術
 事務老練の御器量誰に右に出で候
 者無之固より斯なる御事に御座候
 斯申候も野生一に友情に傾むき候
 而已ならず村民の資格を以て相考
 候に實に良吏を得たりと存候右賀
 上候敬白

御員當選者を
 賀する文
 謹啓つしん今般の御當選
 に相成なされ既に御承
 照智 同上
 部民の良人 不
 照吏 同上
 之に能く 欣舞
 濁望 同上
 必き良者
 髮 同上
 偶の如き人のやうなひご
 角力 同上
 實不相叶なご 不待論
 覈實 同上
 小生は儀貴君には總角の頃
 各箇 同上
 御眷顧ごひ御性行ごのまこと
 各自 同上
 御經歷なごつたご 熟知

◎議員當選者を賀する文
 謹啓貴君御事今般議員御當選に相
 成既に御承諾の由部民の悦不
 欣舞此事に候投票多数の人必良
 者と不可申能辯の人亦必良者と不
 可申黙々土偶の如き人名實不相叶
 は不待論一に智識と経験有之良者
 を望み候小生儀貴君には總角の頃
 より御眷顧を蒙り御性行御經歷熟
 知致候故深く相信じ申候何卒部民
 の爲め御奮發願度候右慶賀旁請願

○漢語解
 ○文章註解
 ○書簡之部 普通門
 五十七

各國シヨク	各地シヨク	各課ノツク	隔絶カヘナ	隔年オキチ	隔日ナニチ	閣下コトナワ	閣道ラツカ	赫灼アツイ	赫怒ハラワツ	覺悟ケルヲ	較著スル	革命オカシ	格勤ツクシム
致候よくしつ請願致候	○仕官を賀する文	一書拜呈仕候まは貴	君が今般たの某衙ごその	御出仕おつ不日御赴任	おつおつ該地ある新領地	いつはかのあた御施政向	御困難な乍併れども従来	かよの御手腕は斯る地	一層は御奮勵おはせ	祈上候おまつ氣候は夏	の暑熱おつ御自愛たて	専一に賀辭おまつ御送	別をおつか恐々たてまつ

致候再拜

○仕官を賀する文
一書拜呈仕候承候へば貴君今般臺
灣某衙へ御出仕被成不日御赴任の
由奉恭賀候該地は新領地に候へば
御施政向何角御困難察上候乍併従
来の御手腕御顯被成候は斯る地に
限り候へば一層御奮勵祈上候將亦
該地は氣候も變り夏日は暑熱も強
く候故御自愛専一に祈上候右賀辭
申述旁御送別迄恐々不盡

核實	甲首	甲第	盍簪	劫畧	膠固	閑暇	閑散	閑居	閑雅	閑語	閑民	閑際	閑習
○官吏の昇級を賀する文	肅啓時下春暖の節に御座候處日々	御勵精御勉務被爲奉賀候陳は今	般御昇級の由承り奉賀候是れ偏	に御勉務御忠實特に事務御老練の	上御經驗に被富候故と存候猶無御	油斷御出精の程祈上候也現今我郷	出身の中尊君を以て頭角と致候然	るに追々御昇進相成候は郷人に於	ても大に光榮に存候先は賀辭申述	候迄草々敬白			

○官吏の昇級を賀する文

○官吏の昇級を賀する文
肅啓時下春暖の節に御座候處日々
御勵精御勉務被爲奉賀候陳は今
般御昇級の由承り奉賀候是れ偏
に御勉務御忠實特に事務御老練の
上御經驗に被富候故と存候猶無御
油斷御出精の程祈上候也現今我郷
出身の中尊君を以て頭角と致候然
るに追々御昇進相成候は郷人に於
ても大に光榮に存候先は賀辭申述
候迄草々敬白

○漢語解

○文章註解

○書籍之部 普通門

閑静 カシヤク
 間道 カシヤク
 悍馬 カンバ
 悍禦 カンバ
 敢死 カンシ
 敢諫 カンケン
 感謝 カンガ
 感服 カンブク
 感佩 カンハイ
 感悅 カンエツ
 感泣 カンナキ
 奸商 カンヤウ

○勳章を受たるを賀する文
 本日ご官報に御勤務の御勤
 一覽致候にまことに御
 何等に御勤務にまことに御
 御仕官に御勤務の御勤
 三年に御勤務の御勤
 進歩に御勤務の御勤
 無御怠惰の御勤
 慶賀

○勳章を受たるを賀する文
 謹啓本日官報を一覽致候に貴君今
 般勳何等に叙せられ何章拜受被成
 候由御忠勤の程察上候願ふに御仕
 官の後僅々兩三年にして官等頻に
 被爲進且亦勳章御拜受の事類少く
 存候猶乍此上無御怠惰御累進御揚
 名の程深く奉祈上候先は御慶賀申
 上度如斯に御座候敬具

○轉勤を報する文
 拜啓陳ば小生儀今般某地へ轉勤被

肝膽 カンタン
 艱苦 カンク
 艱難 カンナン
 戡克 カンコク
 戡定 カンテイ
 幹事 カンジ
 幹理 カンリ
 甘心 カンシン
 甘苦 カンク
 甘死 カンシ
 簡易 カンイ
 簡略 カンリョク
 簡約 カンヨク
 簡便 カンベン

發足 ハツソク 貴所が當地
 在務の種々御世話に相
 成情誼不淺に付山河相隔て音信遠
 く相成候に不忍緩々御話申度候
 處何分思はざるの過急にて夫是れ
 支度に忙敷參堂致兼候に付斯は書
 面にて申上候何れ出發迄には拜面
 可致候草々

○轉勤者に贈る文
 謹啓ご某地へ御轉勤
 御勤務上不得
 止らば御懇命相蒙り
 甚に御名残惜く

○轉勤者に贈る文
 謹啓承候へば此度某地へ御轉勤の
 由御勤務上不得止候へ共長々御懇

○漢語解

○文章註解

○書簡之辭 普通門

簡提ハハシ
 簡要ヨウジン
 簡潔サツパリ
 簡意ソコト
 簡法シガラナ
 簡牘テガキ
 簡書キキチガ
 汗背ハチル
 鑑識メキ
 鑑別ワケル
 諫争アラソフ
 針口ダケル
 翰墨フヂス
 陷阱ナトシテ

命相蒙候事故甚御名殘惜く存候尚
 乍此上何處へ御越被成候共不相變
 御懇親に願度候就ては聊御送別申
 度候間今夕御來臨被下度御轉勤先
 には知人も有之候故萬事御世話可
 申上様過刻郵信にて申遣置候間其
 節住地可申上候必御入來待上候草
 々不悉
 ◎人の在否を問ふ文
 肅啓一昨夜は參邸仕御面倒相成候
 陳ば其節御依頼申上置候一條に付

間隔ケルヒダ
 早魃ヒテリ
 監察ノツメ
 乾眼ホシイ
 賈偽ニセ
 賈本ニセホン
 賈物ニセモノ
 含味カケル
 眼破シメク
 鉏姦チヲモノ
 照奸ヲチラス
 銘肝ニモダマ
 閩國ノニヤウ
 閩家ノニライズ

本人直接御話為申度存候に付小生
 同道にて午後伺上度候就ては其頃
 御在宅に御座候哉否御問合せ申上
 候若御不在に候へば明早朝に致候
 間何卒此使へ御答示被下度候草々
 百拜
 ◎同返事
 御書面拜讀仕候一昨夜は御來臨被
 下為差御構も不致失敬多謝陳ば御
 話の件に付午後御當人御同道御出
 被下候由午後は外出の用向も有之

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

急ぎ明日の線替は面
 會可致候尤も先方
 依頼の件は先方
 申通置候故左様御承知可被
 下候勿復
 候へ共該件は日限も有之御取急と
 存候へば外出は明日に繰替午後面
 會可致候尤も御依頼の件は不取敢
 先方へ申通置候故左様御承知可被
 下候勿復
 ◎人の着否を問ふ文
 拜啓東京の何某様此程御出阪の由
 豫て同處滞在の者より申來有之候
 旅宿は何方とも存不申候へ共貴家
 へ對する用向も被帶候故相伺候へ
 ば御承知にも候半と存じ御尋申上
 候半と存じ候同氏
 〇人の着否を問ふ文
 拜啓して何某様此程此
 程の御上阪に際して豫て
 同處の滞在の者より
 申來有之候ありてきて旅
 宿何方とも貴家な用向
 被帶候故相伺候へ
 ば御承知にも
 候半と存じ候同氏

- 解顔ニワフリ
- 高澤ルコトギ
- 學術ガクモン
- 阻風ニトマル
- 〔三部〕
- 與隸イヤシキ
- 與論ニホク
- 與國ニカマ
- 與謀ニワル
- 餘裔ノコリ
- 餘貴ヨクナ
- 餘嵐アマリ
- 餘業シゴト
- 餘勇ユウキ

御書面拜讀陳ば東京の某氏着否御
 問合せに相成御答申上候御來意の
 通弊方に對し用向も有之候に付着
 早々被參候筈にて一昨日當地へ着
 被致面會致候然る處同氏は至急廣
 島表に用向出來昨日瀛車にて罷越
 候當地には尚々用向有之故兩三日
 候同氏は最早着坂被致候哉乍御手
 數當地在否御知らせ被下度候右願
 上度草々再拜
 ◎同返事
 御書面拜讀陳ば東京の某氏着否御
 問合せに相成御答申上候御來意の
 通弊方に對し用向も有之候に付着
 早々被參候筈にて一昨日當地へ着
 被致面會致候然る處同氏は至急廣
 島表に用向出來昨日瀛車にて罷越
 候當地には尚々用向有之故兩三日

- 學言ハコト
- 幼帝ナチキ
- 幼主同上
- 幼冲トナキ
- 幼穉同上
- 幼學ガクモン
- 鎔化トカス
- 庸劣オロカ
- 擁蔽オホヒ
- 容姿カガタ
- 容易ダヤス
- 容蔽オホヒ
- 駭世ヒビクリ
- 濟世ヨナホシ

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

杣幼ヨウチウ コトモ

にはのうんばら 當地のおほまか暫
時トキは滞存チウジユン承及候ウケツクあまひ

多寡タカ オホシ

不在フガイ中來りし人に

多能タノ オホシ

謝する文ウケガヒのいひわり

多難タナン オホシ

過刻クワクツクは御來車被下候ミキリクルマウケツク

打破ダツパ オホシ

折惡敷セウオクをり 不在中フガイ

打砲ダツポウ オホシ

敬ケイに至急シユウ 本日コンニチに他出タラシ

打銃ダツシュウ オホシ

明日アス午前コノアサは在宅シヤク致シ

睡手スイテ オホシ

居候イマヒを御依頼ミヨウイの件ケが

采願サイガン オホシ

大様オホサマは運ウツび相付アヒツキを

采雲サイウン オホシ

兩三日ニニシツ中ノに會合カウカク致シ

儒夫ニウフ オホシ

有之候間アリのマヒに御承知ミヨウシヤク

儒弱ニウジャク オホシ

可被下候ウケツクに

中には當地に歸り暫時滞在の由に
承及候御答迄匆匆

不在中來りし人に謝する文

謹啓過刻は御來車被下候處折惡敷

不在中にて欠敬致候至急の御用に

ては無之候哉本日は今より他出不

致明日午前は在宅致居候間左様御

承知可被下候豫て御依頼の件に御

座候へは大様運ウツび相付アヒツキ兩三日中

は會合の都合に致有之候間是亦御

承知可被下候不盡

退讓タイリョウ オホシ

人物の良否を問

退避タイヒ オホシ

以短札タンサツに同上候ドウジョウに御

退休タイシユ オホシ

承知之某氏ウケチノミヤウヂは今般

退隱タイイン オホシ

新設シンセツしたつた會社カイシャの野

退老タイロウ オホシ

生ナマ推舉スエキョも迷惑メイワクに貴君

退耕タイコウ オホシ

御同郷ミトウキョウに生立ナマタチより

退職タイシク オホシ

この御洞知ミトウチに承及候

退兵タイヘイ オホシ

経歴ケイレキを以て性行セイカウは

退陣タイジン オホシ

この御漏ミノし被下度ウケツクに

退去タイキョ オホシ

御依頼ミヨウイの草々クサクサに頓

體認タイニン オホシ

首カビを

泰然タイゼン オホシ

同返事

怠惰タイダ オホシ

尊翰ソンカン拜讀ハイドク御問合ミトウカヘの件ケに御尤ミヨウに存候

○人物の良否を問ふ文

以短札タンサツに同上候ドウジョウに御承知ミヨウシヤクの某

氏儀ウヂノギ今般イマハン新設シンセツの會社カイシャへ雇入エミイ度タク此儀

は野生セイセイよりの推舉スエキョに付若ツキニシし不都合フカウカク

有之候アリマヒにては迷惑メイワクに存候ソウ貴君キキミは御同

郷キョウにて生立ナマタチより御洞知ミトウチと承及候ウケツク故

經歷ケイレキ性行セイカウ等御尋申候ミヨウシユンマシマヒ間マヒ乍ハ御面ミオモ倒委タウイ

敷御漏シキミノし被下度ウケツク奉願ホウガン上候ウヘマヒ先は右御

依頼イライ迄草々キタタタ頓首トンスウ

○同返事

尊翰ソンカン拜讀ハイドク御問合ミトウカヘの件ケに御尤ミヨウに存候

尊翰拜讀御問合せの件御尤に存候

待遇タイウ アシラフ 意イのまほし 同人トウジンのまほし 同郷トウキョウのまほし
 逮捕タイブ シトル 殊コトににりて 同郷トウキョウのまほし
 逃撃トウキョウ シトル 生立ナマタチより ことら 経歴ケイレイ ことら
 大駕ダイカ シトル 性行セイカウ やうまのまほし 身分シバブン
 大旃ダイセン シトル 士族シゾクのまほし 幼年ジュウネン
 大擧ダイキョ シトル 民業ミンギョウのまほし 相
 好コトのまほし 爾來ニルライのまほし 實業ジツギョウ
 大策ダイサク シトル 上ウエにて ことら 一身イツシンを立て
 大任ダイニン シトル 度タクのまほし 志願シガンのまほし 頗トクるまほし
 大體ダイタイ シトル 堅固ケンコのまほし 學問ガクモン上ウエは ことら 數
 大凡ダイバン シトル 就中ジュチュウのまほし 作文サクブンのまほし 數
 大抵ダイテイ シトル 學問ガクモン 宜敷ヨシシのまほし 何々ナニナニ 業ギョウのまほし
 大概ダイガイ シトル 從事ジュウジ 致居シツキ 候コトのまほし 事業ジギョウ 熱ネツ
 心シンのまほし 性質セイシヤウのまほし 遊蕩ユウダウ 保ホ

如來ニョライ 意イのまほし 同人トウジンのまほし 儀ギのまほし 同縣トウケンのまほし 殊コトに 同郷トウキョウ
 故コト 生立ナマタチ 立タチより 能ノく 存居ソンキ 候コト 依ヨつて 左サに 經ケイ
 歷レイ 性行セイカウ 等トウ 可カく 申上マシウ 同人トウジンのまほし 儀ギのまほし 身ミ分ブンは 士族シゾク
 に 候コト へ 共キ 幼年ジュウネンより 民業ミンギョウ 相アひ 好コトのまほし 爾來ニルライ
 實業ジツギョウ 上ウエにて 一身イツシンを立て 度タク 志願シガン 頗トクる
 堅固ケンコのまほし 御座ゴザ 候コト 學問ガクモン 上ウエは 中學チュウガクを 卒ソツ
 業ギョウ 致シ 就中ジュチュウのまほし 作文サクブンのまほし 數學スウガク 宜敷ヨシシ 是コト 迄キ 國クニ
 許ヨるに 何々ナニナニ 業ギョウに 從事ジュウジ 致居シツキ 候コト 誠マコトに 事業ジギョウ
 熱心ネツシンにて 性質セイシヤウ 至シて 物堅モノケンく 遊蕩ユウダウ 杯ハヒ 致シ
 候風コト 聞クは 聊イタカも 不承フシヤウ 充分フブツブの 才氣サイキ 迎ムカは
 無ム之ノ 樣サマ 存候ソンコト へ 共實直キジツチキの 儀ギは 堅ケンく 保ホ

大赦ダイセツ ヲミテ 才氣サイキのまほし 實直ジツチキのまほし
 内應ナイオウ ヲミテ 保證ホテイのまほし 大樣ダイヤウのまほし 御答ゴトウ
 内証ナイシヤウ ヲミテ 珍客チンキヤク 入來ニルライを 報ホウす
 内附ナイブツ ヲミテ 文ブン
 題號タイガウ シトル 陋生ロウセイのまほし 知己チキのまほし 人ヒトのまほし 滿マン
 乃者ノシヤ シトル 洲シウのまほし 牛莊ウシシヤウ 旅順リョシュン 口コウのまほし 邊ヘン
 達人ダツジン シトル 邊ヘンのまほし 目今メイコンのまほし 前刻ゼンコクのまほし 來ライ
 訪致ホウシ 吳候ウコウのまほし 種々シュウシュウのまほし 經ケイ
 脱畧ダツリョク シトル 經歴ケイレイのまほし 要件ヤウケンのまほし 無ム
 脱簡ダツカン シトル 風習フウシヤウのまほし 相違サウビのまほし 揭載ケツサイ 無ム
 脱身ダツシン シトル 差向サウカウのまほし 御多用ゴトウヨウのまほし
 脱誤ダツゴ シトル 即刻ソクコクのまほし 御來車ゴライシャのまほし 草々ソウソウ
 脱字ダツジ シトル 依賴イライのまほし 受ウケたる 件ケンに
 脱籍ダツセキ シトル 依賴イライのまほし 受ウケたる 件ケンに

證仕候先は 大樣御答迄 勿々不悉
 ◎珍客入來を報する文
 拜啓陳は 陋生知己の人にて 豫て 滿
 洲牛莊旅順口邊に 罷越居目今 大連
 より 罷歸り 前刻來訪 致吳候種々 經
 歴談承り候處 大に心得に 相成候要
 件も有之 又其風習相違の 廣新聞紙
 にも 掲載無之 話有之 共々 聽取候故
 差向御多用に 無之候は 即刻御來
 車相待候草々
 ◎依賴を受たる件に付人を

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

脱文ツクシ 呼よびに遣つかはす文
 脱走ツクシ 至急しきふ申進まをし候しんじ一昨日おとけふ御依頼ご依頼の件こと昨朝けふあした
 蕩除ウツリ 先方せんぱうへ罷出まかり候候處ところ早曉さうぎやうより他出たしだにて
 蕩々ウツリ 他出たしだ 面會めんかい不致ふち昨日けふ又々またまた參り漸く面會致
 蕩逸ウツリ 昨夕けふゆふのげん 漸くつ寶物たからもの 拜見はいけんの上うへならで
 陶化タウカ 拜見はいけんをみるこゝ 一見いけんと申候故
 陶々タウタウ 日ひに午後ごごから書類しよるふ御携ごたづに
 納款ノウカウ 携たづにてつ迂生えいせい方かたに御來ごらい車くるま可被べ下候左候
 踏製トウセイ 來車らいしやで直ただに御同伴ごどうはん可被べ下候左候
 船略センリヤク 草々くさくさ不ふ一いつ 〇商人しやうじんを呼よびに遣つかはす文
 船鈴センリン 〇商人しやうじんを呼よびに遣つかはす文
 闘争トウサウ 當方たうほうにたか 此程このほど縁付えんづき候
 諸選シュゼン 衣類いらいも、一覽いんぱんみるも多

呼よびに遣つかはす文
 至急しきふ申進まをし候しんじ一昨日おとけふ御依頼ご依頼の件こと昨朝けふあした
 先方せんぱうへ罷出まかり候候處ところ早曉さうぎやうより他出たしだにて
 面會めんかい不致ふち昨日けふ又々またまた參り漸く面會致
 候然候然るに何分なにぶん寶物たからもの拜見はいけんの上うへならで
 は何共なにとも難がた申依まをて一見いけん致度ちどと申候故
 本日けふひ午後ごご何時なんじ頃ころ寶物たからもの并ならに書類しよるふ御携ごたづ
 にて迂生えいせい方かたに御來ごらい車くるま可被べ下候左候
 はゞ直ただに先方せんぱうへ御同伴ごどうはん可申上候先
 は右申上度草々不ふ一いつ
 〇商人しやうじんを呼よびに遣つかはす文
 〇商人しやうじんを呼よびに遣つかはす文
 〇商人しやうじんを呼よびに遣つかはす文
 〇商人しやうじんを呼よびに遣つかはす文

諸貢シュクワン 忙いそが 參居まゐり候まゐる 遠方えんぱうに
 卓見タクケン 御足勞ごそくろうに候へ共とも御見ごけんに
 卓爾タクニ 縮緬しゆくめん物のちりめん模様もよう物ものの
 託屬タクゾク 可成かななる品數しんすう多く候候に
 擢用タクヨウ 御持參被下度ごもちさんに候候に
 碌桌ロクゾク 色帳いろちやうつけたるは、共ともに
 拓開タクカイ 草々くさくさ不ふ一いつ
 諾々ダクダク 〇他所たしよにて滞在中たいざいに
 答書コタヘ 世話せわになりたる
 答紙コタヘ 禮文れいぶん
 旦日タンジツ 以愚翰いごくわん啓上仕候けいじやうに
 旦暮タンボ 御地ごちおさる滞在たいざいの節せつは、
 單軍タンジュン 種々しゆしゆ御厚配ごこうはいに
 單騎タンキ 預りあづかりまして奉鳴謝候ほうめいしゃ候

陳ちんば當方たうほう儀ぎ此程このほど娘縁むすめえん付候つに付衣類いらい
 一通いつとうり相揃あひそろ度ど御店ごてんへ參り一覽いんぱん可致かち
 筈はずに候へ共とも多忙たはばいにて皆々みなみな打揃うちそろ參店さんてん
 致候ち候譯わけには不參ふさん甚遠しんえん方ほう御足勞ごそくろうに候
 へ共縮ともちゆく緬物めんもの模様もよう物もの帶類おびるい色々いろいろ取揃とりそろ可
 成品數せいひんすう多く御持參被下度ごもちさん候候亦色物いろもの
 染方ぞめかたも依頼らいばい致度ちど候間候ま色帳いろちやうをも共ともに
 御持參被下度ごもちさん候取急とくきふ草々くさくさ
 〇他所たしよにて滞在中たいざいに世話せわになりたる禮文れいぶん
 以愚翰いごくわん啓上仕候御地ごち滞在たいざいの節せつは種

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

膽略 ナハシモ
 膽氣 同上
 膽給 モノナキ
 探索 サカス
 端正 タトシ
 祖揚 ハダク
 箠鞭 ヲウケル
 短才 ササキ
 嘆願 ガツキ
 淡泊 アツサリ
 誕妄 リソツ
 誕辰 リビ
 耽樂 アソビ
 丹心 マコロ
 嘆願 ガツキ

このうへなくれ該事件の歸
 着草々なり準備は漸く
 づつ相纏りかた誠には御地
 おまの滞在の砌に窮迫を
 極めこのうへな且つ如何
 致さんと迄致候しらぬ
 ひは莫大の御高恩を不
 具は 頓首
 ○同 返事
 御紙面にて御歸郷の御事
 御事件の御纏りの御事
 恐悦に存候御事
 この御滞在の御困難中
 のうへ御心中の一時

御厚配に預り難有奉鳴謝候該事
 件歸着草々準備に取掛り漸く相纏
 り申候誠に御地滞の砌は窮迫を
 極め且つ病氣にて如何致さんと迄
 致候折柄段々の御厄介に相成候事
 故莫大の御高恩と存候右不取敢御
 禮迄不具頓首
 ○同 返事
 御紙面拜讀御歸郷の後御事件都合
 好御纏りの由恐悦に存候當地御滞
 在の節は御困難中御病氣にて御心

談話 ハナシ
 談笑 ハナシ
 談柄 ハナシ
 根然 ハナシ
 根頭 ハナシ
 男兒 ナトロ
 斷然 キコリ
 彈丸 ナメ
 感民 カス
 殖民 ヤス
 化民 ヲカス
 挑戦 ナカレ
 罷戦 シマフ
 負貴 ガル

寒梅の御志願御途
 被成候上は寒梅の御志願御途
 語の弊方御力に
 も相成候候に
 御念入りたるは痛入
 候おそれ祈上候草々
 不備
 ○人の爲に助力を
 乞ふ文
 以書狀啓上仕候御親族
 御親族の何某様
 近隣にて御生計向
 近隣にて御生計向
 御不如意に相成つ
 漸々一改革

中察上候乍併一時の御困難にて雪
 に押さる寒梅も春に遇ては花咲
 候如く今日御志願御途被成候上は
 昔語と相成候弊方格別御力にも成
 兼候に御念入りたる御禮状に預り
 却て痛入候尚御都合宜敷様祈上候
 草々不備
 ○人の爲に助力を乞ふ文
 以書狀啓上仕候陳ば御親族何某様
 事御承知の通近隣にて御生計向
 頃段々御不如意に相成乍不及御心

一日にく御困難ごんなん
 相増あひましがえ小生せうせい方かたはたく一いっ
 分ぶんはしん出金しゅつきん致いたしは法立はふだて
 致いたしは何卒なにぞ御親ごんしん
 威せきをしん幾何いくげ御出金ごしゅつきん致いたしは
 御賢慮ごけんりょをし伺上かみじやう候まはすは
 頓首とんしゅ

添そへをも致居候へ共何分長々漸々斯か
 く成なり来きたり候事故一改革不致候ては
 日にく御困難相増候様存候依て
 小生方も一分出金致し法立致し差
 上度存候に付何卒御親威の御間柄
 を以て凡幾何の御出金相願度右御
 賢慮伺上候頓首
 ◎同返事
 貴墨拜誦御近邊に罷在候何某方事
 に付御芳慮難有存候彼方は弊家親
 戚とは申もの、只今にては疎族と

黎民れいみん 同上
 黎庶れいしよ 同上
 黎明れいめい 同上
 麗質れいしつ 同上
 麗譙れいせう 同上
 諫屬けんじゆく 同上
 冷官れい官 同上
 伶俐れいり 同上
 禮遇れいご 同上
 囹圄れいご 同上
 零崎れいせき 同上
 齎測れいそく 同上
 烈婦れいぷ 同上
 列官れつ官 同上

迄の困難とは存不申候
 而己承知致し斯迄の困難とは不存
 申當主は誠に謙遜實直にて其邊一
 向相話不申為に實情存不申候也縱
 ひ疎族に候共親族には相違無之候
 故立行不申節は何とか致不遣候て
 は相成不申候に付何れ明日參趨御
 厚意陳謝旁愚見可申述候敬復
 ◎救助を受たるを謝する文
 謹啓過般は非常の困難に陥り日々
 難取續場合に立至り候處段々御配

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

列宗リョウソウ 同上 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい

列祖リョソ 同上 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい

列國リョククニ 同上 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい

列坐リョウサ 同上 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい

列席リョウセキ 同上 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい

僚佐リョウサ 同上 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい

僚官リョウカン 同上 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい

了々リョウリョウ 同上 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい

了然リョウゼン 同上 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい

了解リョウカイ 同上 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい

了事リョウジ 同上 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい

了快リョウクワイ 同上 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい

料理リョウリ 同上 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい

歴史リシ 同上 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい 難取續場合なんしゆくじやうがわい

慮りよに預あづかり御盡力ごじんりきよを以て御惠ごけい與よ金落きんらく

手致てし候段萬々難がた有存ありぞん候早速さつそく御禮ごらいに

可罷べき出いの處病後未歩びやうごいまだほ行致兼明日社かうたいたあしたのじや

はと乍存延引相成申譯無之何卒御なからぞんえんいんあひなりまをわいなきなひそご

海容被下度候何れ兩三日の後參館かいようひきくだごういれりうさんじつのごのちまかん

御禮可申上候へ共餘り遲延に相成ごらいかまうしあごうへいしよあひりちえんにあひなり

候故乍失禮不取敢書面を以て御禮ごうごうなからしつれいふとらうたかかんをいごらい

申上候頓首百拜まうしあごうとんしゆひやくぱい

◎小兒の危急を救はれたるせうにせいのきききをすくはれたる

を謝する文をせうするぶん

拜啓過刻は愚息事危険に陥り候處はいけいこわくとくはぐよくじきけんにおちりごうち

歴觀リキケン 同上 過刻こわくとく 愚息事危険に陥り候處ぐよくじきけんにおちりごうち

歴覽リキケン 同上 過刻こわくとく 愚息事危険に陥り候處ぐよくじきけんにおちりごうち

連年レンネン 同上 過刻こわくとく 愚息事危険に陥り候處ぐよくじきけんにおちりごうち

連合レンガフ 同上 過刻こわくとく 愚息事危険に陥り候處ぐよくじきけんにおちりごうち

連盟レンメイ 同上 過刻こわくとく 愚息事危険に陥り候處ぐよくじきけんにおちりごうち

連綿レンメン 同上 過刻こわくとく 愚息事危険に陥り候處ぐよくじきけんにおちりごうち

連日レンジツ 同上 過刻こわくとく 愚息事危険に陥り候處ぐよくじきけんにおちりごうち

連戰レンセン 同上 過刻こわくとく 愚息事危険に陥り候處ぐよくじきけんにおちりごうち

連壁レンベキ 同上 過刻こわくとく 愚息事危険に陥り候處ぐよくじきけんにおちりごうち

連署レンシヨ 同上 過刻こわくとく 愚息事危険に陥り候處ぐよくじきけんにおちりごうち

連累レンルイ 同上 過刻こわくとく 愚息事危険に陥り候處ぐよくじきけんにおちりごうち

連朝レンテウ 同上 過刻こわくとく 愚息事危険に陥り候處ぐよくじきけんにおちりごうち

鍊磨レンマ 同上 過刻こわくとく 愚息事危険に陥り候處ぐよくじきけんにおちりごうち

鍊熟レンジュク 同上 過刻こわくとく 愚息事危険に陥り候處ぐよくじきけんにおちりごうち

御通掛ごつうがけりにて御救助被下難有奉鳴ごきうじゆひきくだがたありほうなう

謝候誠せうごうまことに再生さいせいの御恩ごおんにて若し其際わかしそのとき

御通行無之候は如何に致候半早ごつうかうむしごうはいかにちごうはんはや

速御禮に可罷出の處當人少々氣打すみごらいにべきいでのちあたうじん少々きうち

致候故手宛彼是に取紛れ自分も少ちごうごうてあてかれこれにとりまがれじぶんもすく

々不快に候に付不取敢乍失敬書面々ふくわいごうにつとらうたかかん

を以て御禮申上候何れ明朝更に參をいごらいまうしあごういれりあしたさらま

頓首九拜とんしゆくぱい

◎未逢人に贈る文いまだあひにのむ

拜啓未得拜顔候へ共尊名夙に拜承はいけいいまだえがたごうへいそんかいつこはいしやう

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

盤興ハシヨク 今この御遊歴ウツレキにて
 盤路ハシロ 常地ツネチの新聞紙シンブンシ上ウヘに
 盤下ハシゲ 承知仕候ウケチカシマシした 誠マコトは
 廉潔レンケツ 紹介者セウカイシャの御手蔓ウデヅクにて
 廉恥レンチ 其手蔓ウデヅクたるに失敬シツケイな
 廉價レンケン 御許容ウケマシるに否イナりませうか 奉伺
 廉節レンセツ 上候ウヘマシをします 甚ハナハだに恐縮ウソク
 練兵レンペイ 之ノ至マりて若ニシテ御聴許ウケマシひ
 懸念ケンネン 御下報ウケマシへ頓首トンスウを
 憐愍レンミン 〇久しく逢アはざる
 憐察レンサツ 人に贈オクる文ウチガヒのみにあは
 「リ部」 以雁書ウツガシ啓上仕候ウケマシるに
 粗糲ソラツ 袂別ベツベツ以來イライは頗久トシホウ潤ウツ
 粗惡ソラク 潤ウツに打過ウチス多罪タサイ之至マ

致居シツ 一度御面謁ウツメダク願度存居候處ウケマシ今
 御遊歴ウツレキにて當地へ御着被成候由新
 聞紙ウツシ上ウヘにて承知仕候誠は紹介者
 以て拜面可致答に候へ共其手蔓
 無之候に付乍失敬拜面御許容被
 下候哉否奉伺上候甚恐縮の至に存
 候へ共若御聴許被下候は御下報
 宜敷願上候頓首
 〇久しく逢はざる人に贈る文
 以雁書啓上仕候袂別以來は頗久潤
 に打過多罪の至に存候承候へば御

粗才ソウサイ に存候ウケマシるに御渡航
 粗惡ソラク 御住居ウケマシる奉賀上候
 粗糲ソラツ 遷生ウツシ其後ウツシから
 詛呪ソウジ 致し目下ウツシ生計
 詛謔ソウゲツ 乍憚ウツシ御降慮ウケマシ候
 疎妄ソウワ 住地ウケマシ内地ウツシの氣
 疎傾ソウケイ 候ウケマシ異に候へば
 疎慢ソウマン 時下ウツシ折角ウツシ御自
 疎惰ソウダ 重ウツシ草々ウツシ敬具ウツシ
 祖宗ソウソウ 〇同 返事
 祖先ソウセン 御來書ウケマシ是より意外ウツシ
 素志ソウシ 意外ウツシの御疎濶ウツシ打
 素廉ソウレン 過ウツシ御音信ウツシ業務ウツシ

渡航ワツカウ の後御都合宜敷暫時其御地に
 て御住居の由先以奉賀上候遷生其
 後不相變會社に從事致し目下生計
 差支候儀も無之候間乍憚御降慮可
 被下候御住地は内地と變り氣候も
 異に候へば時下折角御自重可被成
 候草々敬具
 〇同 返事
 御來書拜讀其後は是より意外の
 御疎濶に打過不相濟儀に御座候豫
 て御音信中上度存居候處何分業務

漢語解

文章註解

書簡之部 普通門

素撲同上	繁忙之上に郵書差出候都合惡敷爲に
素懐ノオモヒ	御無音相重ね候當方格別都合も不
素餐フシク	宜候へ共先は目下可成の事に御座
塵生ヨミガへ	候貴君には不相變社務御從事の由
狙撃ウチヒ	遠地に參り困苦致候よりは結句御
齟齬ヒヒガ	都合宜敷事と存候貴酬迄草々
阻隔ヘダラ	謹呈稍暖和相催候處御双親様愈御
鼠竄カクレル	静全に被爲在候哉奉同上候次に私
楚捷ウチマ	儀無異消光罷在候間乍憚御休神可
租税オサム	被下候斯く健氣には致居候へ共時
微租リヌタル	
率先ツキニタ	
率土アリカ	
卒爾ニワカ	

○故郷の兩親を訪ふ文
 謹呈稍暖和相催候處御双親様愈御
 静全に被爲在候哉奉同上候次に私
 儀無異消光罷在候間乍憚御休神可
 被下候斯く健氣には致居候へ共時

聰明ツコウハ	か健氣にはははん時々
聰慧同上	郷里に想起し思に
聰穎同上	沈み候は本年夏季
聰明同上	休學の期日々
聰敏同上	屈指致候間左様御承知可被
聰察同上	下候當所名産にて御口腹に相適ひ
奏請チカシヘ	候何々聊か別便にて差送り候間御
奏聞チカシヘ	落手可被下候其内小包の方は某處
總督シヤウ	姉上様方へ御序の節御届被下度候
總裁シヤウ	先は御安否御伺迄草々不既
總領同上	○逃亡者を探ぬる文
總角アグマキ	肅白其後は御無音に打過候處貴家
僧徒ハツ	

○逃亡者を探ぬる文
 肅白其後は御無音に打過候處貴家

○漢語解
 ○文章詳解
 ○書簡之部 普通門
 八十一

御所 往還御所
 御頼寄 速に其儀
 無之筈 去迎
 其儘 後より見
 見え隠れ 追跡致
 候處 下宿業某方
 某方 被立入候て
 密に同家
 同行 之と共に
 暫時 宿つて
 尚又 萬一
 被立出候て 同主
 通知可致し 約束

目に懸り御所在承り候處判然御答
 無之拙家へ御頼寄相成候ては速に
 相知れ候事故其儀無之筈に御座候
 去迎其儘御別れ申御所在見失候て
 は不相濟儀に付後より見え隠れに
 追跡致候處何町何番地下宿業某方
 へ被立入候依て密に入を以て同家
 へ問合候處何某とて同行の人其有之
 之と共に暫時寄宿との事に御座候
 尚亦萬一同家被立出候節は同主人
 より前以拙家へ通知可致様約束致

左様 右迄
 誕生日に友を招
 一酌相催し 懐舊之談話
 御同様に 竹馬の友情
 申度 申度
 可成御貴臨
 團居致候而
 乗じ共々野邊

有之候間左様御承知可被成候先は
 右迄草々
 ◎誕生日に友を招く文
 拜啓来る何日は小生誕生日に付一
 酌相催し座上懐舊の談話殊に御同
 様父母養育の辛苦を談じ竹馬の友
 情相語り申度為差御用向も無之候
 は可成御繰合せ御貴臨被下度候
 將又一室に團座致候而己も不面白
 候へば時候の程好に乘じ共々野邊
 散歩の興をとり取度候御案内迄草々

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

年齒トシノ 興をも取り度きふるある
 熱血イキチ 御案内不備
 熱中ニナリ ○紹介を請ふ文
 拜白をす御清榮候何
 内外何某様候様 豫て何
 御懇意此程この面會
 乃公オノレ 依頼致度一面
 乃至ナラズ 識も無之だん願兼候へ
 捺印スラオ 候かへてました遊願兼候へ
 南面ニヨシ 共まこまが御添書へ頂
 難易ムツカシ 敷致し先方さま御紹
 難論イゴロシ 介あはせ御聴許被下候
 難問イトヒシ 被仰下度くだされたい
 難關イイアヒシ ○同返事

不備
 ◎紹介を請ふ文
 拜白愈御清榮奉賀候陳は何處何某
 様事豫て御懇意の由此程面會依頼
 致度儀御座候へ共未だ一面識も無
 之事故黙止居候甚願兼候へ共御添
 書にて頂戴致し先方へ参り度候
 間御紹介被下度候若御聴許被下候
 は其趣賤价へ被仰下度先は御依
 頼迄匆々頓首
 ◎同返事

死難トニシコ 御來書拜讀陳は何處何某氏へ御面
 殉難同上 おのぞ同氏は至極懇意に付口
 靖難オオメル 意こ口上而已にて
 【ラ部】 先方其節御同伴
 羅列ナラン 致し御親密
 雷名ナクタイ 御交際取計らひ可
 磊落オホ 申候時刻少々前方
 老幼同上 拙者方迄御越可被下候貴酬耳草々
 老悔トシヨリ 〇紹介を受たる禮文
 老衰コハル 謹啓する昨日某君方
 老愆同上 謹啓する昨日某君方
 考悖イイホレ だれれ御紹介あはせ豫て
 老悛同上 かへた志望相達しついで得

御來書拜讀陳は何處何某氏へ御面
 會御求の由同氏は至極懇意に付口
 上而已にて御出被下候ても宜敷候
 へ共明日にて御出被下候ても宜敷候
 方へ可罷出候間其節御同伴致し御
 親密御交際被成候様取計らひ可申
 候時刻は何時頃出掛候故少々前方
 拙者方迄御越可被下候貴酬耳草々
 ◎紹介を受たる禮文
 謹啓昨日は某君方へ御紹介被下難
 有存候御蔭を以て豫ての志望相達

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

反逆ヒナゲル 益致候益 尚今 今後カキ
 (ウ部) 御眷顧相蒙御 御用多御 御同伴被下御 御縮仕候御 御詞添被下御 大に都合宜敷
 迂遠ウダヒ 君御 御用多御 御縮仕候御 御詞添被下御 大に都合宜敷
 迂濶ウダヒ 御同伴被下御 御縮仕候御 御詞添被下御 大に都合宜敷
 宇内ウチノ 恐縮仕候御 御縮仕候御 御詞添被下御 大に都合宜敷
 紅曲ベニマカ 添書添 戴戴 候御 而已御
 雨泣アメナリ 種々種々 甚甚 仕合仕合
 羽翼ウヨク 九拜九拜
 胡亂ウラカシ 不時不時 招を斷る文招を斷る文
 運用ウツク 御恩書御恩書 即刻即刻
 運祚ウツク 御恩招御恩招 珍珍
 運壽ウツク 客客 御來臨御來臨 早速早速
 運漕ウツク 無據無據 今今 期期 しし
 云々云々 同道同道 或方或方

し大に得益致候尚今後御眷顧相蒙
 り候様貴君より宜敷御詞添相願候
 將亦御用多の處御同伴被下何共恐
 縮仕候只々御添書戴戴 候御 而已御
 違違 ひ種々御詞添被下大に都合宜敷
 甚仕合甚 に存候右御禮迄草々九拜
 ◎不時の招を斷る文たふいによはれ
 御恩書拜讀仕候即刻とて唯今御惠
 招に預り難有存候珍客御來臨と有
 之候へば早速罷出度候處無據今午
 後二時を期し同道にて或方に参り

老練オウレン 参居候参居候
 老朽オウコウ 通常通常 用向用向 其人其人
 狼狽オウタイ 一身一身 上上 差差 線線 不不
 狼狽オウタイ 相成相成 午午 遺遺
 勞苦オウク 憾憾 參堂致兼候間參堂致兼候間
 勞逸オウイツ 不惡御承知可被不惡御承知可被
 落簿オウボ 下候下候 再拜再拜
 落劍オウケン 同同 上上
 落膽オウタン 後後 の禮文の禮文
 樂歲オウサイ 參館仕參館仕 種々種々 御席御席
 樂土オウツ 上上 満州狀況及韓國満州狀況及韓國
 亂逆オウギャク 之現況之現況 風風
 亂階オウカイ 習等習等 種々種々 之御珍話之御珍話
 亂離オウリ 新聞上新聞上 是等是等 の事相掲の事相掲 有之候有之候

候約東有之其人參居候て斷の申様
 無之通常の用向に候へば相斷可罷
 出候へ共其人一身上に相係り候儀
 故差線不相成午遺憾參堂致兼候間
 不惡御承知可被下候草々再拜
 ◎馳走になりたる後の禮文のれい
 拜啓昨日は參館仕種々御馳走に相
 成難有存候御席上滿洲狀況及韓國
 の現況或は同國の風習等種々の御
 珍話拜聽致頗る愉快を覺え候豫て
 新聞上には是等の事相掲け有之候

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

亂發らんぱつ 亂緒らんじょ 關入かんにゅう 關出かんしゅつ 濫觴らんしやう 懶散らんさん 懶惰らんた 無心むしん 無論むろん 夢幻むげん 夢想むそう 夢寐むび

るおほ愉快うけたか 新開しんかい 斯し 御一同ごいつどう 御鶴聲ごかくしやう 頓首とんしゅ

○旅行を約する文
寸猪すんちゆ 拜呈はいてい 先夜せんや 御面會ごめんかい 候節こうせつ 筋すぢ 遊覽ゆうらん 小生せうせい 馬關ばかん 同行どうかう 博多はくた 是非しぜい 乘船じやうせん 多度津たどつ 金刀比羅宮きんたひらみや 門司もんじ 汽車きしや 詣致きよぢ 歸路きりぢ 若御同わがごご

へ共斯こし 委敷うけしき 事こと 存不申ぞんずけず 大おほ 後來ごらい の心得こころえ 相成あひな 候こう 乍は 憚おぼ 御令室ごれいしつ 始はじめ 御一ごいつ 同どう へ宜敷よろしき 御鶴聲ごかくしやう 可被かたが 下候したう 頓首とんしゅ

○旅行を約する文
寸猪すんちゆ 拜呈はいてい 仕候しこう 陳ちん 先夜せんや 御面會ごめんかい 致候ぢこう 節せつ 御話ごわ 申上まへあ 候下こうげ 筋遊覽すぢゆうらん の儀ぎ 御同行ごどうかう 如何いか 候哉こうざい 小生せうせい 儀ぎ 馬關ばかん と博多はくた 如何いか 是非しぜい 用向ようかう 有之あ 候こう に付來つきた 何日なにち 乘船じやうせん 致ぢ 先づまづ 多度津たどつ に着つ 金刀比羅宮きんたひらみや へ參詣さんぎ 致ぢ 夫おの より門司もんじ へ參りまゐ 汽車きしや 車くるま にて博多はくた 着馬關つきてばかん へは歸路かへりぢ に立寄たちよ

蘊結うんけつ 蘊積うんせき 舒愛しゆあい 詒愛たひあい 關疑くわんぎ 決疑けつぎ 苦憾くくわん 恭聞こうもん 忍饑にんけい 報怨ほうおん 常疑じやうぎ 遠怨えんおん 井部いべ 遺漏いろう

遊あそ 其趣そのしゆ 被仰おほせ 聞度候きんたうこう 草々くさくさ 不盡ふじん

○同返事
芳墨ほうぼく 拜誦はいじゆ 西國筋さいこくすぢ 御旅行ごりょかう の事こと 先夜承せんやじやう 候こう に付種々ついで 勘考かんかう 仕候處しこうところ 如何いか に宜敷よろしき 敷御連しきごれん 故陪遊こばいゆう 可致かたが 決定仕候けつていしこう 乍併はなは 來きた 何日なにち には罷出兼候まひだしかねこう に付一兩日ついで 御延日ごえんじつ 被下おほ 何日なにち 御出發ごしゅつぱつ に被成下候おほ はゞ都合ごご 候こう 御座候ござこう 免めん 角かく 明朝御方めいぢやうごほう 角かく へ罷越候まへこ 間其節まひだ 昇堂しやうだう 萬々まゝ 相伺可あひま 申候拜復まへま

申積まへ 其趣そのしゆ 被仰おほせ 聞度候きんたうこう 草々くさくさ 不盡ふじん

○同返事
芳墨ほうぼく 拜誦はいじゆ 西國筋さいこくすぢ 御旅行ごりょかう の事こと 先夜承せんやじやう 候こう に付種々ついで 勘考かんかう 仕候處しこうところ 如何いか に宜敷よろしき 敷御連しきごれん 故陪遊こばいゆう 可致かたが 決定仕候けつていしこう 乍併はなは 來きた 何日なにち には罷出兼候まひだしかねこう に付一兩日ついで 御延日ごえんじつ 被下おほ 何日なにち 御出發ごしゅつぱつ に被成下候おほ はゞ都合ごご 候こう 御座候ござこう 免めん 角かく 明朝御方めいぢやうごほう 角かく へ罷越候まへこ 間其節まひだ 昇堂しやうだう 萬々まゝ 相伺可あひま 申候拜復まへま

遺失オトリオト 遺典オキチ 遺憾オキチ 遺訓オキチ 遺業オキチ 遺愛オキチ 遺詔オキチ 違背オキチ 違旨オキチ 違勅オキチ 偉業オキチ 偉勳オキチ 維新オキチ 維持オキチ

○旅行の約束を断る文
 一昨日旅行の約束を断る文
 来月中旬頃迄は是非在宅に在り候は
 存外之事にて迷惑に候へ共致方無
 依て此度は同遊致兼候間不惡御承
 知可被下候先は不取敢御断迄何れ
 御出發迄には拜面萬々可奉陳謝候
 草々頓首

○旅行出發期日問合せの文
 旅行出發期日問合せの文

○旅行の約束を断る文
 一昨日旅行の約束を断る文
 来月中旬頃迄は是非在宅に在り候は
 存外之事にて迷惑に候へ共致方無
 依て此度は同遊致兼候間不惡御承
 知可被下候先は不取敢御断迄何れ
 御出發迄には拜面萬々可奉陳謝候
 草々頓首

○旅行出發期日問合せの文
 旅行出發期日問合せの文

畏縮オソム 委任オカセル 夷族オキチ 衣冠オキチ 威權オキチ 農功オキチ 農時オキチ 農具オキチ 能事オキチ 後慮オキチ 断後オキチ

○同返事
 御書が拜讀せられ小生は
 旅行の出發期日問合せの
 御答へ豫てはまづも明後
 日頃にて心停り無據なく

○同返事
 御書が拜讀せられ小生は
 旅行の出發期日問合せの
 御答へ豫てはまづも明後
 日頃にて心停り無據なく

○漢語解

○文章註解

○赤簡之類 普通門

〔才部〕 生起致し候。此儀の費
 應對可申。し候へば、相濟可申
 存候。本日一
 億兆。過問。即ち何日
 憶説。其頃。若つ御
 同行。相期候。御
 草々。草々
 ○旅行出發を報す
 文
 拜啓。遷生儀。渡航致
 候。本日。此段の御報申
 上候。往復を除き
 苦慮。凡そ滞り
 苦悶。御文通可致候

申上候。豫ては明後日頃の心算に御
 座候處無據差支生起致し右相形付
 候。後ならでは出立難致此儀は三四
 日も費し候はゞ相濟可申存候に付
 本日より一週間の後乃ち来る何日
 頃。相成可申候。其頃若御都合好候
 はゞ御同行相期候草々
 ○旅行出發を報する文
 拜啓。陳ば遷生儀。此度大連へ渡航致
 候。に付本日出發致候間。此段御報申
 上候。往復を除き。凡そ何十日間滞

苦情。御依頼相成
 苦戦。該地の令弟御
 軀役。御訪問
 愚痴。無相
 愚業。相傳可申候
 愚人。御儀別奉
 愚者。御儀別奉
 愚味。御儀別奉
 愚忠。御儀別奉
 愚直。御儀別奉
 愚計。御儀別奉
 愚蒙。御儀別奉
 過失。御儀別奉
 過督。御儀別奉

豫ては、御依頼相成
 候。該地の令弟御
 到着早々御訪問
 申。御儀別奉
 違ひなく相傳可申候
 重寶成り候御儀別奉
 謝候。御儀別奉
 御致聲。御儀別奉
 ○旅行先より自宅へ
 着報の文。御儀別奉
 以郵書申進候。御儀別奉
 今。當地
 中。無事。御安堵
 船便。一定之事に

の積りに付時々御文通可致候。豫て
 御依頼相成候。該地御滞在の令弟御
 事到着早々御訪問申御傳言無相違
 相傳可申候。又昨日は何より重寶
 成御儀別。預り難有奉謝候。乍憚御
 賢父様へ宜敷御致聲。被下度候。不
 ○旅行先より自宅へ着報の文
 以郵書申進候。今何時何十分當地着
 途中無事に有之候間。御安堵可被成
 候。船便は一定の事にて道損とては
 無之候へ共。出立の時取急ぎ。地圖道

○漢語解
 ○文章註解
 ○卷簡之部 普通門
 九十五

過當クワタウ 過擧クワキョ 過期クワキ 過差クワサ 過輕クワケイ 過慮クワリョ 過重クワチュウ 過譽クワヨ 過激クワゲキ 華麗クワレイ 華宵クワウ 華裔クワエイ 華奢クワシャ 華勳クワクン

てまつて地圖チウブの道案内ミチ案内 書籍シヤク 土地不案内チチふ案内 内之道ウチノミチの著名シヤクメイ 何驛ナニエキの都邑トウイ 一見イツケンの著報シヤクホウ 後便コウベン 後便コウベン 後便コウベン

○旅行先より他處に轉じたるを報する

文

一書イツショ差出候サシデテ豫カハて着報シヤクホウ致候チカヒ後同地何町旅人宿何屋事何某方に投宿致し何某民方へ早速参り候處某地へ用向有之昨日出立致し四五日も滯留

○旅行先より他處に轉じたるを報する文

一書差出候豫て着報致候後同地何町旅人宿何屋事何某方に投宿致し何某民方へ早速参り候處某地へ用向有之昨日出立致し四五日も滯留

訛言シコゲン 訛謬シコミョウ 火攻カクウ 火急カクキウ 貨財カザイ 貨幣カヒ 貨殖カシク 貨利カリ 貨賂カロ 果斷カクタン 果決カクケツ 果斷同上 果然カクゼン 誇言クワゲン 臥内フイナイ

不在フゼイ 面會メンカイも致度チカヒ十幾里外シキリガイある名ある土地チ一覽イツラン旁ナカ相尋サウジン行面會相遂申候カウヘサウジマシウケ 當處トウチ罷在候間ハカシマシウケ 左様サマ御承知可オウケウチカシ 被成候ヒナリケル申進置候也マシマシウケ

○旅行先より自宅へ着類送致を申送る

文

以手紙テガミ申進候マシマシウケ當方トウヘ向今日頃相濟カウケイ 歸宅キヤク致候様申送置候處不圖意外フツブツの故障カウバウ出來今少し落着致兼候故尚一

○旅行先より自宅へ着類送致を申送る文

以手紙申進候當方用今日頃相濟歸宅致候様申送置候處不圖意外の故障出來今少し落着致兼候故尚一

○漢語解

○文章註解

○書問之部 普通門

禍亂ワラン 今少いますくしし 落着おちつき致いた兼か 課試カクシ 尙なほ 一週しゅうかん間まの歸宅きたく 課目カクモク 延引えんいんなるこゝ當地このこゝ 止戈シカ 汽車きしや 便びんりり何某方なにがたも 快心クワイシン 相待あひまち候半ままつて 別紙べつし 會合クワイゴウ 封中ふうちゆうの書面しよめん 會計クワイケイ 早速さつそくに御届ごとど可被成候 會社クワイシャ 愛許あいしよこの報知ほうち可致 魁偉クワイ 同上 歸郷ききやうの人歸宅延引きたくえんいん 魁首クワイシュ の事情じよじやうを申送る文 誨示クワイシ 以郵信ゆうしんのてがみで 申進候 延引えんいんなるこゝ 延日相成えんじつさうせい候也ま 歸郷ききやうの人歸宅延引きたくえんいん の事情じよじやうを申送る文 以郵信ゆうしんのてがみで 申進候 延引えんいんなるこゝ 延日相成えんじつさうせい候也ま 週間しゅうかんも歸宅延引きたくえんいん可相成候就つては當 地餘程ちよとひん冷出候ひやだしに付綿入わたいれ外何々ほかなに汽車 便びんにて御送可被成候何町何某方なにがたも 定めて歸宅相待候半別紙封中の書 面早速御届可被成候何れ爰許出立 の節は電信にて報知可致候也 歸郷ききやうの人歸宅延引きたくえんいんの事情じよじやう を申送る文 以郵信申進候出發の際しゅつぱつは凡そ一周 間の滞在たいざいと申置候處不圖延日相成 心配被成候半延引の譯柄書面に認

誨示クワイシ 心配被成候半しんぱい延引えんいんなるこゝ 誨諭クワイラン 書面しよめんを明日あした明 悔悟クワイゴ 後日ごじつつて今日けふ其故そのよの彼 褒敗ホウバイ 方かたら響應きやういん此方このかたより久々 談嘲タンチョウ 辭退じたいを不用いふのきかたに 旭隕クワクイン 際限無さいげん之のつがね 是非せひつて 怪異クワイイ 爰許あいしよこの出發しゅつぱつ 左様さやう 灰燼クワイジン 御承知可被成候ごしょうち可被成候ま御用 回復クワイフク 事而已ことのみ 草々くさくさ 外援クワイエン 行旅先りょくせんより發足歸 豁然クワツゼン 宅たくの事を自宅じたくへ申 裕達ユウダツ 遣す文 活眼クワクガン 一書いっしょで當地このちの用向ようきやうは相 活計クワイケイ 濟すき歸途ききとに上り候あり

め可申送の處明日社は出立明後日 社はと思居候中今日に相成候其故 は彼方より響應此方より久々 なりとして辭退を不用被招候て際限 無之事に候明日は是非爰許出發致 候間左様御承知可被成候右用事而 已草々

◎旅行先より發足歸宅の事 を自宅へ申遣す文 たびさきでかへる 一書申送候陳は當地用向相濟候故 唯今何時出發歸途に上り候但し何

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

刮目 ケツモク 但し ただし 何地迄 なにぢよまで は は 汽船 きせん 乗船 じやうせん 無 な
 皇威 すうゑい 皇怒 すうど 皇統 すうとう 皇儲 すうぐ 皇恩 すうおん 輿論 いんろん 遠息 えんそく 光耀 くわうごう 光景 くわうけい 黄口 わうこう 黄耆 わうし
 左候節は さこうせつは かつた かつた 同地 どうぢ の の 出 で
 停車場 ていしやばう 汽車 きしや 出 で
 船 せん 同港 どうこう 何某 なになん
 方 かた 凡 たゞ 歸宅 きいかい 歸 き
 着 ちやく 可相成候間 かそうせいこうま
 左様御承知可被成 さやうごおんじやうしやくかへり
 候 こう 草々 くさくさ
 ○旅より歸着を報ず りよよりきやくをほうす
 拜啓 はいけい 小生儀 せうせいぎ 豫 よ
 旅 りよ 致居候處 ぢいきこうぢ 本日 ほんじつ 無事着 むじやちやく

地迄は ぢぢよ 人力車 にんりくしや にて にて 何地 なにぢよ に に 都合好 つがふよ 汽 き
 船有之候へば ふねありけり 夫 それ 乗船 じやうせん 可致若 かぢやう 又無 またな
 左候節は さこうせつは 同地 どうぢ 停車場 ていしやばう より より 汽車 きしや にて にて
 何處 なにぢよ に行き に 何處 なにぢよ より より は は 毎日 まいにち 出船 でせん 有 あり
 之候故 このころ 便船 べんせん にて にて 何港迄 なにこうまで 参り まゐ 一寸 いちゆん 同 どう
 港 こう 何町 なにちやう 何某方 なになんかた へ へ 立寄 たちよ 凡半日 たゞはんじつ の の 後 のち 汽 き
 車 しや にて にて 歸宅 きいかい 可致 かぢ 左候へば さこうへば 何日 なにじつ 何時 なんじ
 頃 ころ 歸着 きやく の の 都合 つがふ に に 可相成候間 かそうせいこうま 左様御 さやうご
 承知 じやうしやく 可被成候草々 かへりかへり
 ○旅より歸着を報ずる文 りよよりきやくをほうするぶん 本日 ほんじつ 無事着 むじやちやく
 拜啓 はいけい 小生儀 せうせいぎ 豫 よ 旅 りよ 致居候處 ぢいきこうぢ 本日 ほんじつ 無事着 むじやちやく

曠日 くわうじつ 曠代 くわうだい 曠世 くわうせい 恍惚 くわうこつ 廣大 くわうだい 荒蕪 くわうぶ 確論 かくろん 確説 かくせつ 確報 かくほう 確定 かくてい 確實 かくじつ 確證 かくてい 蚊屈 もんくつ
 此段 この 御報申上候 ごほうまをうけあはせ
 家族 かぞく 共 とも 御尋被下 ごたづねがへり
 下 した 種々 しゆしゆ 御心添 ごこころぞへ
 預 あづか 千萬 せんまん 難 がた 奉 ほう
 謝候 しゃこう 參堂 さんどう 可陳謝候 かちんしゃこう 共 とも 不取 ふとり
 可陳謝候 かちんしゃこう 共 とも 不取 ふとり
 宅御報旁 たくごほうがわ 旅行地 りよち
 名産 めいさん 進呈 しんてい 仕候間 しこうま
 御咲留 ごあきどまり 不具 ふぐ
 ○人の旅より無事歸 ひとのりよよりむじやきやく
 着せしを祝する文 ちやくせしをしくするぶん
 謹啓 きんけい 先達 せんたつ てより より 長々 ながなが 御旅行 ごりよち

何時 なんじ 無事 むじや 着 ちやく 致候間 ぢいきこうま 此段 この 御報申上候 ごほうまをうけあはせ
 家 か 族 ぞく 共 とも より より 承候 うけあはせ へば へば 毎々 まいまい 御尋被下 ごたづねがへり
 種々 しゆしゆ 御心添 ごこころぞへ に に 預 あづか り候 こう 由 よし 千萬 せんまん 難 がた 有 あり 奉 ほう
 深謝 しんしゃ 候 こう 何れ なんぢ 參堂 さんどう 可陳謝候 かちんしゃこう へ へ 共 とも 不取 ふとり
 敢歸宅 かんきいかい 御報旁 ごほうがわ 御禮申上候 ごらいまをうけあはせ 此品 このしん 不珍 ふちん
 候 こう へ へ 共 とも 旅行地 りよち 名産 めいさん との との 事に じに 付聊御 つりやうご
 土産 どさん の の 驗迄 けんぢよ に に 進呈 しんてい 仕候間 しこうま 宜敷御咲 よろしくごあき
 留 どまり 可被下候 かへりかへり 不具 ふぐ
 ○人の旅より無事歸着せし ひとのりよよりむじやきやくせし
 を祝する文 をしくするぶん 本日 ほんじつ 無事着 むじやちやく
 謹啓 きんけい 陳 ちん ば ば 先達 せんたつ てより より 長々 ながなが 御旅行 ごりよち の

○漢語解

○文章註解

○俗語之類 普通門

官廳	無恙にて前刻御歸宅へり
官府	奉賀候も猶亦
官軍	御不在中
管箒	痛入たる御
管見	辭に預り
管掌	候も早速
管轄	候も相煩候半と存じ
管絃	故と存じ
款待	拜顔奉期候
款接	○留主中心添依頼
歡喜	の文
歡悅	書状を以て御依頼
歡會	豫て
貫徹	旅行の件

處御道中無恙前刻御歸宅の由奉賀
 候就ては結構成御土産被下猶亦御
 不在中格別の御心添も不致候に痛
 入たる御禮辭に預り却て恐縮仕候
 早速御挨拶に罷出度存候へ共御草
 臥休の處相煩候半と存故と差扣申
 候何れ久々拜顔奉期候草々不宣
 ◎留主中心添依頼の文
 書状を以て御依頼申上候豫て御話
 申上候旅行の件今少し先々に相成
 候様申居候處同行致候人々の都合

貫穿	致候人々
緩刑	相成り
緩歩	出發
關心	若輩者
關係	卒
關防	希上候
寬典	出發前
寬大	書中
歡呼	不具
忠難	○同 返事
糊懲	拜復
願望	御旅行
頑民	過急
頑愚	御不在

にて至急に相成今宵夜氣車にて出
 發致す事と相成候御承知の通不在
 中は若輩者と老人にて被打案候間
 何卒萬事御心添の程偏に奉希上候
 右以參可願上儀に候へ共出發前寸
 暇無之乍勝手に書中如斯に御座候
 不具頓首
 ◎同 返事
 拜復豫て御話の御旅行御同伴人の
 御都合にて過急に相成候由御多忙
 察上候御不在中御心添の儀は乍不

○漢語解
 ○文章註解
 ○寄簡之郡 普通門
 百三

施車シヤマホドコ 無御心ムクニ 置御出オキミデ
 屈伸クツン 發ハツ 早速サウソク にもニモ 參郎可サンロウカ
 屈致クツシ 仕之處シノトコロ 無據人ムコトナヒ
 空漢クウカン 用談中ヨウタンチュウ 拜趨可ハイソウカ
 空之クウノ 致チ 貴酬キシュウ 而已ニシテ 御座ミマサ
 遇見ユケン 盡ツク
 偶合グウガツ 同ドウ 留守見舞の文ルシミマヒノフミ
 偶然グウゼン 謹啓キンキ 御尊父ミソトノ 御儀ミギ
 訓戒クンカイ 此中ココノナカ 御旅行ミリョウ 御ミ
 訓誨クンワイ 不在フガイ 諸事シヨジ 御多忙ミタマヒ
 訓辭クンジ 奉察候ホウサツカウ 常トド 御用辨ミヨウベン
 訓導クンドウ 御兩人ミニタリ 御用辨ミヨウベン
 訓話クンワ 御取扱ミトリウケ 被成候セウカウ 御座ミマサ
 勳閑クンケン 候半カウハン 若又シカモ 御代ミヨ

及相引受可申候間無御心置御出發
 可被成候早速にも參郎可仕の處無
 據來人有之用談中に付右相濟次第
 拜趨可致先は貴酬而已如斯に御座
 候不盡

◎留守見舞の文
 謹啓御尊父様御儀此中御旅行にて
 御不在の由諸事御多忙奉察候何分
 常に御兩人にて御用辨の處御一人
 にて御取扱被成候事故御差支の御
 事も御座候半若又御代人にて宜敷

勳功クンコウ 人ヒト 御用等ミヨウトウ 被仰聞セウケン
 勳勞クンロウ 度候タクカウ 乍憚シカモ 御ミ
 薰染クンゼン 北堂キタウ 御致聲ミチセ 敬ケイ
 薰陶クンタウ 具グ
 薰沐クンボク ◎餞別品を贈る文センベツヒンヲオクリ
 銘勳メイクン 肅白ソクハク 今般イム 御渡航ミワタカウ
 銘勳メイクン 該地ガイチ 御出店ミデタナ 新シン
 軍防クンポウ 聞上クニカガヒ 報ホウ 道致候ミチチカウ にニ
 軍律クンリツ 内地ウチノチ 御利得ミリトク 甚シ
 軍監クンケン 萬々マンマン 勝カチ 御事ミジ 甚シ
 軍務クンム 輕少ケイショウ 候へカウヘ 共トモ 御座ミマサ
 軍艦クンカン 餞別センベツ 呈上テイジョウ 仕候シカウ
 軍醫クンイ 御叱留ミチリウ 御乘船ミノリフネ 節セツ 御座ミマサ
 配軍ハイクン さいしあ 御叱留ミチリウ 御乘船ミノリフネ 節セツ 御座ミマサ

御用等御座候節は無御遠慮被仰聞
 度候乍憚御北堂始皆々様へ宜敷御
 致聲可被下候先は御留守見舞迄如
 斯に御座候敬具

◎餞別品を贈る文
 肅白承候へば今般大連へ御渡航に
 て該地へ御出店の由目出度奉存候
 新聞上にて報道致候に餘程内地よ
 り渡航被致居候趣御利得は萬々内
 地に勝る御事と存候此品甚輕少に
 候へ共聊御餞別の驗迄に呈上仕候

○漢語解
 ○文章註解
 ○書簡之部 普通門
 百五

御見送可被下候何れ御乗船の節
 間御叱留可被下候何れ御乗船の節
 旅より歸りて人を招く文
 拜啓豫て不在中は種々御心添に預
 り難有又昨日は御親切に御尋被下
 重々忝存候陳ば明日は無事歸着を
 祝する爲め一盞相酌度就ては旅行
 先にての奇談をも御語申度候間午
 後御光駕被下度右待入候御賢息に
 は殊に御世話相受候由に候へば御
 同道御入來相待候不備

御見送可被下候何れ御乗船の節
 間御叱留可被下候何れ御乗船の節
 旅より歸りて人を招く文
 拜啓豫て不在中は種々御心添に預
 り難有又昨日は御親切に御尋被下
 重々忝存候陳ば明日は無事歸着を
 祝する爲め一盞相酌度就ては旅行
 先にての奇談をも御語申度候間午
 後御光駕被下度右待入候御賢息に
 は殊に御世話相受候由に候へば御
 同道御入來相待候不備

夜襲
 野戦
 野心
 爺嬢
 伴北
 伴狂
 伴言
 陽言
 陽狂
 養育
 養成
 洋習
 洋服
 洋解

同返事
 惠箋拜讀御不在中何の御役にも相
 立不申候處御丁寧なる御禮辭に預
 り猶亦御招に預り難有奉謝候小生
 儀は御旅行先の某地不案内に付土
 風萬端御話承度と存居候故至極拜
 聽相樂居候豚息へも思召申聞候處
 何よりの結構と申出候に付乍厚顔
 無御辞退兩人參館可仕候敬復
 ◎郷友の來訪を報する文
 拜呈豫て御面會の節每話相出候郷

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

譯生(トウセイ) 會之節(カノノセ) 毎(マ) 郷(キョウ) 友(トモ) 某氏(ケイシ) 昨日(キノノヒ) 當地(トコロ) 來着(キタリ) にて 拙(セツ) 家(カ) 來訪(キタリ) 致(シ) 被(レ) 吳(ニ) 候(ト) 尤(モ) 貴家(ケイカ) へ 御(ミ) 尋(タシ) の 心算(シンサン) に 候(ト) へ 共(ト) 小生(コウセイ) 方道(カタミチ) 順(ジュン) に 付(ツキ) 先(マ) づ 被(レ) 罷越(マカ) 候(ト) 由(ヨリ) 一(ヒト) 寸(ツバ) 御報(ミヨウ) 申(マウ) 上(ノ) 候(ト) 若(シ) 御差支(ミサシ) 無(ク) 之(ノ) 候(ト) は 乍(マ) 粗肴(ソウヤク) 一(ヒト) 盃(ハヒ) 始居(ハジメ) 候(ト) 間(マ) 御來車(ミヨウキクルマ) 被(レ) 下(カ) 候(ト) は 忝(カたじけなく) 存(ゾ) 候(ト) 草々(クサクサ) 不(レ) 既(キ)

友某氏(トモケイシ) 昨日(キノノヒ) 當地(トコロ) へ 來着(キタリ) にて 唯(ただ) 今(いま) 拙(せつ) 家(か) へ 來訪(きたり) 致(し) 被(れ) 吳(に) 候(と) 尤(も) 貴家(けいか) へ 御(み) 尋(たし) の 心算(しんさん) に 候(と) へ 共(と) 小生(こうせい) 方道(かたみち) 順(じゆん) に 付(つき) 先(ま) づ 被(れ) 罷越(まか) 候(と) 由(より) 一(ひと) 寸(つば) 御報(みよウ) 申(まウ) 上(の) 候(と) 若(し) 御差支(みさし) 無(く) 之(の) 候(と) は 乍(ま) 粗肴(そやく) 一(ひと) 盃(はひ) 始居(はじめ) 候(と) 間(ま) 御來車(みよウクルマ) 被(れ) 下(か) 候(と) は 忝(かたじけなく) 存(ぞ) 候(と) 草々(くさくさ) 不(れ) 既(き)

貴翰(ケイカン) 拜讀(ハイドク) 郷邑(キョウイ) の 某氏(ケイシ) 只(ただ) 今(いま) 貴家(ケイカ) へ 來(キ) 訪(ハ) 被(レ) 致(シ) 候(ト) 由(ヨリ) 御報(ミヨウ) 知(チ) 被(レ) 下(カ) 難(ガ) 有(アル) 存(ゾ) 候(ト) 同(ト) 氏(シ) は 豫(カ) て 御話(ミヨウ) 申(マウ) 候(ト) 通(トウ) 久(キウ) 々(ク) 面會(めんかい) 致(シ)

同返事(トウヘンジ) 貴翰(ケイカン) 拜讀(ハイドク) 郷邑(キョウイ) の 某氏(ケイシ) 只(ただ) 今(いま) 貴家(ケイカ) へ 來(キ) 訪(ハ) 被(レ) 致(シ) 候(ト) 由(ヨリ) 御報(ミヨウ) 知(チ) 被(レ) 下(カ) 難(ガ) 有(アル) 存(ゾ) 候(ト) 同(ト) 氏(シ) は 豫(カ) て 御話(ミヨウ) 申(マウ) 候(ト) 通(トウ) 久(キウ) 々(ク) 面會(めんかい) 致(シ)

遺績(イセキ) 而會致度(ニ) 一時(イツジ) も 早(ハヤ) 々(ク) 未(マ) 遼(リョウ) 未(マ) 路(ロ) 未(マ) 藝(イ) 未(マ) 利(リ) 猛攻(マウコウ) 網羅(ワウラ) 漫々(マンマン) 漫滅(マンメツ) 蔓延(マンエン) 息交(イキカウ) 〔ケ部〕 貴君(ケイキミ) 御同意(ミヨウドウイ)

而會致度(ニ) 一時(イツジ) も 早(ハヤ) 々(ク) 未(マ) 遼(リョウ) 未(マ) 路(ロ) 未(マ) 藝(イ) 未(マ) 利(リ) 猛攻(マウコウ) 網羅(ワウラ) 漫々(マンマン) 漫滅(マンメツ) 蔓延(マンエン) 息交(イキカウ) 〔ケ部〕 貴君(ケイキミ) 御同意(ミヨウドウイ)

芝居誘引(シバウイイ) の 文(モノ) 拜啓(ハイキ) 承(マ) 候(ト) へ ば 今(いま) 度(タビ) 改良(かいりやう) 座(ざ) に て 名譽(なご) 倭(や) 武(ぶ) 士(し) なる 藝(げ) 題(だい) に て 新演劇(しんえんげき) 興行(こうぎやう) 致(シ) 候(ト) 一(ヒト) 覽(らん) 致(シ) 度(タビ) と 存(ゾ) 候(ト) 拙(せつ) き 演劇(えんげき) は 兒(こ) 戲(げ) に 等(と) 敷(ぢ) 候(ト) へ 共(ト) 巧(たくま) 妙(たぎ) の 物(モノ) は 美術(びじゆつ) の 一(ヒト) に 候(ト) へ ば 遊覽(ゆうらん) も 可然(かな) と 存(ゾ) 候(ト)

芝居誘引(シバウイイ) の 文(モノ) 拜啓(ハイキ) 承(マ) 候(ト) へ ば 今(いま) 度(タビ) 改良(かいりやう) 座(ざ) に て 名譽(なご) 倭(や) 武(ぶ) 士(し) なる 藝(げ) 題(だい) に て 新演劇(しんえんげき) 興行(こうぎやう) 致(シ) 候(ト) 一(ヒト) 覽(らん) 致(シ) 度(タビ) と 存(ゾ) 候(ト) 拙(せつ) き 演劇(えんげき) は 兒(こ) 戲(げ) に 等(と) 敷(ぢ) 候(ト) へ 共(ト) 巧(たくま) 妙(たぎ) の 物(モノ) は 美術(びじゆつ) の 一(ヒト) に 候(ト) へ ば 遊覽(ゆうらん) も 可然(かな) と 存(ゾ) 候(ト)

○漢語解 ○文章註解 ○書簡之部 普通門 百九

警備ヨウジン 明後日つて御同様
 警巡トキマハ 罷越度たり 不哉と
 警夜ヨマハリ 尊慮はなれ 伺上候様
 啓表ワラシテ 草々不備を
 啓行サセバ ○同 返事
 経歴ハメグル 雲章拜讀改良座新演劇
 經濟ヨハダリ 御遊覽ニ御誘引
 經史トレキヨ 御高説之通の功妙の
 經死ツクシク 演劇ニ一覽は徒事
 經營ルマダ には無之に泰西俳優
 勁兵イタイヘ 優ヤ華族の列候例も御
 勁敵アゴライ 候に馬鹿には出來不申殊
 刑法キツクテ 馬鹿には出來不申殊
 刑罰トホビ 殊に名譽の倭

貴君若御同意に御座候は、明後日
 頃御同様罷越度右否哉尊慮伺上候
 草々不備
 ◎同 返事
 雲章拜讀改良座新演劇御遊覽に付
 御誘引被下難有存候御高説の通巧
 妙の演劇一覽は決して徒事には無
 之泰西の俳優華族に被列候例も御
 座候へば所謂馬鹿には出來不申殊
 に名譽の倭武士と申候へば頗る觀
 所有之候半隨命陪觀可致候貴酬迄

刑餘ケイブツ 武士のほれ命に
 刑賞トホビ 陪觀を貴酬
 輕典テガライ ○社參誘引の文
 輕刑ルモシ 殘暑の苦熱を免かれ漸く秋冷相催
 輕裝イダダチ 野邊の遊歩も程好相成候陳は河州
 輕擧ミカルハツ 步あるき 河州の四條驛
 輕輩ケイハク 神社の遊歩も程好相成候陳は河州
 輕便チガル 莊嚴の遊歩も程好相成候陳は河州
 形勢モナリ 期望之處に鐵道
 形體カチナ 汽車の參れば至極便利に付明日
 形容カチナ 極つて便利に候は、御參詣如何に候哉乍
 揭示カチナ 御參詣同近傍如何に候哉乍
 掲載カチナ 同沿邊に候は、御容子伺上候不盡
 繼紹キキ 同沿邊に候は、御容子伺上候不盡

匆々
 ◎社參誘引の文
 殘暑の苦熱を免かれ漸く秋冷相催
 野邊の遊歩も程好相成候陳は河州
 四條驛神社の遊歩も程好相成候陳は河州
 て參拜期望之處鐵道沿邊にも相成
 瀛車にて參れば至極便利に付明日
 快晴に候は、御參詣如何に候哉乍
 序同近傍勝地舊蹟相探り候は、大
 に心中爽快を覺候半乍失敬以書中
 御容子伺上候不盡

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

百十一

計簿	計較	計策	計算	警悸	警佈	敬承	敬白	傾覆	傾刻	逕庭	雅章	傾斜	繼續	繼嗣
計簿	計較	計策	計算	警悸	警佈	敬承	敬白	傾覆	傾刻	逕庭	雅章	傾斜	繼續	繼嗣
眺望致度のなき貴答へ	慕相展しものをな 田野	豊臣氏の忠良の遺徳を	塵洗除致候上をなすまへて	節義をたてぬこと 参拜致度	忠に侍ることを 孝に侍ることを	至極同意致候候	野生に常にならば公つら	發意を御惠誘被下せしん	雅章を小楠公に侍らば候	心中爽快なりけり 不盡	○同 返事	○同 返事	○同 返事	○同 返事

○同 返事

雅章拜讀陳ば小楠公御参拜御發意にて御惠誘被下至極同意致候野生に公の忠孝節義に感じ候事深く参拜致度は宿望に御座候如仰瀧車にて直に参拜致し社頭に汚塵洗除致候上豊臣氏の忠良木村重成氏の墳墓をも相展じ緩々田野を眺望致度候右貴答迄草々

○説教聽聞誘引の文

拜啓明夜其寺に於て本願寺の高僧

計吏	稽首	系譜	藝文	藝術	迎戰	闕廷	闕下	闕然	闕如	詣闕	缺失	缺典	結局
計吏	稽首	系譜	藝文	藝術	迎戰	闕廷	闕下	闕然	闕如	詣闕	缺失	缺典	結局
○説教聽聞誘引の文	明夜其寺に於て高僧	某氏に佛教は未來即ち	來世の事而已説話致すと存居候處	大に今日現世時勢の心得と相成候	事をも深切に説話被致候由私方兩	三人連にて罷越候若貴家御聽聞被	成候は御同聽致度候右御誘引迄	草々不一	○同 返事	御書面拜讀明晚説教御聽聞の由就	ては御誘引に預り難有存候豫て現	世の心得をも併せて御説教の由承	○漢語解

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

百十三

結末ナリハ 高僧はうさし某氏はれん 博學
 結構クミナチ 多識なるもの能
 血食マツル 辯やくし至極のい 隨仰
 血祀 同上 御同聽ちうしに草々
 血胤 同上 御復んじする
 血戰 ヒツシノ 〇談話會傍聽誘引
 決策 キダテラ の文
 決騰 キロルテ 拜呈さして、明後何日あそ
 決心 キハルテ かの有名か某氏はれん 何處
 扶眼 クリクマテ 實業上ついでに、談話はな
 訣別 レキツカ 當地この敷氏なれん 今日
 頑抗 マクズオ 忽に難致時勢に候へば拜聽致度と
 讒語 ヒヤウギ 拜聽致度と存候ものと
 桀宿 ドエライ 貴君を御同聽ちうしに

居候に付宗門違には候へ共一度は
 聽聞致度と存居候殊に高僧某氏は
 博學多識の上能辯の由に候へば至
 極結構と存候隨仰御同聽可致候草
 々拜復
 ◎談話會傍聽誘引の文
 拜呈明後何日は有名の某氏何處に
 て實業上の談話被致引續き當地の
 敷氏も談話の由今日實業上の事は
 忽に難致時勢に候へば拜聽致度と
 存候貴君御同聽如何に御座候哉御

評告 アカシ 御意見めし 同上候き但
 致論 ナシヘ しい通券さつり 幹事
 教育 ナルツ 御被贈吳候故たはし不乙
 教導 ナビク 候の
 驕恣 リガマ 〇同 返事
 驕肆 同上 御懇切せしん 御誘引さ兵
 驕激 同上 戦のいん商戦のいん互に相
 驕慢 同上 須ち候者あひのり、識者
 驕盛 キツイ 承及候きして今日
 驕逸 同上 業上の事あまひに縦ひ
 驕傲 同上 商業家と國民の傍聽
 驕侈 同上 可致儀と存候きくべきもの殊
 驕誇 同上 にこり通券さつり 必きつ御陪
 驕兵 ヘイニマル 職てきく 明夕景は御宅

意見同上候但し通券幾枚は幹事某
 氏より被贈吳候故御心配には及不
 申候不乙
 ◎同 返事
 御懇切に御誘引被下難有存候兵戦
 と商戦とは互に相須ち候者の由識
 者より承及候左候へば今日實業上
 の事は縦ひ商業家に無之候共國民
 の一人として傍聽可致儀と存候殊
 に通券迄御心配被下候事故必陪聽
 可仕明夕景には御宅迄參上可仕候

○漢語解

○文章註解

○書簡之類 普通門

矯殺カコツケ
矯誣シツケル
脅従オソレン
脅迫オドス
協同ドワイ
協心ヘルソロ
臆悪ルルモノ
臆首クビクリ
夾持ハサミ
夾撃ハサミ
淺季ノノスエ
僂伴オボレ
翹首アゲル
腕相イゾイダ

おなりの参上可仕候まゝり 草々敬復へんじする
○寄席へ誘引の文
拜啓申す有名人の藝人を種々打混じり當處通行の途次某席に於て之候事故當方家中打揃一日罷越度斯様の藝人は度々参り不申と存候に付御誘引申上候興行は明日始まり候故二日目即ち明後日頃宜敷存候先は右迄草々

草々敬復
○寄席へ誘引の文
拜啓陳ば此度東京有名の藝人種々打混じり當處通行の途次某席に於て二三日興行の由軍談落語音曲等有之候事故當方家中打揃一日罷越度斯様の藝人は度々参り不申と存候に付御誘引申上候興行は明日始まり候故二日目即ち明後日頃宜敷存候先は右迄草々

○同返事

闊然ヒッリ
閑寂同上
擊劍ケンジエ
擊節ドウル
隙駒ウツコト
檄文クワイジ
檄諭フレサト
駄舌コトバヌ
激發ハゴシク
激脚ニヤクル
激職キヤクメ
劇場ヤバシゴ
献言ゲルシヤ
献賣ルハクニス

過刻は御書面被下御親切に御誘に預り難有存候軍談落語音曲等は小生至極相好候故御同聽可致候其日二日目頃宜敷候半早速御使へ御答可致の處今日は早朝より外出致居只今拜讀致せし事に御座候軍談は固より東京本場にて落語も續話も東京に限り音曲も亦常磐津の曲は東京に限り音調等は關東の持前と存候御答迄草々

過刻は御書面被下御親切に御誘に預り難有存候軍談落語音曲等は小生至極相好候故御同聽可致候其日二日目頃宜敷候半早速御使へ御答可致の處今日は早朝より外出致居只今拜讀致せし事に御座候軍談は固より東京本場にて落語も續話も東京に限り音曲も亦常磐津の曲は東京に限り音調等は關東の持前と存候御答迄草々

○懇親會へ誘引の文

○漢語解

○文章註解

○寄席之部 普通門

慶劉 <small>ケンリウ</small>	拜啓 <small>はいけい</small> 今日 <small>こんにち</small> 懇親會 <small>こんしんかい</small> へは御臨席 <small>おんりんせき</small> と存候 <small>ぞんこう</small>
慶肅 <small>ケンソク</small>	小生 <small>こせい</small> 儀 <small>ぎ</small> は少 <small>すく</small> く小早 <small>こはや</small> く参 <small>まゐ</small> り幹事 <small>かんじ</small> 某 <small>某</small>
慶敬 <small>ケンケイ</small>	氏 <small>し</small> へ依頼 <small>いらい</small> 致度 <small>ちど</small> 件 <small>けん</small> 有 <small>あ</small> 之御都合 <small>おんごごう</small> 宜敷 <small>よろしく</small> 候 <small>こう</small>
慶恪 <small>ケンカク</small>	は御同伴 <small>おんどうはん</small> 致度 <small>ちど</small> 候 <small>こう</small> 且 <small>かつ</small> 亦 <small>また</small> 昨日 <small>きのう</small> 御話 <small>おんわ</small> 申 <small>まを</small>
劍戟 <small>ケンキキ</small>	置候 <small>おきこう</small> 某氏 <small>某し</small> 方 <small>かた</small> は幸 <small>さい</small> ひ其路筋 <small>みちすぢ</small> に相当 <small>あつた</small> 候 <small>こう</small>
劍客 <small>ケンカク</small>	故 <small>ゆゑ</small> 一寸 <small>いちゆん</small> 立寄 <small>たちよ</small> 御紹介 <small>おんせうかい</small> 致置 <small>ちぢ</small> 候 <small>こう</small> にも都合 <small>ごごう</small>
脱劍 <small>ダツケン</small>	と存候 <small>ぞんこう</small> 乍 <small>あは</small> 併御都合 <small>おんごごう</small> 等 <small>ら</small> も有 <small>あ</small> 之候事故 <small>こうじこ</small>
接劍 <small>ケンゼツ</small>	同上候 <small>どうじょうこう</small> 草々 <small>くさくさ</small>
軒輊 <small>ケンゼン</small>	御書翰 <small>おんしょくわん</small> 拜讀 <small>はいどく</small> 本日 <small>こんにち</small> の懇親會 <small>こんしんかい</small> へは是非 <small>ぜいひ</small>
賢宰 <small>ケンサイ</small>	共可罷出 <small>ともかひだ</small> 候 <small>こう</small> 貴君 <small>あなた</small> は御都合 <small>おんごごう</small> にて小早 <small>こはや</small>
遠賢 <small>ケンエン</small>	◎同返事 <small>どうへんじ</small>
驗傷 <small>ケンシヤウ</small>	
驗視 <small>ケンシ</small>	

驗問 <small>ケンモン</small>	てまはりてに御同伴 <small>おんどうはん</small> 願度 <small>ねんどう</small> 候 <small>こう</small>
黔黎 <small>ケンレイ</small>	是 <small>こゝ</small> より御同行 <small>おんどうぎょう</small> 道故 <small>みちゆゑ</small>
黔首 <small>ケンシュ</small>	生方 <small>せいほう</small> の御同行 <small>おんどうぎょう</small> 道故 <small>みちゆゑ</small>
顯達 <small>ケンダツ</small>	〇賣家の周旋 <small>うりかしのしうせん</small> を請ふ文 <small>うりいへのせ</small>
顯職 <small>ケンシヨク</small>	以書簡 <small>しよかん</small> 御依頼 <small>おんいらい</small> 申上候 <small>まをさうこう</small>
遣送 <small>ケンソウ</small>	豫 <small>よ</small> てたから何處 <small>どこ</small> の掛屋敷 <small>かけやしき</small>
兼拜 <small>ケンバイ</small>	世間 <small>よ</small> の萬般 <small>ばんぱん</small> の御交際 <small>おんかうさい</small>
兼傾 <small>ケンケイ</small>	何れへかて御周旋 <small>おんしうせん</small>
兼備 <small>ケンバイ</small>	旋 <small>まわ</small> りて代價 <small>だいな</small> の幾許 <small>いくばく</small> を御面談 <small>おんめんだん</small>
謹贖 <small>ケンジュツ</small>	詳細 <small>しやうさい</small> の書類 <small>しよるい</small> を御面談 <small>おんめんだん</small>

御出掛おんでかけの由よし小生こせいは何時まかり罷出いで候こうて
 〇賣家の周旋うりかしのしうせんを請ふ文うりいへのせ
 以書簡しよかん御依頼おんいらい申上候まをさうこう豫よて御承知おんじやうちの
 何處どこ掛屋敷かけやしき此度こゝ都合ごごうに付賣却うりか致度ちど
 貴君あなたは御交際おんかうさいの御廣おんひろく世間よ萬般ばんぱんの
 話わも多おほく御聞込おんきんこの事ことに付何れへか

○漢語解

○文章註解

○亦簡之部 普通門

謹讓 同上
 建議 同上
 建言 同上
 權道 同上
 權略 同上
 權變 同上
 權勢 同上
 權要 同上
 權臣 同上
 爭權 同上
 賢忠 同上
 賢察 同上
 賢裔 同上

封中致候間
 若可然先
 一報被下度候也
 御座候は
 御座候は
 御座候は
 御座候は

〇同 返事
 尊翰拜讀御來意に據れば何處御掛
 屋敷此度御拂の由就ては野生へ周
 旋可致様被仰越承知仕候御圖面と
 御書類にて御家屋の儀は委敷承知
 致し代價の儀も相分り申候幸ひ兩
 三處目當の先も御座候間逐次相話

堅城 同上
 嫌疑 同上
 險阻 同上
 捐疾 同上
 捐急 同上
 肩摩 同上
 謙遜 同上
 研究 同上
 蹇々 同上
 設險 同上
 歷險 同上
 陷堅 同上
 遣發 同上
 遣使 同上

草々
 〇賣家の有無問合
 せの文
 寒冷之節に御座候處愈御壯榮奉賀
 壯榮と云く奉賀候は近
 傍に家屋二階家に
 幾室可相成は
 角屋敷に將又幾代價
 凡幾許位に有無
 午御手数數に可伺
 何卒參堂可伺
 是本意に候へ共
 書中を以て草々
 願首

〇賣家の有無問合の文
 寒冷の節に御座候處愈御壯榮奉賀
 候陳ば都合に付御宅近傍にて家屋
 買入度望は二階家にて幾室許有之
 可相成は角屋敷のものに御座候將
 又代價は凡幾許位の物結構に御座
 候間右有無午御手数數何卒御知らせ
 被下度候一寸參堂可相伺は本意に
 候へ共午勝手書中を以て如斯に御

〇漢語解
 〇文章註解
 〇番附之郡 普通門
 百二十一

見在

見兵

見卒

春戀

嚴命

嚴科

言辭

言路

言職

言責

言行

原山

原始

原因

○同 返事

貴翰拜讀如命寒氣彌増候處愈御清
祥御消光被成奉賀候陳ば今般御家
屋御購求の由右有無御問合せに相
成承知仕候唯今の處は心當りも無
之候へ共夫是聞合有之候へば御報
可申上候一昨日御好に近き家屋一
戸賣買に相成惜敷事に御座候併し
又々可有之存候御答迄草々
◎借家搜索を依頼する文

座候草々頓首

○同 返事

貴翰拜讀如命寒氣彌増候處愈御清
祥御消光被成奉賀候陳ば今般御家
屋御購求の由右有無御問合せに相
成承知仕候唯今の處は心當りも無
之候へ共夫是聞合有之候へば御報
可申上候一昨日御好に近き家屋一
戸賣買に相成惜敷事に御座候併し
又々可有之存候御答迄草々
◎借家搜索を依頼する文

愿款

元々

元首

元勳

減少

減損

御座

彦士

膨感

〔フ部〕

不臣

不輒

不逞

おなたの御壯健におつ 伺上候
おたすま 小生方におつ 勝手
に付つがまじ 御地最寄へ轉
轉居致度おしした 御近
邊まはり 可然し借家ありす
へ 御出入之節はりのごき御
認の家におつ 御一報被下
度せくだされたら 二階家におつ
可相成はらう 平家におつ
草々頓首おたすま

○同 返事

御書中拜讀御一同御健康の由
奉賀候陳ば御住宅御都合にて御移

拜啓暫御無音に打過候處貴家皆々
様御壯健に御過し被成候哉伺上候
陳ば小生方勝手に付御地最寄へ轉
居致度就ては御近邊に可然借家無
之候哉御出入の節御認の家御座候
は 乍御面倒御一報被下度候二階
家にて 宜敷候へ共可相成は平家
の方望に御座候草々頓首

○同 返事

御書中拜讀御一同御健康の由
奉賀候陳ば御住宅御都合にて御移

○漢語解

○文章註解

○書翰之部 普通門

不肖モロカ 御家屋へ搜索し候御依
 不敏同上 頼の拙家したる平家にか
 不佞同上 室敷すか幾室も庭内の
 不遜同上 水質の家の家賃の
 不良 方より候へりなり式金
 不離 同上 金をかりするに少
 不映 同上 入置候間したる一
 不揚 同上 明日御一覽の貴
 不欺 同上 御一覽の貴
 不豫 同上 御一覽の貴
 不利 同上 御一覽の貴
 不偶 同上 御一覽の貴
 不虞 同上 御一覽の貴
 不次 同上 御一覽の貴

○轉居を報する文
 拜啓は弊家儀今般都合に付何區
 何町何丁目何番屋敷へ轉宅致候間
 右御承知可被下候其地は是迄より
 尊宅へは近寄候間以後一層御親敷
 願上候爲其今夕粗酒一盞差上益舊
 交相溫度候間夕景より御尊來を乞
 右何番屋敷は何通何橋筋東へ入
 南側辻より何軒目に御座候間左様
 御承知可被下候敬具

○建築落成を賀する文
 謹啓は豫て御經營の御住宅昨日
 御建築御竣功の由目出度奉存候御

不諱 同上
 不毛 同上
 不平 同上
 不快 同上
 不敬 同上
 不羈 同上
 不當 同上
 不測 同上
 腐敗 同上
 腐爛 同上
 腐儒 同上
 腐談 同上
 賦租 同上
 賦與 同上

一層の爲其地は是迄より
 粗酒一盞差上益舊
 益々舊交相溫度候間
 夕景より御尊來を乞
 左様御承知
 可被下候敬具

○建築落成を賀する文
 謹啓は豫て御經營の御住宅昨日
 御建築御竣功の由目出度奉存候御

○漢語解

○文章註解

○亦解之語 兼通門

府庫	府帑	府實	郭郭	郭郭	郭郭	布告	布告	布算	購助	符合	負販	父老	父兄	普通
んのおよるこび	てごりませう	はひ書中を以て	候をします	共てごりませう	供貴覽候間	笑納おさめ	傳たつた	まり草々	○新宅へ	賀する文	肅啓つて	新居おたらし	のり御移	隨ては
御歡	御慶	奉賀上	候へ	候	御	御手	御	御	御	御	御	御	御	御

今父様豫て御宿望の由に候へば無々御満足に候半何れ拜趨御歡可申上候へ共先は書中を以て奉賀上候此品甚菲薄に候へ共聊表賀儀候迄供貴覽候間御笑納被下度尚又御手傳御入用に候はゞ無御遠慮可被仰越候草々不盡

○新宅へ移轉を賀する文

肅啓陳ば豫て御上棟相成候御新居此程御内造被爲濟明何日御移轉の由重疊目出度存候隨て花瓶一對聊

赴聞	浮説	伴囚	武備	武庫	武夫	武衛	侮慢	侮言	撫育	撫恤	撫穢	認罔
ふたしんてい	うたはな	ばんご	ぶひ	ぶこ	ぶふ	ぶゑ	ぶまん	ぶげん	ぶいく	ぶじゆ	ぶじ	ぶわ
御笑納可被	下候おさめ	祝儀	奉賀候	賢父様	○建築落成式	を招く文	御清適	建築	落成	御多忙中	御迷惑	後御光
御	御	御	御	御	御	御	御	御	御	御	御	御

御祝の驗迄に晋呈仕候間御笑納可被下候何れ拜觀旁參堂仕萬緒御祝辭可申陳候へ共先は書面を以て奉賀候乍憚御賢父様始め御一同へ宜敷被仰度候草々拜具

○建築落成式に人を招く文

拜啓愈御清適奉賀候陳ば豫て建築に取掛り居候家屋此程漸く落成仕候に付聊内祝の酒宴相開度御多忙中御迷惑に可有之候へ共明何日午後御光來待入候當日は舊弊ながら

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

沸騰	當日その舊弊を相行候
沸騰	御入來で敬白
風俗	○人の手傳を乞ふ文
風聲	ふ文
風采	以手紙を御依頼申上候
風標	明日は頗る多忙
風流	に候處は御承知の通人少
風波	てててて 甚困入候
伏謁	願上兼候へ共早
伏惟	朝は御召使に被願間
紛亂	敷候哉御承諾
紛擾	被下候は、難有存候右御依頼迄
紛々	々々頓首
紛紜	○手傳を受たる禮文

餅撒等相行候故御子達様を御連にて二時前御入來被下度右申添候敬白

◎人に手傳を乞ふ文
以手紙御依頼申上候明日は何々に頗る多忙に候處御承知の通人少にて甚困入候就ては願上兼候へ共御差支無之候は、早朝より御召使御一人御手傳被願間敷候哉若御承諾被下候は、難有存候右御依頼迄草々頓首

紛争	拜啓して一昨日人少
憤懣	て御差遣にて
憤激	深謝候あつたに又
奮發	御太切御器具に御拜
氛妖	借致し、重々、早
忿怒	速く御禮迄に御
焚燒	悉皆の書状を以て御
憤典	内政お同御致聲
聞望	可被下候は、草々
聞問	百拜
聞知	○近火見舞の文
刎首	昨夜の御近隣に失
〔コ部〕	火の拙方、少々、市
鼓吹	中な時として、警鐘

◎手傳を受たる禮文
拜啓一昨日何々の節は人少にて甚困居候折柄御召使御差遣にて御手傳被下難有奉深謝候殊に又御太切の御器具迄も拜借致し重々御蔭を蒙り候早速御禮迄に可罷出の處今に尚悉皆形付不申乍略儀不取敢書状を以て御禮申上候乍憚御内政始め御一同へ宜敷御致聲可被下候草々百拜

◎近火見舞の文
昨夜の御近隣に失火の拙方、少々、市中な時として、警鐘

○漢語解

○文章註解

○寄簡之郡 普通門

古今 カシトム	古史 フルキキ	故國 ウマレタ	故物 ナカシノ	故人 ヒトナ	戸籍 タカヒツ	戸口 イモカズ	固辭 カケル	固守 マモル	固陋 カマクチ	孤立 イツボン	孤軍 キイクサ	波動 オダケル
殊に カシトム	殊に フルキキ	殊に ウマレタ	殊に ナカシノ	殊に ヒトナ	殊に タカヒツ	殊に イモカズ	殊に カケル	殊に マモル	殊に カマクチ	殊に イツボン	殊に キイクサ	殊に オダケル

昨夜は御近隣失火有之候由拙方少々市中相離居候故時として警鐘相聞之不申事有之昨夜は殊に熟睡致候故歎一向存不申今朝承りて驚入候其際には無々御騷被成候半別段御怪我等は無之候哉伺上候其節存候は、早速御付可申に不及其儀何共申譯無之偏に御宥怒願上候隨て何品聊御見舞の驗迄に呈上致候間御受納可被下亦此使の者御用向御座候は、無御遠慮御使用被下度候

○近火見舞を受たる先への禮文

願問 ウシロ	願省 カヘリ	糊口 クハスギ	怙恃 コホロ	涸魚 レタワナ	胡坐 クガ	狐疑 フカガヒ	姑息 ノカレン	辜罪 ツトガ	雇賃 ヒヨウチ	蠱惑 マドハス	託狐 チマカス	互市 パウエキ	娛樂 オモシロ
願問 ウシロ	願省 カヘリ	糊口 クハスギ	怙恃 コホロ	涸魚 レタワナ	胡坐 クガ	狐疑 フカガヒ	姑息 ノカレン	辜罪 ツトガ	雇賃 ヒヨウチ	蠱惑 マドハス	託狐 チマカス	互市 パウエキ	娛樂 オモシロ

肅啓昨夜の節は御遠方の處より迅速に御馳付被下て、殊に御酒飯に御惠被下、奉深謝候。一時早速、御禮書、取片付候事故、延引相成、雜致居、延引相成、候。御紙面、御尋被下、重々難、少々は器具の損傷等、怪我の、確と、紛

○近火見舞を受たる先への禮文

小生も亦續て參邸御見舞可申上候
 頓首
 ◎近火見舞を受たる先への禮文

肅啓昨夜の節は御遠方の處より迅速に御馳付被下、殊に御酒飯に御惠被下、奉深謝候。一時早速、御禮書、取片付候事故、延引相成、雜致居、延引相成、候。御紙面、御尋被下、重々難、少々は器具の損傷等、怪我の、確と、紛

○漢語解

○文章註解

○赤節之部 普通門

誤謬ゴビウマチガヒ 失致候物シツシたしな住憚ハヤカリ候ウケ御放念ミツル念ハシ草々クサクサ九拜クニヤイ

誤計ケイカシチ 類焼見舞ルイセウミマヒの文

誤黙ゴモクナヒソコ 謹啓キンケイ昨夜シヨ意外イガイの

護衛ゴエイナイゴ 大火ダイカ高堂カウドウ御類ミルイ

護持ゴジスルニ 燒ヤ入候ウケ候ウケ

護軍ゴクンヘイノト 其際ソノサエ警鐘ケイシヨウ相聞候哉サイブンケイ

拘束コウソクフリア 一望イツボウ致候シケウへばハ

拘泥コウニスルニ 御住處ミヅル御方角ミカタカドに見受

厚意コウイシヤセツ 既スデにニ 驅付候カハツケ然シカるル

厚顔コウガンシヤコト 驅付候カハツケ既スデにニ 驅付候カハツケ然シカるル

公私コウシオホヤケ 驅付候カハツケ既スデにニ 驅付候カハツケ然シカるル

公明コウメイオモテハ 驅付候カハツケ既スデにニ 驅付候カハツケ然シカるル

公平コウヘイオモテハ 驅付候カハツケ既スデにニ 驅付候カハツケ然シカるル

へ共怪ヒトツク我ガは無御座ナシ唯今タにては確シカと

相分サイワキり兼候カミケウへ共餘トモりに紛失マギヒツ致候物シツシ

も無ナシ之ノ様に御座候間ミマシケウマヒ乍憚ハヤカリ御放念ミツル念ハシ可カ

被下候ヒキダケ先は御禮ミマシ迄マデ草々クサクサ九拜クニヤイ

◎類焼見舞ルイセウミマヒの文ノ文ノ文ノ

謹啓キンケイ昨夜シヨ意外イガイの大火ダイカにて高堂カウドウ御

類焼ルイセウ相成サイワキ驚入候オドロキ其際ソノサエ警鐘ケイシヨウ相聞候哉サイブンケイ

否イナ一望イツボウ致候シケウ處トコロ御住處ミヅル御方角ミカタカドに見受

候ウケに付直ツケに數人スベテにて驅付候カハツケ然シカるル

其項ソノイテは既スデに貴邸キテイは火中ヒナカに有ア之ノ如何イカニ

共難ヒトツク致夫シツシより他のトモ怨意オンイ先サキを見舞ミマヒ何ナニ

公然コゼンシヤケ 引取申候ヒキトル候ウケ今朝イマアサ

公道コウドウシヤケ 無恙ムシヤクに御立退被成ミタビ

公使コウシシヤケ 候哉ケイと心に懸り候故ケ御燒

公事コウジシヤケ 御立退所ミタビ云々クニクニ御

攻撃コウキシヤケ 御揭示有之ミツケル其

攻奪コウダツシヤケ 報を得てウケ漸く安堵ヤス

詭辱ケイニクシヤケ 堵仕候ツシケウ伺上候ウケ

詭叱ケイシツシヤケ 菜漬ナヅケ一挺イツテイ御納受ミツル

後患ゴワンシヤケ 呈上テイジョウ御納受ミツル

後宮ゴクウシヤケ 使役可被下候シヤク可被下カヒキ

後裔ゴエイシヤケ 生ナマくク參趨サンソウ

後世ゴセイシヤケ 〇落雷見舞ラクライミマヒの文

巧拙コウセツシヤケ 昨日ケノの非常ヒジョウの處

巧遅コウヂシヤケ 昨日ケノの非常ヒジョウの處

時頃トキサト引取申候ヒキトル候ウケ今朝イマアサと相成サイワキ無恙ムシヤク御

立退被成候タビ哉ケイと心に懸り候故ケ御燒

跡迄アトマデ一人差出候處ヒトサシ御立退所ミタビ云々クニクニ御

揭示ツケル有之ア其報ソノウケを得て漸く安堵ヤス

併し御怪ヒトツク我等ワラ無御座候哉ナシ伺上候ウケ

粗末ソマツ菜漬ナヅケ一挺イツテイ為シテ御見舞ミマヒ呈上テイジョウ致候間シケウマヒ

御納受被下候ミツル使役シヤクに差出候者サシ御用ミヨウ

御座候は、無御遠慮ムシヤク御使役可被下シヤク

候小生コナマも何れ後ノチより參趨サンソウ可仕候也カシケウ

◎落雷見舞ラクライミマヒの文ノ文ノ文ノ

拜啓ハイケイ昨日ケノは非常ヒジョウの夕立ユキダテにて處々トコロ落

○漢語解 ○文章註解 ○卷前之部 普通門 百三十三

拘引ル	々々落雷致し家屋
拘留	人畜の死傷等隨
拘提	大分御地近隣
抗拒	同上候御座候
抗言	方程遠からぬ處に
抗戰	て河岸の柳相撃たれ
抗命	來の者折れ
鴻圖	恐敷存候先は御見舞迄
鴻略	草々不整
鴻蒙	○同返事
鴻業	尊書拜讀落雷御尋被下
巷議	存候如仰稀成夕立にて
巷戰	邊に來り電光益銳く時々
倣相	

雷致し家屋の損じ人畜の死傷等隨分有之候由新聞紙上にても大分見受候御地御近隣御無難に御座候哉同上候現に野生方程遠からぬ處にて河岸の柳相撃たれ往來の者折れたる枝に當られ氣絶致候者も有之恐敷存候先は御見舞迄草々不整

○同返事
尊書拜讀落雷御尋被下御厚意難有存候如仰稀成夕立にて段々の聲耳邊に來り電光益銳く時々聲轟き候

恒産	り時々々々
恒常	例の御用意不怠
貢税	帳中に打臥居候の毀損
橋勞	御座候
鉤距	慮しん早速に草々々々拜
爭功	答へん
奏功	○暴風見舞の文
功績	近年稀成暴風にて雨さ
功勳	同上
功臣	へ添ひ恐敷氣色に御座候承候へば
功用	中國九州筋は非常に甚敷港々の繫
口實	船には大分難破沈没も有之候由貴
口列	家御損所等は無之候哉同上候殊に
洪費	

○暴風見舞の文
近年稀成暴風にて雨さへ添ひ恐敷氣色に御座候承候へば中國九州筋は非常に甚敷港々の繫船には大分難破沈没も有之候由貴家御損所等は無之候哉同上候殊に

○同返事
尊書拜讀落雷御尋被下御厚意難有存候如仰稀成夕立にて段々の聲耳邊に來り電光益銳く時々聲轟き候

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

貢入イニツテ 船内瀬戸内御上り

貢獻同上 御上り頃なき事如何哉

興廢イコリ とうとう草々

興復スリナホ ○同返事

冠難イコリ 御懇書忝拜見仕候誠

江湖イコリ 此度の暴風

聞聲イコリ 近來稀にて實以驚入候御宅御別

侯伯イコリ 條無之由先以恐悦仕候拙家は格別

國力イコリ 損所無之候へ共御氣遣被下候本年

國境イコリ 購得致候候船御聞の通瀬戸内上り

國辱イコリ 息儀致候候今朝心當り

國史イコリ 息儀致候候今朝心當り

國恩イコリ 息儀致候候今朝心當り

國財イコリ 息儀致候候今朝心當り

時宜に御座候

當年御買入の御手船瀬戸内御上り
頃と承居候故如何哉と御案申居候
先は右御見舞迄草々

○同返事

御懇書忝拜見仕候誠此度の暴風
は近來稀にて實以驚入候御宅御別
條無之由先以恐悦仕候拙家は格別
損所無之候へ共御氣遣被下候本年
購得致候候船御聞の通瀬戸内上り
の折柄に付如何哉と被案愚息儀今
朝心當りの地迄出張仕たる時宜に

國體ニガキ 頓首

國法ニツハ ○暴風の際持船の

國是ニキマリ 無難を自宅へ報

國威ニクワイ する文

國難ニシナ 至急申上候過る何日暴風吹暴候

克捷ウイサニ 暴風御憂慮被下候事と存候

克獲ニシドイ 其際恰も瀬戸内何沖渡航の際に候

告諭スツグサト 其際恰も瀬戸内何沖渡航の際に候

告許スルハツ 其際恰も瀬戸内何沖渡航の際に候

酷烈サケナシ 其際恰も瀬戸内何沖渡航の際に候

婚儀ヨトリ 其際恰も瀬戸内何沖渡航の際に候

婚儀同上 其際恰も瀬戸内何沖渡航の際に候

懇情シセツ 其際恰も瀬戸内何沖渡航の際に候

懇願フカイモ 其際恰も瀬戸内何沖渡航の際に候

安堵被下度 其際恰も瀬戸内何沖渡航の際に候

御座候右御見舞被下候段難有厚く
御禮申上候頓首

○暴風の際持船の無難を

自宅へ報する文
至急申上候過る何日暴風吹暴候
に付定めて御憂慮被下候事と存候
其際恰も瀬戸内何沖渡航の際に候
處暴風の徴候相認め候に付何港に
か寄せんと存候中吹初來る模様有
之必定南風と存候故直に南方四國
路何港に入り風避致候依て難破相

○英語解

○文章註解

○寄附之部 普通門

懇歎ニシテ心算に御座候間是亦
 御報告草々不盡
 〇洪水見舞の文
 以郵書御尋申上候去る何日は貴地
 大洪水の由唯今新聞紙上にて承知
 仕候貴邸は最高の御地に有之河添
 の地よりは餘程隔り有之候故御無
 難とは存候へ共萬一相慮り御見舞
 申上候某氏方は河堤に近く候故如

見舞書若左様之儀に候へば存候故直
 何あらん立退候事もやと存候故直
 に見舞書差出不申若左様の儀に候
 は何卒宜敷御傳聲可被下候先は
 御慰問迄草々敬具
 〇同返事
 御懇書拜讀遙々御見舞に預り難有
 存候新聞紙上にも記載の通近來稀
 成大水にて河添の地は流失の家屋
 多く人畜の死傷も有之一時は警鐘
 の音悲泣の聲に相混じり生たる心地
 も不致候依て某氏方は如何と心配

懇歎ニシテ心算に御座候間是亦
 御報告草々不盡
 〇洪水見舞の文
 以郵書御尋申上候去る何日は貴地
 大洪水の由唯今新聞紙上にて承知
 仕候貴邸は最高の御地に有之河添
 の地よりは餘程隔り有之候故御無
 難とは存候へ共萬一相慮り御見舞
 申上候某氏方は河堤に近く候故如

○漢語解

○文章註解

○音節之部 普通語

丁壯 サウロカモノ
 丁憂 テイウ
 停從 テイジュウ
 停廢 テイハイ
 停職 テイシヨク
 停軍 テイグン
 諦視 テイシ
 定決 テイケツ
 延議 テイギ
 偵選 テイセン
 鼎沸 テイフツ
 訂正 テイセイ
 邸第 テイテイ
 鄭重 テイチュウ

罷越候處 マカレコシ
 同家 ドウカ
 擄へ さら
 拙家 セツカ
 難被致候 ナンセツキ
 如御賢 ニホクサシ
 察 サツ
 無難 ムナン
 御降慮 ミカウリ
 傳言 デンゴン
 拙家立退所 セツカタチノクシ
 付 ツケ
 相傳申候處 サウデンマシラフ
 同氏 ドウシ
 御厚意 ミコウイ
 御答禮 ミコタマヒ
 草々 クサクサ
 津波 ツナミ

致免 シキ
 角難 カクナン
 地近邊 チキンペン
 迄罷越 マデマカレ
 候處引違 コトヘシヨク
 同家一同 ドウカイツウ
 打擄 ウチサツ
 重品 ジュウヒン
 擄へ さら
 拙家へ セツカニ
 避難被致候 ニナンセツキ
 拙家は セツカニ
 如御賢 ニホクサシ
 察 サツ
 幸に サイニ
 高 カウ
 處に候故 トコロニコトヘシ
 無難 ムナン
 御座候 ミマシラフ
 間乍憚 マカチハヤカシ
 御降 ミカウリ
 慮可被下候 リコセタマフ
 某氏へ ナニカニ
 御傳言 ミコトコトヘシ
 の儀は幸 ノニシハサイニ
 ひ拙家立退所 ヒセツカタチノクシ
 に付 ニツケ
 委敷相傳 ウチケサウデン
 申候處 マシラフ
 同氏も ドウシモ
 大に御厚意 オホクミコウイ
 相悅申居候 サウエツマシラフ
 間左 マサ
 様御承知 サマミコトシラフ
 可被下候 コセタマフ
 先は御答禮 サキハミコタマヒ
 迄草 マデクサ
 々敬具 クサクサケイグ

◎津浪見舞の文 ツナミミマヒノフミ
 拜啓承候へば御地は非常の津浪の

超群 テウグン
 超等 テウトウ
 超倫 テウリン
 超然 テウゼン
 的當 テキトウ
 的然 テキゼン
 適當 トウダウ
 適然 トウゼン
 適情 トウセイ
 適意 トウイ
 敵營 テキエイ
 敵手 テキテ
 躑躅 チツヂツ

御別條無之候哉 ミワケヂョウムシコトナシ
 同上 ドウジョウ
 同上 ドウジョウ
 同上 ドウジョウ
 明記無之候故 メイキムシコトナシ
 安堵 アンブ
 御所有 ミソウユ
 御濱藏 ミハマザウ
 御鹽田 ミシホ
 如何哉と存候 イカニシヤカキ
 草々 クサクサ
 敬具 ケイグ

◎同返事 ドウヘンシ
 御懇切に ミコンケン
 御見舞書 ミミマヒガキ
 御厚意 ミコウイ
 誠 マコト
 不意 フイ
 甚敷 シバシバ
 打驚候 ウチオドロシ
 自宅 ジタク
 幸 サイ
 別條無之 ワケヂョウムシ
 難地 ナンチ

由新聞紙上にて承知致驚入候貴家 ユウシンブンシヨウニテタメシラフシバオドロシイタサマノミヤカ
 御別條無之候哉同上候御居住の邊 ミワケヂョウムシコトナシドウジョウコトヘシミヤカノキヨウジノヘ
 り云々の儀は明記無之候故其内安 リクニクニノニシハメイキムシコトナシコトヘシナカニ
 堵は致居候へ共御所有の御濱藏御 ツボハシバシバニシラフヘトモミソウユノミハマザウノミ
 鹽田等も有之候事故如何哉と存候 シホノヘトモアリコトナリシヤカキイカニシヤカキ
 先は右御見舞申上度草々敬具 サキハミダミミマヒマシラフサマノトククサクサケイグ

◎同返事 ドウヘンシ
 御懇切に御見舞書御贈被下御厚意 ミコンケンニミミマヒガキヲミコトヘシテマシラフサマノミコウイ
 難有存候誠に不意の津浪にて甚敷 ナンアリタマフコトナリシバフイノツナミニシバシバ
 打驚候自宅は幸に別條無之怪我致 ウチオドロシジタクニハサイニワケヂョウムシワザシバ
 候者も無之候へ共鹽田に難地に相 コトナリシヤカキムシコトナシコトナリシヤカキシホニナンチニ

○漢語解

○文章註解

○書簡之類 普通門

一切退く波に相奪れ
 穢敵ナヨロス
 支敵ナヨル
 拒敵ナヨル
 押敵ナヨル
 過難ナヨル
 閉難ナヨル
 傳承
 傳播
 傳烽
 傳郵
 傳觀
 傳習
 傳軍

一切退く波に相奪れ候にござらぬ候は、安穩に不
 幸中の幸福かあらはせ、御
 答禮あらはせ、草々
 ○負傷見舞の文
 誰様も、御負傷危
 難の御事、災難をうけ、如
 其後、御容體の御事、如
 何に御座候哉、伺上候
 御伺可申上の處、過日
 來、風邪にて、時々發熱致
 して、外出難致候に付、

當り候故石垣等一切相崩れ濱藏り
 又退く波に相奪れ候併し自宅安穩
 に御座候丈は不幸中の幸福と存居
 候先は右御答禮迄草々
 ○負傷見舞の文
 唯今承候には誰様御事御負傷被成
 候由危険の御事に御座候御災難と
 は乍申御氣の毒の御事に存候其後
 御容體如何に御座候哉伺上候小生
 參堂御伺可申上の處過日來風邪に
 て時々發熱致し外出難致候に付、

阿諛
 阿世
 阿附
 愛憎
 愛撫
 愛惡
 曖昧
 曖然
 哀憐
 哀激
 哀訴
 哀情
 過密
 過止

阿諛、以書中にて御當人様
 阿世、頓首
 阿附、同返事
 愛憎、御書にて御懇切に格別
 愛撫、大疵は僅に、淺
 愛惡、墜落致候事故
 曖昧、打身致し、甚
 曖然、骨幹は日々、接骨
 哀憐、一週間の全
 哀激、治可致す、乍憚り
 哀訴、休神と、御來書
 哀情、貴君の御風邪、御大
 過密、患には無之候哉
 過止、感胃のやまひ諸病の基

略儀以書中御見舞申上候乍憚御當
 人へ宜敷被仰上度候頓首
 ○同返事
 御書拜讀御懇切に御見舞被下難有
 存候格別の大疵には無之僅に淺疵
 に候へ共何申も車より墜落致候事
 故打身致し甚く骨幹相打候に付日
 々接骨療治相受居候併し一週間も
 相立候は、全治可致と存候間乍憚
 御休神可被下候御來書にては貴君
 の御風邪の由御大患には無之候哉

○漢語解

○文章註解

○書簡之語 普通門

左論 ロクン コロナ
 詐謀 サマウ コロナ
 詐術 サマウ 同上
 詐冒 サマウ コロナ
 詐僞 サマウ コロナ
 詐虛 サマウ コロナ
 查照 サマウ コロナ
 查點 サマウ 同上
 查閱 サマウ 同上
 鎖國 サマウ コロナ
 鎖港 サマウ コロナ
 差等 サマウ コロナ
 差謬 サマウ コロナ
 差別 サマウ コロナ

御禮に可罷出の處引移早々諸事取
 亂居候に付不取敢書狀を以て御禮
 申上當用相濟次第參館致し緩々可
 奉萬謝候頓首
 ◎醫師へ診察を頼む文
 拜啓時下大暑の候に候處先生益御
 清福御消光被遊奉賀候陳ば小生儀
 少々腹痛の氣味有之今朝より外出
 見合せ居候依て甚恐縮に候へ共午
 後御廻診の節御立寄相願度候格別
 大層の事も無之候へ共時候柄故用

之事 シノコト 時候柄 トキサマ 用
 心相加置度候也 ココロカキマセタマフコトナリ
 唐書 カラガキ 先方
 際 サマウ 同上
 材能 サイノウ 同上
 祭典 サイテン 同上
 祭祀 サイシ 同上
 祭神 サイシン 同上
 再會 サイカイ 同上
 再會 サイカイ 同上
 採取 サイシュ 同上
 齋戒 サイカイ 同上

○病氣報知の文
 兩三日前打臥候間
 病やまひ 危篤のやういふ老年より
 萬一之事なご遺憾のこりお
 御報致置候し御歸宅かへり
 可然存候おもひます 右而已

心相加置度候諸又豫て申上置候唐
 畫先方より参り有之候間其際御一
 覽可被下候拜具
 ◎病氣報知の文 びやうき
 取急申送候父儀兩三日前より病氣
 にて打臥候間御承知可被成候別段
 何病と申にても無之所謂年病と存
 候今以危篤と申にても無御座候へ
 共何分老年の事故萬一之事有之候
 ては遺憾と存候故御報致置候御都
 合にて歸省相叶候はゞ一應御歸宅

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

雜駁ザツバク 雜居ザツキ 雜話ザツワ 雜沓ザツツ 參朝サンテウ 參與サンイ 參謀サンボウ 參考サンカウ 殘人ザンジン 殘兵ザンペイ 漸新ゼンシン 通説ツウセツ 飲酒インシュ 使酒シシュ

至りいたるにたつて何れのの醫師いし 手てをはな離はなされれたらばいやがらばこの誠まことにま加か護ごりた致ち方は無な 之の誠まことにま加か護ごりた致ち方は無な 御歸宅おきたく被ま下くだ度た候う 御氣見舞おきみまひのの文ぶん

肅啓しゆくけい 御儀ごぎ 御病臥おびやう 御容體ごようたい 如何いかにに御座候ござう哉や 御一家ごいつか 御心痛ごしんつう 奉察候ほうさつう 早々はやはや 日來ひらい 昨夜さつや 歸宅きたく 致候ちう 何分なんぶん 時とき

候處う此こ節せつにいたりた何れのの醫師いしもも皆々みなみな 手てをはな離はなされれたらばいやがらばこの誠まことにま加か護ごりた致ち方は無な 上うはは神佛しんぶつのの加護かごよりより致方無ちうはつな之のとと存ぞん 居候い就しゆては御相談ごさうだんもも申上まうし度た候うにに付つ 此書ここのしよ着ちやく次第だいだい御歸宅おきたく被ま下くだ度た候う草々くさくさ

病氣見舞びやうきみまひのの文ぶん 肅啓しゆくけい 承候じやううへは誰様たれさま御儀ごぎ御病臥おびやうのの由よし 御容體ごようたい如何いかにに候哉ござう 御一家ごいつか 御心痛ごしんつう 奉察候ほうさつう 早々はやはや 御見舞おみまひもも可申上まうしのの處ところ過あ日ひ 來き旅行りょこう致居ちいう昨夜さつや漸しんくく歸宅きたく致候ちうにに付つ 延引えんいん致候ちう段たん御仁恕ごにじよ可被か下くだ候う何分なんぶん 時とき

〔キ部〕 延引えんいん致候ちう段たん御ご 仁恕にじよ可被か下くだ候う時とき 貴顯きけん 貴族きぞく 貴閥きふつ 歸遣きせん 歸期きき 歸洛きらく 歸順きじゆん 歸伴きばん 歸向きかう 歸降きかう 歸服きふく 鬼怪きがい

延引えんいん致候ちう段たん御ご 仁恕にじよ可被か下くだ候う時とき 下くだ不ふ順じゆん 貴顯きけん 貴族きぞく 貴閥きふつ 歸遣きせん 歸期きき 歸洛きらく 歸順きじゆん 歸伴きばん 歸向きかう 歸降きかう 歸服きふく 鬼怪きがい

病氣びやうき全快ぜんくわいをを報はすす 病氣びやうき全快ぜんくわいをを報はすす 病氣びやうき全快ぜんくわいをを報はすす

下くだ不ふ順じゆんのの折柄せりがらにに付つ御加養ごかやう專一せんいつにに存ぞん 候何れう不ふ日にち參堂さんどう御見舞おみまひ可申上まうし候うへ 共不取ともとれ敢あ以書面いしよめん如斯ごとにに御座候ござう敬具けいぐ 拜啓はいけい時とき下くだ向暑かうしよのの節せつにに御座候ござう處ところ愈よ御 清適せいじやく御送ごそう光被ひかり成奉なり賀候がう陳ちんばば老父らうふ儀 春來しゆんらい病臥びやう中ちゆうはは毎々まいまい御懇切ごこんせつにに御尋被ごじん 下くだ殊しゆにに御見舞おみまひ品しんにに預ありり難有なんいう存候ぞん此 節せつ漸しんくく藥効やくかう相見さうみ見み之の全治ぜんぢ致候ちう間かん乍あ憚 御放念ごはうねん可被か下くだ候う就しゆては近日きんじつ床とこ上あ祝 致候ちうにに付つ御招申ごまうし度た候うへへ共御遠方ごゑんぱうの

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

鬼誅キチウ 御遠方ミトウホウ 不任マカセズ
 忌諱キキ 他日タジツ 御尊來ミソノキ
 忌憚キハヤシ 期キ 候ウケ 御ミ 百拜ヒャクハイ
 帆籠キハコ 病氣ビョウキ 全快ゼンカイ 祝イハヒ
 帆籠同上
 耆老シヨウ 文
 耆宿シヨク 御賢父ミケンフ 様サマ 豫カネ
 饑饉キウケン 此程ココロ 御全快ミゼンカイ 御病臥ミビヤウ
 飢寒キカン 欣賀キンガ 候ウケ 御一同ミイツウ
 飢色キシキ 御心痛ミシンツウ 奉察ホウサツ 候ウケ
 飢渴キカク 御全治ミゼンチ 藥効ヤクキウ 御看ミカン
 奇計キケイ 病ビョウ 參館サンカン 拜面ハイメン 之上ノ上
 奇計キケイ 以書面シヨウメン 奉賀ホウガ 上ノ上

事故サコ 不任意偏マカセズ 他日タジツ 御尊來ミソノキ を期
 し候ウケ 右御禮ミマダマ 申上度マウシウケド 如此コノカド 御座候ミマダマ 百拜
 ◎病氣ビョウキ 全快ゼンカイ を祝イハヒ する文コト
 肅白ソクハク 承候ウケ へば御賢父ミケンフ 様サマ 豫カネ て御病臥ミビヤウ
 の處ココ 此程ココロ 御全快ミゼンカイ の由ユ 奉欣賀ホウシンガ 候何申
 も御長々ミナガシ の事故サコ 御一同ミイツウ 御心痛ミシンツウ 奉恐ホウコウ
 察候サツウケ 斯カド く御全治ミゼンチ 相成候サマウケ 事藥効コトヤクキウ にも
 候へ共トモ 一ヒト は御看病ミカンビョウ の御行届ミユキトド 故ユ と存
 上候何れ不日フツツ 參館サンカン 拜面ハイメン の上御歡可
 申上候へ共トモ 先は以書面シヨウメン 奉賀ホウガ 上候草
 々敬白ツツケイハク

奇功キコウ 候ウケ 敬白ケイハク 文コト
 奇才キサイ ◎病氣ビョウキ 全快ゼンカイ 祝イハヒ に
 奇童キドウ 人を招く文ヒトヲマケルコト
 規矩キコウ 温暖オンナン 之砌ノカケ 御全家ミゼンカ
 規摸キモ 御多祥ミタシャウ 奉賀ホウガ 候ウケ
 規制同上
 規範同上
 麾下キカ 御小生ミコシ 豫カネ て毎々ツネツネ
 麾下キカ 殊コト 御見舞品ミミマヒ に預り
 器機キキ 午後キゴ 御座候ミマダマ 全治ゼンチ 致候チウウケ
 器機キキ 爲差ヒサ 駒走ウマシ 之候ノウケ 御貴臨ミキリン 被下度候
 騎隊キタイ 刻キ 御案内ミアンナイ
 騎歩キポ ◎出養生デウシヤウ を勸むる文

◎病氣ビョウキ 全快ゼンカイ は人を招く文ヒトヲマケルコト
 謹啓キンケイ 時下トキノシタ 溫暖オンナン の砌ノカケ 御座候ミマダマ 處御全
 家御揃カミミソ 愈御多祥ユミタシャウ 奉賀ホウガ 候陳ウケ ば小生豫
 て病氣ビョウキ の節ノセ は毎々ツネツネ 御見舞被下殊ミミマヒ 小生豫
 御見舞品ミミマヒ に預り難有存候ミミマヒ 然るに未
 命數相盡メイジウサウジン 不申歟フマシヤ 此節漸コノセ 漸シブシブ 全治ゼンチ 致候
 故來コト 何日午後ナニツキキゴ 聊床シヤカド 上祝ウケ 致度為差
 馳走チソウ も無之候ナシ へ共例刻トモレキ 御貴臨ミキリン 被下
 度候右御案内ドウミアンナイ 迄草々
 ◎出養生デウシヤウ を勸むる文
 肅呈ソクテイ 先夜サキヨ は參堂仕御不快サンドウシミフク の處長座

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

騎將キシヤウ 先夜せんや 参堂さんどう 御不快ごふくたい 期程キチョウ 刺刺キキツ 幾旬キシュン 欺罔キウワウ 欺詐キツサ 欺給キキツ 伎倆キリヤウ 疑猜ギサイ 疑事ギジ 議事ギジ 議官ギカン

肅呈しゆてい 先夜せんや 参堂さんどう 御不快ごふくたい 期程キチョウ 刺刺キキツ 幾旬キシュン 欺罔キウワウ 欺詐キツサ 欺給キキツ 伎倆キリヤウ 疑猜ギサイ 疑事ギジ 議事ギジ 議官ギカン

致御面めん 倒相成候たうさうじやうきやう 歸宅きたく 致していたして よりより 熟じゆつ

故見晴こけはら 無之市街ななしちがい 御養生ごやうじやう 被まか

成候なりきやう 不宜山水ふいざんすい 景色けいしき 敷處敷處 或はあるは

海邊かいへん 眺望たうぼう 宜敷地いしきち 御出養生ごしゅつやうじやう

方可たから 然存候ぜんぞんきやう 右愚見みぎぐみけん 申述候まうじゆつきやう 間醫師まかんいし

御談ごだん 御決心ごけつしん 可被成候たからなりきやう 草々くさくさ

拜啓はいけい 其御地そのごち へ御出養生ごしゅつやうじやう の後のち は拜面はいめん

不致候ふちきやう 處日ところひ 々御快方ごくわいほう 被為赴候たからなりきやう 哉や

伺上候かみじやうきやう 瀛車えいしや にて早速たつそく 被參候たからなりきやう 地故一ちこゝ

○出養生先へ病氣

見舞の文

其御地そのごち へ御出養生ごしゅつやうじやう の後のち は拜面はいめん

○出養生先へ病氣見舞の文

拜啓はいけい 其御地そのごち へ御出養生ごしゅつやうじやう の後のち は拜面はいめん

議定ギテイ 議長ギヤウ 義俠ギキヤク 義憤ギフン 義舉ギキョ 義塚ギキョウ 儀術ギジュツ 儀制ギセイ 儀典ギテン 蟻附ギツク 蟻聚ギク 戲場ギバヤ 稀浴ギバク 喫飯キツパン

伺上候かみじやうきやう 一應いちやう 件今兩三日けんけふにふたみか

他行難たかみじやう 相濟次第さうじやう 拜趨はいすう 心算しんさん 以書中いしやうちゆう 餘はあま

御面語ごめんご 讓り候ゆるりきやう

御面語ごめんご 讓り候ゆるりきやう

出養生先しゅつやうじやう より容體ようたい を報はつ

體を報する文たいをはつするぶん

以書簡いしよかん 申上候まうじやうきやう 當地ちゆうち 出養生しゅつやうじやう の後のち は殊こと

氣分きぶん も爽快さうくわい を覺おぼ え其故そのこゝ にや藥効やくかう

著いちじやく く相見あひま え尚なほ 又また 有名ゆうめい の温泉おんせん 故ゆゑ 此こゝ

力ちから によ り候きやう 半歟はんぐ 兎う に角かく 日々ひひ 快方くわいほう

趣候おもむき 間ま 乍はな 憚はな 御放慮ごはうりよ 可被下候たからなりきやう 誠まこと に

○出養生先より容體

應御見舞おうごけんぶ 申度存居候まうどぞんきやう 處御承知ところごじやうち の件けん

にて今兩三日にてけふにふたみか は他行難たかみじやう 致相濟次第いたさうじやう

拜趨はいすう の心算しんさん に御座候ござきやう 先は以書中まうしやうちゆう 御見舞ごけんぶ 迄餘は御面語いたごめんご に讓り候ゆるりきやう 草々くさくさ

出養生先しゅつやうじやう より容體ようたい を報はつ

以書簡いしよかん 申上候まうじやうきやう 當地ちゆうち 出養生しゅつやうじやう の後のち は殊こと

氣分きぶん も爽快さうくわい を覺おぼ え其故そのこゝ にや藥効やくかう

著いちじやく く相見あひま え尚なほ 又また 有名ゆうめい の温泉おんせん 故ゆゑ 此こゝ

力ちから によ り候きやう 半歟はんぐ 兎う に角かく 日々ひひ 快方くわいほう

趣候おもむき 間ま 乍はな 憚はな 御放慮ごはうりよ 可被下候たからなりきやう 誠まこと に

詰問ルヒツ 慮じあん 市中な至極閑
詰責セル 静し山水の絶佳り
詰旦アケキ 心得も言はれざる氣色
許諾スル 暫時は心をも被奪候
許多アタタ 心をも被奪候
巨細コトコ 此様子に候へば一週
巨大ホホキ 本復す候草々不既
巨艦グンガ 出養生先より全
巨萬タカシ 快歸宅を報ずる
虚妄ウソ 文
虚威ウラマ 豫て其地出養生中は毎々
虚耗ナリナク 御慰問被下殊に遙々該地迄御尋に
渠魁カシラ 該地迄るまで御尋候
恐怖コハガル 報せし全く本復致候候

市中と違ひ至極閑静にて山水の絶佳得も言はれざる氣色暫時は爲に心をも被奪候此様子に候へば一週間の中には本復歸宅可仕候間左様御承知可被下候草々不既
◎出養生先より全快歸宅を報ずる文
豫て其地出養生中は毎々御慰問被下殊に遙々該地迄御尋に預り難有存候然る處豫て御報申上置候通全く本復致候故昨夕景歸宅

恐嚇オドス 昨夕景歸宅の歸宅仕候
恐懼オンル 早速に全快の御報
恐惶同上 祝するに迎來人
胸臆 打續き其暇を得
胸壁 ずまらぬ乍失敬
狂妄 報旁らせがら以書中にて今
狂直ヨロジキ 夕該地
篋筒 〇死去を報ずる文
篋底 以別使申上候誰事豫て病臥の處看
詢々イラガシ 病は手を盡し候へ共
詢々ナソレル 薬石終に効を奏
詢々ナラズ せず今曉何時何十分死去致候に付
誑惑ダマシ 死去致候候 此段御報
教導ナリヘ 報知し出棺し他に種々

仕候早速御禮の爲め可罷出儀に候へ共全快を祝するに迎來人打續き其暇を得ずまらぬ乍失敬報旁らせがら以書中御禮申上候今夕は誰も參り不申候故緩々該地の御話致度候草々不備
◎死去を報ずる文
以別使申上候誰事豫て病臥の處看病手を盡し候へ共薬石終に効を奏せず今曉何時何十分死去致候に付此段御報知申上候出棺は來る何日午後何時と相定め候へ共他に種々

○漢語解

○文章註解

○漢語之部 普通門

橋背アナムキ
 何處の伯母様は引續
 にてはまりつ 勿々
 〇悔の文
 謹啓でます今曉ありの御永
 眠之由つたし 驚入候ひつ
 強弱ヨロイト
 強盛カシナリ
 行幸エキ
 行伍ヘイシ
 行列ナラヒ
 極歡コビロ
 曲直ツルメ
 極死シケイニ
 久滞モトマデ
 〇忌中見舞の文

御相談申上度儀も御座候間此使同
 道にて御越被下度候何處伯母様は
 此間より引續にて滞留被致居候間
 左様御承知可被下候勿々
 〇悔乃文
 謹啓承候へば誰様御事豫て御病氣
 の處御養生不被為叶今曉御永眠の
 由驚入候御全家御一同様には無御
 愁傷被成候事と奉恐察候此一封甚
 薄儀に候へ共御靈前に供し候間御
 納受可被下候右御悔迄草々敬具

久延ヒ
 究竟
 鞠育シゲタル
 鞠治
 鞠間同上
 舊來
 舊法
 舊典同上
 舊習ナラヒ
 舊弊
 叙舊カカル
 泣血
 泣涕
 泣謝ルキリヒ
 〇忌明の禮文
 秋冷に御安靜に御

〇忌中見舞の文
 肅白御送葬後は漸次に御淋敷御過
 被成候半御生前の御事杯被想起候
 ては御涙の種と察上候唯々後々御
 追福の御事御大切に存上候時々參
 堂致し御慰申上度候處日々多忙に
 打紛れ圖らず御無沙汰に打過候乍
 憚御一同様へ宜敷御致聲可被下候
 先は御忌中見舞迄草々拜具
 〇忌明の禮文
 謹啓秋冷に御座候處愈御安靜御消

〇漢語解

〇文章註解

〇非簡之部 普通門

給料	消光被成をなせし奉賀候に
給侍	豫てせんた 弊家送葬の
給事同上	送葬之節に遠方へお出
給資	御會葬被下りたり奉 賜謝
急遣	候に申上す 忌中にて
急迫	毎々御慰問被下り
緊急	是亦本日 忌明け
緊要	満中陰志に候へ共聊満
勤勞	被下度候敬白
勤直	○僧侶を請する文
勤王	以書面啓上仕候 逐日冷氣相増候處
錦旗	御上人様愈御静全に被為在奉賀候
禁闕	陳ば來る何日は亡父の何回忌に相
禁苑	

光被成奉賀候陳ば豫て弊家送葬の節は遠方御會葬被下難有奉賜謝候其後又忌中には毎々御慰問被下是亦難有存候本日忌明に付右厚く御禮申上候此一品粗末に候へ共聊満中陰志の驗迄に呈上仕候間御納受被下度候敬白

○僧侶を請する文
以書面啓上仕候逐日冷氣相増候處御上人様愈御静全に被為在奉賀候陳ば來る何日は亡父の何回忌に相

窘急	被為在候にて
窘困同上	亡父
〔工部〕	法會營度候に御來
諛言	駕被下度候に當日
諛臣	の容に御讀經の思
險言	召しおきようを自身乍失敬
險越	なすれい書狀持參て代人
愉快	を以てかほり草々頓首
勇裁	
勇退	○佛事に人を招く文
勇戦	春暖之候に御全家
〔メ部〕	御安全に御消光被
盟主	成なされ何十何廻忌なんん
盟約	くわい祥月つきだ 佛事なんん

當り候に付法會營度候間御來駕被下度奉願上候當日客は何時に付何時より御讀經の思召に被成下度候右自身罷出御願可申上答に候へ共乍失敬書狀持參代人を以て奉願候尤も當日は御迎の者差出し可申候草々頓首

○佛事に人を招く文
拜啓春暖の候に御座候處御全家御揃愈御安全御消光被成奉賀候陳ば來る何日亡父何十何廻忌祥月命日

○漢語解

○文章詳解

○書簡之部 普通門

盟會 <small>メイカイ</small>	相營度 <small>サイエイタク</small>	御繁忙 <small>ミハシバウ</small> 之處
盟背 <small>メイハイ</small>	御迷惑 <small>ミメイワク</small>	に付佛事 <small>ブツジ</small>
名實 <small>メイジツ</small>	當日 <small>ツギヒ</small> 午前 <small>マウゼン</small> 御光 <small>ミクワウ</small>	に存候 <small>ゾクケウ</small> へ共粗末 <small>ソマツ</small> の酒飯 <small>シウハン</small> 差上 <small>サウジヤウ</small> 度候間
名望 <small>メイボウ</small>	來被下度候 <small>ライヘイゲドケウ</small>	當日午前 <small>ツギヒマウゼン</small> 何時 <small>ナニトキ</small> より御光 <small>ミクワウ</small> 來被下度候
名族 <small>メイソク</small>	内 <small>ウチ</small> に順首 <small>ジュンシュ</small>	右御案内 <small>ミウケイアンナイ</small> 迄 <small>マデ</small> 如斯 <small>コトカド</small> に御座候頓首
名籍 <small>メイセキ</small>	○退隱 <small>タイイン</small> を賀する文	謹啓 <small>キンケイ</small> 近頃 <small>チカカ</small> は暫 <small>シバシバ</small> く御無音 <small>ミムネ</small> に打過候處
面陳 <small>オモテヂン</small>	此程 <small>ココロハ</small> の御家督 <small>ミケカク</small> 御引 <small>ミヒキ</small>	愈御健康 <small>ユミケンカウ</small> に被為 <small>レ</small> 在奉南山 <small>ニホウナンサン</small> 候陳 <small>チン</small> ば此
面談 <small>オモテダン</small>	息 <small>ソク</small> 御隱宅 <small>ミカク</small> の御事 <small>ミコト</small> 而已 <small>ミ</small>	程承候 <small>チヤウヂヤウケウ</small> へば御家督 <small>ミケカク</small> 御令息 <small>ミメイソク</small> へ御渡 <small>ミワタ</small> し
面折 <small>オモテセツ</small>	御事 <small>ミコト</small> 而已 <small>ミ</small> の御隱宅 <small>ミカク</small> へ御引 <small>ミヒキ</small>	に相成 <small>チヤウヂヤウ</small> 豫 <small>ヨ</small> て御好 <small>ミヨウ</small> の御隱宅 <small>ミカク</small> へ御引 <small>ミヒキ</small>
綿々 <small>ワタワタ</small>	存候 <small>ゾクケウ</small> 直 <small>ナホ</small> に參堂 <small>サンドウ</small>	の由爾後 <small>ユニニノチ</small> は雅遊 <small>ミヤユ</small> の御事 <small>ミコト</small> 而已 <small>ミ</small> 誠 <small>マコト</small> に御
〔三〕部	可仕等 <small>カシトウ</small> は賀品持參 <small>カヒンヂサン</small> に	羨敷 <small>ウラヤシク</small> 存候直 <small>ゾクケウナホ</small> に御歡 <small>ミウレ</small> の爲 <small>タメ</small> 參堂 <small>サンドウ</small> 可仕等

未然 <small>ミゼン</small>	て罷出度存 <small>マカリイデゾク</small>	に候へ共賀品持參 <small>ミカヒンヂサン</small> にて罷出度存 <small>マカリイデ</small>
未來 <small>ミライ</small>	躑躅致居候次第 <small>チツヂツシヤウジ</small> に御座候	躑躅致居候次第 <small>チツヂツシヤウジ</small> に御座候不取敢 <small>フテケン</small> 以
未完 <small>ミクワン</small>	座候 <small>ザケウ</small> 以書中 <small>シヤウチュウ</small> に	書中賀上候迄 <small>シヤウチュウカウジヤウ</small> 如斯 <small>コトカド</small> に御座候敬具
未詳 <small>ミシヤウ</small>	賀上候 <small>カウジヤウ</small> 敬具 <small>ケイキ</small>	○家督相續 <small>カクサウジツク</small> を賀する文
未定 <small>ミテイ</small>	○家督相續 <small>カクサウジツク</small> を賀する文	一書拜呈仕候承候 <small>ヒツクハシテマウケウ</small> へば今般御家督
未遂 <small>ミズイ</small>	一書拜呈仕候承候 <small>ヒツクハシテマウケウ</small>	御相續被成候 <small>ミサウジツクレタケケウ</small> 由奉恭賀候 <small>ユホウキヤウケウ</small> 貴家 <small>キケ</small> とは
未熟 <small>ミジュク</small>	般 <small>ハン</small> の御相續被成候 <small>ミサウジツクレタケケウ</small>	數世御懇意 <small>スウセミケンイ</small> の間柄 <small>マナガ</small> に付御代相變 <small>ミタカヒカ</small> り
密謀 <small>ミツボウ</small>	奉恭賀候 <small>ホウキヤウケウ</small> と貴家 <small>キケ</small>	候共不相變 <small>ケウキフサウカヒ</small> 御交際 <small>ミカウサイ</small> の程奉希上候 <small>チヤウホウキウジヤウ</small> 乍
民庶 <small>ミンシヤウ</small>	數世御懇意 <small>スウセミケンイ</small> の程奉希上候 <small>チヤウホウキウジヤウ</small>	失敬何品一種聊賀意 <small>シツケイナニヒツシツカキヤウイ</small> を表する爲め
民政 <small>ミンテイ</small>	上候 <small>ウケウ</small> 御交際 <small>ミカウサイ</small> の程奉希上候 <small>チヤウホウキウジヤウ</small>	晋呈致候間御納受可被下候先は右
泯滅 <small>ミンメツ</small>	失敬 <small>シツケイ</small> の一種聊賀意 <small>ナニヒツシツカキヤウイ</small>	御慶賀迄草々敬白
致身 <small>シヤウシ</small>	表する爲め <small>ウラヤシク</small> の御慶賀 <small>ミウレ</small>	
贖身 <small>シヤウシ</small>	呈 <small>テイ</small> 御慶賀 <small>ミウレ</small>	

○漢語解
○文章註解
○書簡之部 普通門
百六十三

〔シ部〕
 四聰ハツシイ 稍シ春暖たるかき各位さま
 四海コトチウ 御健勝しやに 御消光被為
 四股チアシ 在なされし奉恭賀候とまひまを
 至情チウケノ 老父のちくし本年に古稀
 至厚チウケチ 之齡を持ち候にたります内
 至敬チウケチ 祝仕度ひがしいは 格別つ御
 至幸チウケシ 招申程之馳走も無之候
 至慘チウケゴ さいはのほかい 一盞献度候間
 至酷同上 たいしゆをあけ明す 御貴臨被下
 至當ヘチウマ 度候さいたいた 何れもな御
 至愚チウケカ 多忙には候へ共いそがし
 私見チウケシ 御縁合せ候まひまを
 私論チウケシ 〇壽旦を賀する文

〇壽旦に客を招く文
 謹啓稍春暖相催候處各位愈御堅勝
 御消光被為在奉恭賀候陳者老父儀
 本年古稀の齡を持ち候に付聊内祝
 仕度格別御招申程の馳走も無之候
 へ共緩々一盞献度候間明日午後
 二時御貴臨被下度候何れも御多忙
 には候へ共御縁合せ被下候は幸
 甚に存候也右御案内迄草々敬白
 〇壽旦を賀する文
 拜啓春暖の節に御座候處尊堂愈御

私憤チウケシ 春暖之節は尊堂
 私儀チウケシ 御多祥とまひま 御尊父様
 私儀チウケシ 被為成候由重疊目出度
 私儀チウケシ 疊なく古來稀共可申候
 私智チウケシ 學なく古來稀共可申候
 私怨チウケシ 事御賀筵のさかきり百
 市井チウケチ 事を打捨おいて無御辭
 市肆チウケチ 退きなく参趨可仕候まひま
 市政チウケチ 甚輕微に候へ共いそがし
 市租チウケチ 慶賀之驗のしは呈上仕
 市塵チウケシ さいし御受納まひま
 市隱チウケシ 〇祭禮に人を招く文
 使役チウケチ 御健全しやに 奉賀候まひまを
 使節チウケチ 例年之通しついでに 夏祭
 使令チウケチ なつまつりの 格別馳走進は無

多祥に被為在奉賀候陳は御尊父様
 本年古稀に被為成候由重疊目出度
 奉存候就ては御内祝被成候進御招
 に預り難有存候古來稀共可申候成
 御賀筵に付百事を打捨無御辭退参
 趨可仕候此品甚輕微に候へ共慶賀
 の驗迄に呈上仕候間御受納可被下
 候敬具
 〇祭禮に人を招く文
 拜啓愈御健全奉賀候陳は来る何日
 は例年の通夏祭に付格別馳走進は

〇漢語部 〇文章註解 〇書翰之部 普通門 百六十五

使節シセツ 之候へ共いっしょ地車ヂクルマ
 使酒シユ 船渡御フネワタリ 御等ミタラシ 觀物ミモノ
 史策シサク 宵宮ヨミヤ 御泊掛ミヨリヅケ
 史臣シシ 御連ミツル 御遠ミト
 刺客シカク 御光來被ミコウライ
 刺繡シシュ 下度シタタ 御案内ミ案内
 謬謀シボウ 草々不備クサクサフビ
 諮詢同上
 弒殺シサツ 懇翰コンカン 尊宅ソンタク 御壯ミタツ
 弒逆シシツ 健ケン 奉賀候ホウカウ
 緇徒シヤツ 祭禮サイレイ 奉謝候ホウシャウ
 緇侶同上
 死罪シズイ 御地ミヂ 有名ユウメイ
 死士シシ 拜觀致度ハイケンシタ 御厚ミコウ

無之候へ共地車船渡御等の觀物有
 之候故御子達様御連被成宵宮より
 御泊掛にて御越可被下候自宅には
 御子達様の御連も御座候間無御遠
 慮御光來被下度右待上候先は御案
 内迄草々不備
 ◎全返事
 懇翰拜讀尊宅御掬御壯健に被為在
 奉賀候陳ば御祭禮に付御招に預り
 難有奉謝候御地御祭禮は有名の御
 神事に付小兒共豫て拜觀致度と申

詞蹟シジツ 意イ 相傳候處サイデンカウ
 從轉シヤン 殊之外打悦居候シツノヘウチエツケ
 梓行シヤウ 乍鐵面シヤテツ 無御ミコ
 士民シミン 辭退シタイ 御令閨ミコノイニ
 始祖シソ 一同様イツドウヤウ 御致聲ミコシヤウ
 尸位シイ 視察シサツ 書籍シヤク 借覽シヤク
 咨嗟シサ 一昨日イチノケ 途中チュウチュウ 失敬シツケツ
 紙幣シヘイ 仕候シカウ 其節ミセツ 御書籍ミシヤク
 厮役シヤク 嗣續シヨク 暫時シヤン 拜借致度候ハイシヤク
 耳學シガク 御取替ミコカヘ 拜讀致度候ハイダク
 耳食シヨク 御取替ミコカヘ 拜讀致度候ハイダク
 耳語シゴ 也ヤ 既イ

居候事故御厚意相傳候處殊の外打
 悦居候依て乍鐵面無御辭退可罷出
 候乍憚御令閨始め御一同様へ宜敷
 御致聲可被下候敬復
 ◎書籍の借覽を乞ふ文
 拜啓一昨日は途中失敬仕候陳ば其
 節一寸御話申上候御書籍暫時拜借
 致度候尤數冊の事に付二三冊宛漸
 次御取替にて拜讀致度候也該書は
 既に絶版に相成世に珍ら敷物に候
 へば御秘藏の事は豫て承知致居候

○文章註解

○文章註解

○文章註解

兒位ジキ 絶版ぜつぱんの御秘藏ごひそう 御承諾ごしょうだく 被下おろされ 候まゐり 頓首とんしゅ

兒童ドウ 御承諾ごしょうだく 被下おろされ 候まゐり 頓首とんしゅ

兒輩コトモ 御承諾ごしょうだく 被下おろされ 候まゐり 頓首とんしゅ

兒藏コトモ 御承諾ごしょうだく 被下おろされ 候まゐり 頓首とんしゅ

爾曹ニニ 貴書きしよ 拜讀はいどく 陳ちん 一昨日おととい 御話ごわ の何々なに の

爾曹ニニ 貴書きしよ 拜讀はいどく 陳ちん 一昨日おととい 御話ごわ の何々なに の

侍談ジダン 可被成候かひせうこう 取換とりかへ 云々いんいん

侍談ジダン 可被成候かひせうこう 取換とりかへ 云々いんいん

侍臣ジチン 煩雜はんざつ 御使ごしか 相渡あひだ

侍臣ジチン 煩雜はんざつ 御使ごしか 相渡あひだ

侍從ジジュウ 御對酌ごたいしやく 貴酬きしゆ 草々くさくさ

侍從ジジュウ 御對酌ごたいしやく 貴酬きしゆ 草々くさくさ

時務ジム 借りたる書籍かりたるしよせき を返却へんきやく する文ぶん をかへす

時務ジム 借りたる書籍かりたるしよせき を返却へんきやく する文ぶん をかへす

故ゆゑ 大切たいせつ に取扱とりあつかひ 可申候まをさしあがらまはせ 右御承諾ごしょうだく 被下おろされ 候まゐり 頓首とんしゅ

◎全返事

貴書きしよ 拜讀はいどく 陳ちん 一昨日おととい 御話ごわ の何々なに の書籍しよせき 御覽ごらん 被成度ひせうど 由全部よぜんぶ 相揃あひそろ 有之候ありまゐり 問と 緩々ゆるゆる 御覽ごらん 可被成候かひせうこう 二三冊にさんさふ 宛取換あてとりかへ 云々いんいん 被仰越候おほせこ へ共夫ともども にては御互ごたがひ に煩雜はんざつ と存候ぞんこう 故全部ゆゑぜんぶ 不殘ふざん 御使ごしか へ相渡あひだ 申候まをさしあがらまはせ 絶版ぜつぱん 迎相誇むかひあはれ り候程こうほど の書しよ に無之候なかりまゐり 故無御斟酌ゆゑなごしやくしやく 御覽ごらん 可被下候かひせうこう 貴酬きしゆ 迄いた 草々くさくさ

自負ジフ 拜呈はいてい 殘暑ざんしよ の朝あさ 夕ゆふ 漸やうやう

自負ジフ 拜呈はいてい 殘暑ざんしよ の朝あさ 夕ゆふ 漸やうやう

自白ジハク 相去あひさ 朝あさ 夕ゆふ 御ご

自白ジハク 相去あひさ 朝あさ 夕ゆふ 御ご

自陳ジチン 秘藏ひそう の御書籍ごしよせき の長々なが

自陳ジチン 秘藏ひそう の御書籍ごしよせき の長々なが

自訴ジソ 拜借仕はいしやくし 御ご 得益とくえき 致候いた

自訴ジソ 拜借仕はいしやくし 御ご 得益とくえき 致候いた

自首ジシュ 古代こくたい の物もの 苟且くわんじ

自首ジシュ 古代こくたい の物もの 苟且くわんじ

自艾ジアイ 致候處いた 無之なかり 之これ 深切しんせつ

自艾ジアイ 致候處いた 無之なかり 之これ 深切しんせつ

自裁ジサイ 切き 著者しよしや の傑作けつさく 充分じゆぶん

自裁ジサイ 切き 著者しよしや の傑作けつさく 充分じゆぶん

◎借りたる書籍を返却する文

拜呈はいてい 殘暑ざんしよ も漸やうやう 相去あひさ 朝あさ 夕ゆふ は餘程よほど 涼敷すずか 相成候あひせうこう 陳ちん 御秘藏ごひそう の御書籍ごしよせき 長々なが 拜借仕はいしやくし 御蔭ごかげ を以て得益とくえき 致候いた 誠に古ふる 代の物もの は苟且くわんじ に致候處いた 無之なかり 之これ 深切しんせつ に且かつ 著者しよしや の傑作けつさく 故ゆゑ 充分じゆぶん 面白味おもしろみ も有之候ありまゐり 此程このほど 漸やうやう 讀了候よみおひ に付全部つけぜんぶ 取揃とりそろ 返納仕候へんなくし 御改ごかい 御落手ごらくしゅ 被下度候おろされ 將まさ 亦また 此品このしよ 甚輕微しんけいゐ に候まゐり へ共任ともども 到來きたり 呈上まをさしあがらまはせ 仕候まをさしあがらまはせ 何れ昇堂のぼりだう 拜眉はいめい 萬々まなまな 御禮ごらい 可申上まをさしあがらまはせ 候まゐり 九拜くばい

事故マキ
 事實コト
 滋味ウイ
 滋養ナヒ
 思慕イカシ
 思想オモヒ
 決死シス
 致死イノチ
 初回ハジメ
 初志コソシ
 初政ノセイ
 書生ボシ
 書記カキ
 庶人ヒラ

○器具の借用を乞ふ文
 御清適と云け拙家兩
 三日之後おきから東國筋
 のくに來客さく心許の饗
 應すこの新世帯にへまつまの
 器具等など甚願兼候へ
 共しなまを幾個つく其間
 び拜借仕度候をたい御秘
 藏之品のもの鄭重せつ毀損
 不致様たりませぬやう注意可
 致候ます御許容いれ此
 者つかひ草々頓首

○器具の借用を乞ふ文
 拜啓愈御清適奉賀候陳ば拙家兩三
 日の後東國筋より來客有之心許の
 饗應致度候處御存の新世帯にて器
 具等相揃不申甚願兼候へ共何一組
 何幾個其間御差支無之候は拜借
 仕度候尤御秘藏の品に付鄭重に取
 扱ひ毀損不致様注意可致候右御許
 容被下候は此者へ御渡被下度候
 草々頓首

○同返事

庶民ホク
 庶務ホク
 組廻シメ
 處置キリ
 所天ツツ
 所在ロルト
 叙陳ルベ
 叙事ノベ
 除官ヤク
 除名ニソ
 除籍同上
 除隊ノゾ
 如意コノ
 如今コノ

貴翰此中存外御無沙汰致居
 御無沙汰致居候おきから
 近日に遠來の御客有
 のおき御多忙に器具
 類の手許を御用
 立可申候を御品書
 ぐのしなき如何に候哉どう
 か持合せ無之哉もつて伺
 上候をします其他たのほもの
 の御落掌可被下候り
 草々
 ○借りたる器具を
 返却する文
 肅白

貴翰拜讀此中は存外御無沙汰致居
 候陳ば近日御遠來の御客有之候由
 御多忙察上候就ては器具類御入用
 の由宜敷物は無之候へ共手許に有
 之候物は御用立可申候然るに御品
 書の内何々は無御座候故其代り
 して何品に致候ては如何に候哉尚
 親族方に持合せ無之哉相尋可申候
 へ共一寸伺上候其他は取揃へ御使
 へ御渡申候間御落掌可被下候草々
 ○借りたる器具を返却する文

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

勝算モリツ シヨウサン のおだい 拜借はいしやくこそ早速さつそくに御
 許容きよようし客事きやくじおきこし 無滞むざい
 勝遊ショウユ ヨキトチ 御借の中おんかきのうち 稀ま
 勝地 ハヤチ 成御なる御器おんぎに成なり御器おんぎにて頗おほる
 勝敗 シヨウケン 美の詞うつくしを受けうけほられ 殊ことに
 證跡シヨウケン 而目めんめくを施ほし候まはり候まはり
 證跡同上 シヨウケン 即ちすなはち持參もちさん爲な致せ
 衝突シヨウツク 候間まはたせて御收納おんしゆなうまつ明
 衝要シヨウヤウ 日ひあ 參邸さんていありまして 萬まん々じやく
 稱嘆シヨウタン 再拜さいはいおびたす
 稱讚同上 シヨウタン
 稱意シヨウイ シヨウイ 〇貸かしたる書籍しよせきを
 賞罰シヨウバツ 催促さいそくする文
 賞讚シヨウサン 貴下きげの御清穆おんせいむくを豫かねて
 賞金シヨウキン 御用立申候おんしゆだちまうし候まはり候まはり
 書籍しよせき

肅白過日は御秘藏の御道具類拜借
 願上候處早速御許容被下難有存候
 御蔭を以て客事無滞相濟申候拜借
 の中何々の御品稀成御器にて頗る
 賞美の詞を受け殊に面目を施し候
 即ち取揃へ持參爲致候間御改御收
 納可被下候何れ明日參邸萬々御禮
 可申上候再拜
 〇貸したる書籍を催促する文
 拜啓貴下愈御清穆奉賀候陳ば豫て
 御用立申候書籍此程少々編輯致度

賞格シヨウカク シヨウカク 此程このほどの少々しよじやうに編輯へんしゆ致
 賞與シヨウユ 度件たてへんをこしらへ全部ぜんぶは第
 將相シヨウシヤウ 何々の卷まき而已のみにさつめさつめさつめ
 將帥シヨウシヤウ 此者このものの他のほか催促さいそく
 將門シヨウモン 此者このものの他のほか催促さいそく
 將來シヨウライ 被下候まはり候まはり候まはり候まはり
 詳解シヨウカイ 被下候まはり候まはり候まはり候まはり
 詳計シヨウケイ 〇金圓借用の文
 詳説シヨウセツ 貴家きけの御清榮おんせいえいを以て本月
 詳言シヨウゴン この受取金うけとりを以て手違てがひの
 詳論シヨウロン 目的もくてきの日限ひかぎの支拂金しはらひ
 商人シヤウジン 目的小の少々めいせいのせうせうに不足ふそく必かならず
 商賈同上 シヤウキヤウ 落手致候らくしやうの御都合宜敷
 商販シヤウバン 候まはり候まはり候まはり候まはり
 借用仕度しやくきゆう 借入候しやくにりへば落手致候らくしやう事故じこ金何十圓

〇金圓借用の文
 拜啓貴家益御清榮奉賀候陳ば本月
 受取金手違にて目的の日限に手に
 入不申來る三十日支拂金少々不足
 に付困居候右手違候金圓は必來月
 に入候へば落手致候事故金何十圓

○漢語解

○文章註解

○漢語之部 漢語門

商船	持參可仕候	否哉
商社	御答へ願首	
商税	○同 返事	
商館	御書翰にて御受取金	
商戦	小生方は本月幸に	
商法	廻り方は被仰越	
商量	候位の金額なれば	
償債	御返濟期限の無御急	
償還	御使用可被下候	
償通	彰著	
彰著	彰義ハス	
尊敬	御印而已	
尊懼	拜復	

御都合宜敷候は、一時借用仕度右
御承知被下候は、證書持參可仕候
右否哉御答相待候頓首

○同 返事

御書翰拜讀御受取金御間違にて御
入用の由小生方は本月幸に廻り方
宜敷被仰越候位の金額ならば御用
立可申候御返濟期限は來月中にて
宜敷候間無御急御使用可被下候證
書の儀は成規通に無之候共御懇意
の間柄に候へば唯御印而已にて宜

毘官	○貸品を斷る文
毘進	御紙面拜讀
翫翫	御使用不致品
翫逸	御用立可申之處
翫獄	昨日無據外方
翫獵	依頼の誠にて折惡敷時
翫懸	御用立兼候
翫脚	問はるに、不惡御承知
翫語	可被下候は猶他
翫物	に持合せ候品
翫懼	貴答へ早々
翫墨	○不快に付約束を
翫索	斷る文
翫尺	

敷候間左様御承知可被下候拜復

○貸品を斷る文

御紙面拜讀陳は何々の品御入用の
由平日使用不致品に付差當り自家
には不用候故早速御用立可申の處
實は昨日無據外方より依頼に付貸
渡申候誠に折惡敷時にて御差支に
可相成候へ共御用立兼候間不惡御
承知可被下候猶他に何成共御入用
の物御座候は、持合せ候品は御用
立可申候貴答迄草々

漢語解

文章註解

非斷之部 普通門

上國ジヤウコク スチヤウ
拜啓ハイレイ 午後ゴゴ 何處ナニトコロ 也
上ウヘ 謁ケツ 候マシ 御同行ミナトウリョウ 致候シマシ 過刻クワコク
上ウヘ 變ヘン 候マシ 歸宅キキヤク 之後ノチ 少々シウシウ 寒氣サムイ を催メカ し 追々シウシウ
上古コノ 發熱ハツネツ 頭痛ダウツウ を覺え 臥フシ 候マシ
乘興シヤウキョウ 候マシ 故コト 臥フシ 候マシ 臥フシ 候マシ
乘除シヤク 候マシ 本日コンニチ 右ミダリ の次第シダヒ
乘弊シヤク 候マシ 先方サキカタ 萬端マンタン 御ミ
乘時シヤク 候マシ 委任ニニ 致候シマシ 間マ 宜敷イシキ 願上ネガハシ 候マシ
乘勢シヤク 候マシ 書シヤク のてがわり 草々クサクサ 不宣フセン
情實シヤク 候マシ 情態シヤク 候マシ
情事シヤク 候マシ 早速サツソク 申上マシ 候マシ 本日コンニチ 何處ナニトコロ 也
情史シヤク 候マシ 御同遊ミナトウリョウ 候マシ 御ミ 促メカ 被マシ

○不快フカイ に付ツキ 約束ヤクソク を斷ト る文
拜啓ハイレイ 陳チン ば午後ゴゴ 何處ナニトコロ へ御同行ミナトウリョウ 致候シマシ 御ミ
約束ヤクソク の處トコロ 過刻クワコク 歸宅キキヤク の後ノチ 少々シウシウ 寒氣サムイ を催メカ し 追々シウシウ
に罷マシ 在アリ 候マシ 依ヨ て本日コンニチ は甚シ 御約束ミヤクソク に背セ 背セ
候マシ へ共ト 右ミダリ の次第シダヒ に付ツキ 御供ミナトウリョウ 致兼シマシ 候マシ
右ミダリ 不フ 惡ク 御承知ミナトウリョウ 被下マシ 先方サキカタ へ御話ミナトウリョウ 込コ の
儀ギ は萬端マンタン 御委任ミナトウリョウ 致候シマシ 間マ 宜敷イシキ 願上ネガハシ 候マシ
先サキ は御斷書ミナトウリョウ 迄マデ 草々クサクサ 不宣フセン
○誘引ユウイン を斷ト る文
早速サツソク 申上マシ 候マシ 本日コンニチ は何處ナニトコロ へ御同遊ミナトウリョウ 御ミ

下シタ 御陪行ミナトウリョウ 可致シマシ 様サマ 申上マシ 置候マシ 處トコロ 只シカ
裏成シヤク 候マシ 遠方トウホウ より久々クク の來人キヤク 有アリ 之ノ 打捨置ウチスツケマシ
裏事シヤク 候マシ 來人キヤク にきき 打捨置ウチスツケマシ 不申フマシ
狀實シヤク 候マシ 御厚意ミナトウリョウ 不フ 惡ク
狀態シヤク 候マシ 御了知ミナトウリョウ 被下マシ 度タク 候マシ 御延日ミナトウリョウ のお客キヤク 人共ヒトトモ 御ミ 隨行ズイコウ 可致シマシ 候マシ 草々クサクサ 頓首トンスウ
○贈品ソウヒン を辭シ する文
貴家キヤク 御静ミナトウリョウ 全ゼン 御送ミナトウリョウ 光ミツ 被マシ 爲シ 在アリ 奉ホウ
貴重キヤク の御品ミナトウリョウ 御贈ミナトウリョウ 與被下マシ 殊シ の外ソノト 御ミ

促メカ 被下マシ 御陪行ミナトウリョウ 可致シマシ 様サマ 申上マシ 置候マシ 處トコロ 只シカ
今遠方イマ トウホウ より久々クク の來人キヤク 有アリ 之ノ 打捨置ウチスツケマシ
難申ナシ 甚シ 御厚意ミナトウリョウ に背セ 申マシ 譯ワリ 無ム 之ノ 候マシ へ
共御供トモ 致兼シマシ 候マシ 間マ 不フ 惡ク 御了知ミナトウリョウ 被下マシ 度タク
候マシ 若シカ 又マタ 明日アシタ 迄マデ 御延日ミナトウリョウ に相成サマシ 候マシ 是コト 御ミ
客人キヤク 人共ヒトトモ 御隨行ミナトウリョウ 可致シマシ 候マシ 先サキ は右ミダリ まで
草々クサクサ 頓首トンスウ
○贈品ソウヒン を辭シ する文
拜啓ハイレイ 貴家キヤク 愈トモ 御静ミナトウリョウ 全ゼン 御送ミナトウリョウ 光ミツ 被マシ 爲シ 在アリ 奉ホウ
敬賀ケイガ 候マシ 陳チン ば只シカ 今イマ は過般クワハン 聊シヤク 御心ミナトウリョウ 添ソ 致シ
候マシ 御報ミナトウリョウ 酬ウチ に迎ムカ 貴重キヤク の御品ミナトウリョウ 御贈ミナトウリョウ 與被マシ

○漢語解

○文章註解

○書簡之部 普通門

百七十七